研究資料　Research Notes

鳥取大学農学部蒜山演習林の開設に伴う記録、初期の造林事業及び林内に設定した各種試験地の記録

橋詰隼人*

Records of initial vegetation in 1954 at the establishment of the Hiruzen Experimental Forest, early afforestation and several forest research sites

Hayato HASHIZUME *

要　旨

本研究資料は、1954年に開設された鳥取大学農学部附属蒜山演習林における初期の植生、造林事業、設定された試験地の記録である。鳥取大学へ移管前の旧陸軍用地時代の利用状況、演習林開設当時の植生状況、蒜山演習林における初期の造林事業、蒜山演習林・三朝演習林・溝口演習林における各種試験地の設定状況について、地形図・樹木配置図・各種試験区の設定に関する表・試験地台帳を用いて詳細に記載した。

キーワード：試験地、初期の植生、蒜山演習林、三朝演習林、溝口演習林

目　次

頁
I.　はじめに ……12
II.　旧陸軍用地の利用状況 ……12
III.　蒜山演習林開設当時の植生の状況 ……13
IV.　蒜山演習林の初期の造林事業 ……13
V.　蒜山演習林針葉樹試験地の設定状況 …14
VI.　蒜山演習林広葉樹試験地の設定状況 …18
VII.　三朝演習林試験地の設定状況 ……24
VIII.　溝口演習林試験地の設定状況 ……25
蒜山演習林針葉樹試験地台帳 ……41
蒜山演習林広葉樹試験地台帳……67
三朝演習林試験地台帳…… 111
溝口演習林試験地台帳…… 129
付図1 蒜山演習林の試験地位置図…… 137
付図2 三朝演習林の試験地位置図…… 140
付図3 昭和30年頃までの蒜山演習林およびその付近の林地の利用状況と植生… 141
付図4 現在の蒜山演習林の林相図…… 142

*鳥取大学名誉教授（〒680-0061 鳥取市立川町5丁目72-4）
Professor Emeritus, Tottori University, 5-72-4, Tachikawa Tottori, 680-0061, Japan

I. はじめに

鳥取大学蒜山演習林は、昭和29年（1954年）に、川上村内の林地360haが旧大蔵省より旧文部省に移管されて設立された。筆者は昭和28年から32年まで5年間蒜山演習林主任を兼務し、同演習林の整備に深く関わってきた。またその後広葉樹開発実験室の責任者として試験地の設定に努力してきたが、平成7年に停年により退職した。退職に当たり各試験地に標柱を立て、また試験地台帳一綴りを蒜山演習林事務所に保管しているが、試験地の場所、試験木の配置、配列、植栽材料などについて十分に説明しておらず、筆者以外の者がこれらの試験地を利用しようとする場合に困難を生ずる恐れがあると思い、書き残した記録と過去の記憶をたどって整理した。林業は成果が出るまでに長期間を要する。蒜山演習林は設立後すでに48年を経過し、最初に植栽したスギ林は伐期に達しているが幼齢林も多い。それぞれの試験地が目的を達するためには更に長期間の試験を要する。誰もが利用できるように記録を整理しておくことは設定者の責務と考えてとりまとめたものである。本記録の整理に当たっては長年筆者と共に試験地の設定に関わってきた元主任福富章氏（川上村在住）に大変お世話になった。厚くお礼を申し上げる。なお、蒜山演習林に保管している試験地台帳は福富章氏が整理したものであるが、昭和63年以降は筆者が記録した。

蒜山演習林、三朝演習林、溝口演習林には針葉樹と広葉樹の植栽試験地が数多く設定されているので、多くの方々がこれを利用して成果を出して下さるよう希望するものである。

（注意）本演習林に設定されている試験地を調査する際には、試験地台帳と試験地の設定記録を見て場所、植栽材料の配置、配列、採種（穂）源、育苗法、植栽方式、保育状況などを確認すること。

II. 旧陸軍用地の利用状況

明治31年に軍馬育成牧場とするために旧徳田村（現在の川上村）地内919町歩（内上徳山分374町歩、三平地区140町歩）が国に買い上げられた。明治32年に陸軍軍馬補充部大山支部旭川派出部が置かれ、土塁や畜舎が建設された。大正6年に派出部は大山支部へ引き揚げ、育成牧場は廃止になった。その後軍用地は地元へ払い下げの話が出たが、価格のことで手が出ず、民間の資本家が買い受け、昭和2年に払い下げられた。三平地区は地元の延助、天王部落が借り受け、牛馬の放牧場に使用してきた。昭和10年に蒜山原陸軍演習場設置のために川上、八束両村の5,400町歩が陸軍省に接収された。しかし、演習に支障のない限りにおいて採草放牧に利用し、樹木の薪炭材としての利用も認められていた。昭和20年、敗戦とともに旧軍用地は大蔵省普通財産となり、国有地に監視人（福原氏）が置かれて管理されたが、採草、放牧、薪炭材の伐採等は従来の慣行が認められていた。

主な地区の利用状況は次の通りである。図-1にA,B,C,D,Eで位置を示してある。

A. 三平（ミヒラ）地区・・・昭和20年頃まで和牛の放牧に利用されていた。横手道から上は毎年山焼きが行われていた。

B. 天谷（テンダニ）地区・・・昭和12年に山乗茂衛氏が大同合資より木材を買い取り、昭和12年から15年の間にクリ材（枕木）、ナラ材（柄物）を伐採した。

C. 西の谷地区・・・昭和9年に法華嘉蔵氏が大同合資より木材を買い取り、昭和9年から16年の間にナラ材（柄物、船の甲板、木炭）を伐採した。西の谷本谷と鍛冶屋谷の合流点（現在の堰堤の所）に移動式製材所があった。

D. 西の谷和牛放牧地・・・軍馬育成牧場廃止後苗代部落が借り受け、和牛の放牧に使用した。

昭和 33 年まで毎年山焼（火入れ）が行われたが、事故があり、昭和 34 年以降山焼きを中止した。和牛の放牧はその後 10 年ぐらい続いた。

E. 苗代（ナワシロ）谷カヤ刈り場・・・苗代地区民のカヤ刈り場で、昭和 33 年まで毎年山焼きが行われていた。カヤの必要な人はその後も刈り取りを行っていた。

III. 蒜山演習林開設当時の植生の状況

鳥取大学農学部演習林報告第 1 号（1958）によると、開設当初の演習林内の植生状態を次の四つに分けている（図 -1 参照）。

1. 草本を優占種とし少数の矮小灌木を散生的に混生する地域・・・演習林の最北端大平から瓜菜沢牧場への入口付近の稜線〔19 林班へ、チ小班、26 林班ロ、ハ小班、29 林班ロ小班、30 林班へ、ト、ホ、ニ小班など〕は瓜菜沢牧場の山焼きの延焼によりススキやササ地となり、その中にカシワやタニウツギが散生していた。池が平（11 林班ニ小班）、天谷谷筋（10、11，12 林班の谷筋）、建石が平の平坦地（6，10 林班の平坦地）、川上谷谷筋（7 林班の谷筋）などのカヤ場は地元民の採草地として利用されていたと思う。
2. クリを優占種とし、コナラ、クヌギ等を混生する広葉樹林の地域・・・建石が平奥地、天谷谷筋の北向斜面（10、11，12 林班）などで、鉄道の枕木採取後のクリの不良木が純林状に残っていた。
3. コナラ、クヌギを優占種とする広葉樹林の地域・・・川上村、天谷、楢尾畝、宿浪小谷、西の谷の一部などはコナラ、クヌギが優占し、下木としてカシワを混交していた。
4. アカマツを優占種とする地域・・・内海乢（ウツミタワ）周辺、建石が平土塁付近、池が平土塁付近にはアカマツの大径木が数本まとまって残っており、これをもとに現在の 3、4 林班、6、7，10 林班のアカマツ林は天然更新したものである。
5. その他・・・23 林班のブナ林、ミズメ林は伐採を免れた大径母樹から更新したものと思われる。32，33，34 林班のコナラ林は、昭和 34 年以降（山焼きを中止してから）に更新したものと思われる（昭和 28 年頃はカヤ場であった）。

IV. 蒜山演習林の初期の造林事業

造林事業は最初昭和 28 年に川上谷入口第 1 林班ヌ小班に行った。次いで天谷筋に炭窯を築いて炭焼きしながら造林を進めた。川上谷は炭窯を 2 基築き、奥地は中原部落に払い下げして 12 林班から順次スギ、カラマツ、ヒノキを植栽した。宿浪小谷は徳山部落へ払い下げし、炭焼きをしながら跡地にスギ、ヒノキを植栽した。

一般造林に用いた種苗

カラマツ…松本市の種苗店から種子を購入し、蒜山演習林苗畑で育苗して植林に用いた。

スギ…天谷 12 林班イ小班の谷筋平坦地のスギ林は沖の山スギさし木苗を植栽したもので、倉吉市の山本苗圃から苗木を購入した。その他の天谷のスギ林は川上村森林組合からの購入苗で、ボカスギ（11 林班、イ小班）が含まれている。11 林班イ小班と 12 林班イ小班の境界付近に沖の山スギさし木苗の植栽地がある。

ヒノキ…天谷、川上谷、宿浪小谷および 6 林班のヒノキ林は、試験地を除き森林組合からの購入苗である。

V. 蒜山演習林針葉樹試験地の設定状況（表－1）

(1) 台帳番号 1. スギ在来品種植栽試験地

場所：第 16 林班イ小班、面積 1.30ha、昭和 31 年（1956）4 月設定。沖の山スギ実生苗ほか 3 品種を植栽。各品種の配置は台帳の見取図を参照のこと（41 頁）。

植栽材料：

- 沖の山スギ実生苗・・・鳥取大学農学部（鳥取市吉方）林学科苗畑の周囲に防風用に斉藤雄一教授が植えていた沖の山スギ数本から種子をとり、蒜山演習林内海谷（ウツミダニ）の苗畑（現在の車庫の所）で育苗し、3 年生苗を植栽した。
- 沖の山スギ青挿苗・・・岸本潤主任が鳥取県智頭町から持ち帰り、事務所の敷地内に植えていた台木より穂木をとり、挿木した。採穂台木は 10 本以上あった。2 年生青挿苗を植栽した。
- 新庄スギ赤挿苗・・・朝鍋鷲ヶ山及び新庄村野土呂側の国六林業 KK の天然スギの伏条枝をとり、事務所の苗畑で挿木した。2 年生苗を植栽した。
- 地スギ実生苗・・・川上谷入口（第 1 林班の反対側）の官行造林のスギ林（約 40 年生）の数本から種子をとり、事務所の苗畑で育苗した。3 年生苗を植栽した。

  地杉実生林は現在の林道から下の斜面で、谷筋の平坦地のスギ林は沖の山スギ挿木林である。倉吉市の山本苗圃から購入したいわゆる山本沖の山スギの 2 年生青挿苗を植栽した。

保育：下刈り、雪起こしを数年間、枝打ちを 2 回、間伐を 2 回（林道より下側の平坦地）行った。

(2) 台帳番号 2. スギ次代検定林

場所：第 11 林班イ小班内、面積 0.80ha、昭和 45 年（1970）12 月設定。

クモトオシスギほか鳥取県、兵庫県、京都府、及び石川県で選抜された精英樹のさし木苗 30 品種を列状に、1 列 20 本ずつ植栽した（見取り図参照）。精英樹クローンの間に対照木（沖の山スギ挿木苗）を列状に植林した。平坦地と傾斜地の 2 回反復区を設けた。精英樹の苗木は鳥取県林業試験場より提供された 2 年生さし木苗である。対照木は沖の山スギさし木苗（倉吉市山本苗圃産）である。精英樹の発根が悪く、成長不良のものが多く、検定林としての価値はない。

(3) 台帳番号 3. 北山スギ F1 交配種植栽試験地

場所：第 20 林班ヘ小班、面積 0.5ha、昭和 51 年（1976）10 月設定。

昭和 48 年に鳥取大学農学部樹木園（湖山町）で人工交配し、湖山苗畑で育苗した 3 年生実生苗を昭和 51 年 10 月に植栽した。

人工交配に用いた品種は、京都府京北町の山本末治氏の天然しぼスギ見本林より選抜して持ち帰ったものである。供試品種は次の通りである。

- 北山特 1 号・・・天然しぼの品種ではないが、枝張りは偏倚せず、幹は正円、通直完満、床柱あるいは磨き丸太用の品種である。
- 北山 1 号・・・出しぼの品種で、大型のこぶ状の絞がでる。天然しぼ品種芳兵衛に似ている。
- 北山 2 号・・・入りしぼの品種で、溝状に絞が出る。
- クモトオシ（雲通）スギ・・・武藤品雄氏が選抜した成長の早いスギ品種。

なお、北山スギの品種名は当方で命名したもので、山本末治氏の命名したものではない。

植栽本数は、①北山２ｘ北山１（720 本）、②北山１ｘ北山２（70 本）、③北山２自殖（70 本）、④北山１ｘ北山特１（20 本）、⑤北山２ｘ北山特１（40 本）、⑥北山特１ｘ北山１（50 本）、⑦北山特１ｘ北山２（40 本）、⑧北山２自然交配（40 本）、⑨北山２ｘ雲通（40 本）、合計 1,090 本である。鳥取県八束町の坂尾裕正氏と共同研究しており、人工交配苗木 1,000 本を坂尾裕正氏の山林に植栽した。各交配苗木の植栽位置は見取図に書いてある（台帳参照）。

(4)　台帳番号 4.　ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

場所：第 19 林班ホ小班内、面積 0.30ha、昭和 53 年（1978）1 月設定。

坂田 1 号ほか 8 品種（計 9 品種）を用い、1 列に 30 本植栽した。3 回繰り返しで、1 号区、2 号区、3 号区の 3 区を設けた（台帳の配置図参照）。苗木は関西林木育種場山陰支場より提供された。3 年生実生苗である。母樹の記録は関西林木育種場（現、林木育種センター関西育種場）にある。

(5)　台帳番号 5.　ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

場所：第 11 林班ニ小班、面積 2.90ha、昭和 54 年（1979）10 月設定。舞鶴 1 号、東伯 2 号、出石 1 号、八頭 1 号、城崎 2 号の 5 品種の系統苗（合計 19 系統）を用い、1 列に 30 本ずつ、2 ～ 4 列植栽し、各系統の植栽列の間に在来品種（対照木）を 1 列入れている。2 回反復で、下段と上段の 2 区を設けている（配列図参照）。植栽本数 3,420 本。関西林木育種場より種子を購入し、蒜山演習林苗畑で育苗した。3 年生実生苗を植栽。種子は精英樹クローンにジベレリン処理して着花させ、採種したものである。

(6)　台帳番号 6.　ヒノキ挿木苗植栽試験地

場所：第 18 林班ヘ小班、面積 0.32ha、昭和 55 年（1980）10 月設定。30 列、900 本植栽。

苗木は鳥取県智頭町森林組合より購入した。超低台式採穂園から穂木をとり、さし木したものである。

(7)　台帳番号 7.　ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

場所：第 18 林班ル小班、面積 0.50ha、昭和 56 年（1981）10 月設定。

日野 1 号、日野 5 号（2 区）、八頭 1 号、八頭 2 号、東伯 2 号、朝来 1 号、3 号、4 号（2 区）、出石 1 号、2 号、豊岡 2 号、綾部 1 号、坂田 1 号、城崎 2 号、峰山 1 号、鳥取署 102 号の計 16 系統を用い、日野 5 号と朝来 4 号は 2 回反復し、計 18 系統区を設け、1 系統を 2 列に谷筋から尾根へ斜面に沿って植栽している。植栽本数は合計 1,188 本である。関西林木育種場より種子を購入し、蒜山演習林苗畑で育苗、3 年生実生苗を植栽した。三朝演習林第 7 林班ト小班に同様の試験地を設定している。

(8)　台帳番号 8、9　北山スギ交配品種植栽試験地

場所：第 18 林班チ、ヌ小班、面積 0.60ha、昭和 57 年（1982）10 月と昭和 58 年（1983）年 4 月設定。

昭和 53 年 3 月に鳥取大学農学部樹木園で人工交配し、湖山苗畑で育苗した 3 年生実生苗を昭和 57 年 10 月と昭和 58 年 4 月に蒜山演習林に植栽した。人工交配に用いた品種は台帳番号 3 に記載した北山スギ天然しぼ品種を含む次の 6 品種である。

●北山特 1 号・・・天然しぼの品種ではないが、形質優良で床柱用の品種である。

●北山 1 号・・・出しぼの品種
●北山 2 号・・・入りしぼの品種
●北山 5 号・・・入りしぼの品種、成長は遅い。
●杉坂 1 号・・・京北町の山本末治氏が北山の杉坂で選抜した入りしぼの品種で、成長は遅い。
●八東 1 号（記号 H1）・・・鳥取県八東町の坂尾裕正氏が選抜した出しぼの品種。
●智頭 1 号（記号 C1）・・・鳥取県智頭町森林組合の前橋康夫氏が選抜した天然しぼの品種。入りしぼで、材はやや黒っぽい。
●クモトオシ（雲通）スギ・・・武藤品雄氏が選抜した品種。

36 組合せのうち、34 組合せ 2,383 本を蒜山演習林へ、11 組合せ 875 本を八東町の坂尾裕正氏へ送付した（表 -1、表 -2)。各組合せの植栽配列は台帳 No.8 と No.9 に示してある。

(9) 台帳番号 10. スギ精英樹クローン検定林

場所：第 21 林班ヌ小班、面積 0.50ha、昭和 58 年（1983）10 月設定。

鳥取大学農学部苗畑内のスギ精英樹採穂園 33 クローンから穂木をとり、さし木苗を養成した。記録によると合計 1,610 本を蒜山演習林へ送付し、1 回床替 2 年生苗を植栽している。各クローンの植栽本数は不明であるが、各クローンを 1 列または 3 列に斜面方向に列状に植栽している。実生スギの対照区はない。同じクローンを用いた検定林は三朝演習林にも設置した。

供試精英樹は次の通りである。

京都府で選抜・・・宮津 1 号、京北 3 号、園部 2、3, 10 号、綾部 1、3 号、福知山 2 号。
兵庫県で選抜・・・朝来 7 号。
鳥取県で選抜・・・八頭 2、9 号、東伯 4 号、日野 4、7、8、9、11、12、15 号。
島根県で選抜・・・那賀 2 号、邑智 5 号、仁多 2 号、太田 3 号、鹿足 3、4 号。
大阪営林局選抜・・・金沢署 103 号、鳥取署 103、104 号、松江署 2、3、4、5 号、日原署 3 号。

33 クローンの配列図は台帳 10 に示してある。

(10) 台帳番号 11. 南郷ヒノキ植栽試験地

場所：第 18 林班オ小班、面積 0.10ha、昭和 58 年（1983）10 月設定。

熊本県阿蘇郡高森町の篤林家馬原広男氏よりナンゴウヒの挿木苗 300 本を購入した。30 本ずつ斜面方向に 10 列植栽している。①～④の標柱が打ってある。

(11) 台帳番号 12. スギ品種別見本林

場所：第 10 林班ヨ小班、面積 0.30ha、昭和 59 年（1984）10 月設定。

精英樹クローン 15 品種（石川 11 号ほか)、ヒノデスギ、ヤブクグリ、ヒズモスギ、北山特 1 号および、北山 5 号は 2 年生さし木苗を植栽した。ストローブマツは米国ニューヨーク州産の種子、日本カラマツ及び F1 カラマツ（グイマツ x ニホンカラマツ）は北海道庁北見林務署新田季利氏より送付された種子。記録によると、この見本林の植栽本数は 37 系統 840 本となっている。

(12) 台帳番号 13. 木曽ヒノキ植栽試験地

場所：第 20 林班ハ小班内、面積 0.20ha、昭和 59 年（1984）10 月設定。

段戸国有林産、坂下営林署および東濃ヒノキ精英樹３品種の計５系統を植栽している。

東濃ヒノキ精英樹

恵那１号・・・恵那市東野町保古山で選抜。

恵那２号・・・恵那市串原村上沢で選抜。

恵那３号・・・恵那市長島町正家入会鍋山で選抜。

東濃ヒノキ精英樹の種子は岐阜県林業センターに依頼して入手した。各品種とも種子 50 g を蒜山演習林の苗畑へ播種し、３年生苗を山出しした。種子の発芽率は 25％であった。植栽本数は合計 360 本である。

⑿　台帳番号 14　段戸国有林産ヒノキ植栽試験地

場所：第 25 林班ニ小班内、面積 0.2ha、昭和 60 年（1985）10 月設定。

種子の入手経路は不明。段戸国有林で採取した混合種子と思う。蒜山演習林苗畑で育苗し造林した。241 本を 20 列、列状に植栽している。

⒁　台帳番号 15　ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

場所：第 20 林班イ小班内、面積 0.3ha、昭和 61 年（1986）11 月設定。

柳井２号、姥ヶ原１号、３号、山口３号、南山４号の５系統は関西林木育種場で選抜した耐やせ地性品種である。舞鶴１号、福知山２号、邑智４号、城崎２号は一般の精英樹である。耐やせ地性品種の種子は関西林木育種場より、その他の精英樹種子は関西林木育種場山陰支場より提供された。舞鶴１号を１の１、１の２、１の３、１の４に、また城崎２号を２の１、２の２、２の３に区分しているが、その理由は不明である。母樹は同じであるが、採種木が違っていることかも知れない。昭和 59 年５月に播種し、３年生実生苗を山出しした。植栽本数は合計 902 本である。植栽位置は台帳参照のこと。

⒂　台帳番号 16　アスナロ（クサアテ）二段林植栽試験地

場所：第 10 林班ロ小班内、昭和 60 年（1985）４月設定。

アカマツ林の下にクサアテ 85 本を植栽した（台帳参照）。三橋俊一氏（鳥大林学科卒業生）が石川県穴水町から持参した母樹から穂木を取り挿木苗を植栽した。

⒃　台帳番号 17　アスナロ（ヒノキアスナロ）二段林植栽試験地

場所：第 10 林班ロ小班内、昭和 61 年（1986）４月設定。

鳥取大学農学部樹木園内のヒノキアスナロ（青森県産）から穂木をとり、挿木苗をアカマツ林の下に植栽した。植栽本数は 68 本である。

⒄　台帳番号 18　リギテーダマツ植栽試験地

場所：第 10 林班イ小班、面積 0.25ha、昭和 62 年（1987）10 月設定。

鳥取大学農学部苗畑に植栽しているリギテーダマツ（リギテーダマツ×テーダマツＦ１）の自然交配の子供から種子をとり実生苗を養成した。元のリギテーダマツ親木は京都大学上賀茂試験地より提供されたもので 10 数本あったが、苗畑移転のため伐採したので現在残っていない。リギテーダマツの子供の子供であるので注意して欲しい。植栽本数は 700 本程度と思うが、三葉松であるので、すぐに判別できる。同じリギテータマツの自然交配木は鳥大の湖山苗畑にも植栽している。

⒅ 台帳番号 19　アカマツースギ二段林施業地
場所：第 10 林班へ小班、面積 0.50ha、昭和 63 年（1988）10 月設定。
0.5ha の林地にアカマツの優良木を 52 本残し、その下にスギを 1.8 m間隔に植栽した。スギは地元産（茅部産）の 3 年生実生苗である。

⒆ アカマツースギ・ヒノキ二段林（保残林）施業地
場所：第 12 林班ル小班、面積 0.36ha、平成 2 年（1990）10 月設定。
アカマツの優良木 15 本を残し、スギを 0.21ha、ヒノキを 0.15ha 植栽している。スギ、ヒノキは地元の茅部産種子で、3 年生実生苗を 1.8 m間隔に植栽している。

VI. 蒜山演習林広葉樹試験地の設定状況

(1) 台帳番号 1　ブナ母樹別系統植栽試験地
場所：第 23 林班ト小班、面積 0.70ha、昭和 52 年（1977）4 月設定。
昭和 48 年（1973 年）の大豊作の年に山本進一氏（昭和 50 年鳥大林学科卒業）と鳥取県内の山に登ってブナ種子を採集した。和歌山県産種子は前寿氏採集のものである。種子の採集場所は表－ 5 に示す。母樹別に採集したものと、数母樹から採集したもの（混合）とがある。種子は昭和 49 年春鳥大農学部苗畑に播種し、翌年床替えし、1 回床替え 3 年生苗（苗高 40 ～ 100cm)を昭和 52 年 4 月 21 ～ 23 日に試験地に植栽した。植栽本数は 2,300 本で、3.7 系統（内 20 系統は母樹別家系）を用い、系統別に斜面方向に沿って列状に植栽した。植栽間隔は苗間 1.0m、列間 1.5m である。各母樹、系統の植栽本数は表－ 5 の通りであるが、雪害や兎害などによって植栽時よりもかなり本数は減少している。植栽後 5 年間下刈りを行い、3 年間粒状化成肥料を施肥した。14 年生時に枝打ちを 1 回行ったが、2001 年現在まで間伐は行われていない。試験地は天然生のブナを残して整理伐を行った。広葉樹研究№ 5（1989）と日林論 105（1994）に研究発表がある。

(2) 台帳番号 5　ブナ植栽試験地（無施肥区）
場所：第 25 林班ル小班、面積 0.20ha、昭和 53 年（1978）11 月設定。風倒によるギャップ地にブナの植え込み試験を行った。
1973 年に大山地区で採集した種子から実生苗を育成し、台帳番号 1 のブナ母樹別系統植栽試験と同様に林地に植栽した。秋植えである。この試験地は施肥を行わず、下刈りのみ 5 年間行った。

(3) 台帳番号 10　ケヤキ在来品種植栽試験地
場所：第 25 林班リ小班、面積 0.20ha、昭和 54 年（1979）11 月設定。
昭和 51 年 10 月に鳥取大学図書館裏のケヤキ複数本から種子を取り、翌年播種、54 年 11 月に 4 年生苗を植栽した。植栽間隔は 2 m。下刈り 4 回、雪起し 1 回、施肥 1 回、枝打ち 1 回（10 年生時）行った。幼齢時に雪害（倒伏、枝折れ）と野ネズミの食害が発生した。太枝が発生しており、20 ～ 30 年生の間に枝打ちと間伐が必要である。
研究発表：多雪地帯におけるケヤキ造林木の生育と枝打ちについて．99 回日林論，1988.

(4) 台帳番号 12　キハダ産地別植栽試験地
場所：第 21 林班チ小班、面積 0.50ha、昭和 56 年（1981）11 月設定。

広葉樹開発実験室の事業でキハダの種子を各地から集めた。種子の採集地は次の6産地である。

○ 岐阜県寒冷地林業試験場・・・岐阜県宮川村打保、4齢級、胸高直径20cm、樹高9m、天然林で採取、数本の混合種子。

○ 前橋営林局・・・いわき市三和田町合戸、平署国有林、Ⅴ～Ⅵ齢級、胸高直径24cm、樹高15m、通直。混合種子。

○ 東大秩父演習林・・・埼玉県秩父郡滝村赤沢、35年生、胸高直径15cm、樹高24m、1個体から採取。

○ 静岡県林業試験場・・・富士山の標高1,000m、胸高直径20cm、樹高8m、採種個体数不明。

○ 長野県林業指導所・・・採種場所不明。

○ 鳥取県日南町・・・日野郡日南町花口、長谷川勝馬氏のキハダ林、大径優良木。

植栽本数

岐阜県林試・・・132本（6列）
前橋営林局・・・22本（1列）
東大秩父演習林・・・44本（2列）
長野県林試・・・66本（3列）
鳥取県日南町・・・120本（5列）と北向斜面
静岡県林試・・・550本（25列）

産地別試験地の植栽本数は合計890本、全体の植栽本数は1,400本。蒜山演習林苗畑で育苗し、2年生苗を植栽した。植付距離1.8～2m。植栽から2年後に積雪により幹折れ、枝折れなどが発生した。静岡県林試産のものは胴枯病により大部分が枯死した。平成10年（17年生時）に侵入木の除伐を行った。

研究発表：キハダの人工造林に関する研究（I）11年間の生育状況について．日林関西支論2, 1993.

(5)　台帳番号13　クヌギ産地別植栽試験地

場所：第22林班カ小班（1.15ha）、第21林班リ小班（0.03ha）、昭和56年（1981）11月設定。

広葉樹開発実験室の事業で全国各地から収集したクヌギ種子及び熊本県林業指導所で選抜したクヌギ優良木の系統などを植栽したが活着が悪く、地元川上村熊谷産のクヌギ苗を補植したと思う。それ故各産地系統間の比較ができないので産地試験は廃止する。しかし密度試験地は地元産のクヌギを植栽しているので、利用価値があると思う。ただしha当り6,000本植栽区で施肥試験を行っている。2001年までの保育作業は次の通りである。

● 1984年の大雪で雪害が発生し、翌春に被害木の手入れ（枝打ち）を行った。

● 1991年に枝打ちを行った。

(6)　台帳番号14　ブナ産地別植栽試験地

場所：第23林班チ小班、面積0.50ha、昭和56年（1981）4月設定。

鳥取大学蒜山演習林西ノ谷、蒜山スカイライン沿線、烏ヶ山、大山地区、扇ノ山などで採集した種子及び青森県、秋田県、新潟県、石川県、富山県、岐阜県などで採取した山引苗により産地試験地を設定した（表－6A, B）。種子の採集は昭和48年（1973年）と昭和51年（1976年）に行っており、植栽に用いた苗木は7年生（昭和49年播種）と4年生（昭和52年播種）である。山引苗は2～5年苗を採取し、1～3年間苗畑で養成しているので苗齢は5～6年

生と推定される。種子、苗木の採集場所、植栽本数などは表－6A、Bに示す。植栽に関する記録は次の通りである。

① 植栽月日・・・昭和56年（1981）5月22～23日。開葉後に植えたので枯損が多く、補植した。

② 補植・・・昭和57年（翌年）10月に行う。大山三ノ沢の山引苗を補植に用いた。

③ 植栽距離・・・1.6 m× 1.6 m。各系統を1列に20本程度植栽。本数の少ない系統は1列に二つの系統が植えてある。

④ 植栽本数は約1,270本。

保育：

① 下刈り・・・5年間行う。

② 1991年秋（10年後）枝打ち（ひも打ち）を行う。手の届く範囲の高さまで枝をとる。

③ 1997年6～7月（16年後）に侵入木の除伐を行う。

(7) 台帳番号16　ケヤキ産地別植栽試験地

場所：第32林班ロ小班、面積0.50ha、昭和57年（1982）10月設定。

種苗に関する記録

① 鳥取2号、7号、10号、11号、12号、15号、21号、22号の8系統は鳥取大学構内図書館裏のケヤキ林から昭和51年10月に個体別に採取した（上田純江採取）。

② 富山県黒部産・・・富山県黒部市古御堂の篤林家伊東森作氏より送られた種子。赤ケヤキと称している。母樹は1本か数本か不明。

③ 茨城県産・・・茨城県常陸太田市宮本町若宮八幡宮の1個体、樹齢350年、胸高周囲8.35 m。樹高30 m。天然記念物指定木。

④ 育苗・・・昭和52年4月播種、53年4月に蒜山演習林へ送付（375本）。

造林・保育に関する記録

① 5年生苗を植栽した。試験区の配列は台帳に示してある。

② 下刈りを5年間行う。

③ 雪起こしを数年間行う。

④ 第1回枝打ちを1997年5月（15年後）に行う。ただし、斜面上部は成長が悪く枝打ちを行っていない。

(8) 台帳番号17　コナラ、ミズナラ、クリ、ケヤキ産地別植栽試験

場所:第21林班リ小班、面積1.00ha、昭和57年（1982）11月と61年（1986）11月（クリ）設定。

広葉樹開発実験室の事業として全国の各地から種子や苗木を集めた。台帳の配列図に示してある東側の標柱No.1からNo.20までは枯損が多く、試験地として価値が低いと思う。西側のNo.1からNo.20までは枯損が少なく、比較的順調に育っている（台帳参照）。種子の採取源は別表（表－7）に示す。コナラ、ミズナラ、クリは蒜山演習林苗畑で育苗し、4年生苗を植栽した。ケヤキは鳥大苗畑で育苗した3年生苗と山引苗を植栽した。

植栽後下刈りを数年間行ったが詳細な記録はない。ケヤキは積雪後兎害を受け、地上1～2 mの幹枝の樹皮が食害された。

1995年（植栽から13年後）にミズナラとクリの植栽地の除伐と枝打ちを行った。

研究発表：漆器の木地としてのクリ材の利用について . 森林応用研究 7 (1998)。

(9)　台帳番号 18　トチ産地別植栽試験地

場所：第 31 林班ト小班、面積 1.00ha、昭和 58 年（1983）11 月設定。

広葉樹開発実験室の事業として全国の各地から種子を集め、また演習林に自生するトチノキから種子を採集して試験地を設定した。種子の採取源は別表（表－ 8）に示す。

苗木は昭和 55 年に播種し、蒜山演習林苗畑で育苗、4 年生苗を山出しした。山出苗の平均苗長は 90 ～ 130cm、平均地際直径 3 ～ 4cm である。産地・系統別試験には 15 産地 26 系統を用い、系統別に斜面方向に列状に 1.5 m間隔で植栽した。1ha の造林地のうち、産地・系統別試験地（No.1 ～ No.19）は 0.3ha 程度で他は一般造林地で蒜山演習林産の苗木による造林である。

植栽後の保育は、下刈りを 4 年間、雪起こしを 3 年間行った。1994 年～ 1995 年（11 ～ 12 年後)に枝打ちを行った。積雪により幹曲がり、枝抜けなどの被害が約半数の木でみられた。9 年生と 12 年生時に生育調査を行った。

研究発表:トチノキの人工造林に関する研究(I)12 年生人工林の生育について日林関西支論 3, 1994.

(10)　台帳番号 19　広葉樹植栽見本林

場所：第 10 林班カ小班、面積 0.20ha、昭和 59 年（1984）10 月設定。

ブナ、ミズメなどは生育しているが、エノキ、ケンポナシ、イイギリ、ホオノキ、アサノハカエデ、ヤマコウバシなどは野ウサギの食害あるいは雑草木の被圧により大部分が消滅した。

種子の産地は次の通りである。

ブナ・・・大山・蒜山のブナ林。
ケヤキ・・・鳥大構内のケヤキ林。
エノキ、ケンポナシ、イイギリ・・・東大千葉演習林。
トチノキ・・・蒜山演習林のトチノキ林。
アサノハカエデ、ミズメ、ヤマコウバシ、シラカンバ・・・不明。

(11)　台帳番号 20　ケヤキ植栽試験地

場所：第 32 林班ハ小班、面積 0.50ha、昭和 59 年（1984）11 月設定。

ケヤキの単植造林地で ha 当り 3,000 本程度植栽している。種子は鳥取県江府町江尾の江美神社の老木から採集した。育苗、保育などに関する資料はない。

(12)　台帳番号 21　ウルシ植栽試験地

場所：第 32 林班ニ小班、面積 0.03ha、昭和 59 年（1984）11 月設定。

岐阜県寒冷地林業試験場から送付された種で苗木を育成し造林した。母樹の産地は、高山市山田町石ヶ谷で、3 本の母樹（5 齢級、胸高直径 15 ～ 20cm）から採種している。造林後 10 年ぐらいから病気により枯れはじめ、大部分が枯死した。データが出ないのでこの試験地は廃止する（橋詰)。

(13)　台帳番号 22　ブナ産地別植栽試験地

場所：第 22 林班オ小班、面積 0.50ha、昭和 62 年（1987）11 月設定。

種子の採種場所、植栽本数などを表－ 9 に示す。

大山スカイラインを含め 14 系統を植栽している。1 系統の植栽本数は 11 ～ 183 本合計 1,180 本を 49 列に植えている。大部分は地元産のブナであるが、一部に山形県、石川県（白山）、宮崎県産のブナが植えられている。種子は昭和 57 年（1982）に採取した（山形県産のみ昭和 56 年産）。鳥大農学部苗畑で育苗し、5 年生苗（山形産は 6 年生）を植栽した。

植栽後下刈りと雪起こしを数年間行った。1994 年に大雪が積り、幹折れ、枝折れが発生したので、その年に手直しの枝打ちを行った。

⑭ 台帳番号 23　ブナ母樹植栽試験地

場所：第 26 林班ホ小班、面積約 0.3ha、平成元年（1989）4 月設置。

ブナの親子相関関係を明らかにする目的で個体別に種子を採取して植栽した。採種母樹は蒜山演習林第 23 林班内の母樹 9 本（1 号、2 号、4 号、5 号、7 号、8 号、9 号、10 号、12 号）である。母樹の位置は台帳番号 1 のブナ試験地位置図に示してある。昭和 59 年 10 月に種子をとり、鳥大農学部苗畑で育苗し、4 年生苗を植栽した。植栽間隔 1.6 m、下刈りのほかは特別の手入れを行っていない。試験地の配置図は台帳に記載している。各列の 1 列目の所に杭が打ってある。

⑮ 台帳番号 24　ケヤキ母樹別・産地別植栽試験地

場所：第 21 林班リ小班、面積約 0.3ha、昭和 61 年（1986）11 月設定。

台帳番号 17 で説明しているが再掲載する。親子相関を求めるのが目的で、母樹別に種子をとる。母樹の位置図は台帳に示してある。

種苗（採種源）：

- 鳥大 1 ～ 10 号：鳥取市湖山町の鳥取大学図書館裏のケヤキ林から個体別に種子を取る。
- 黒部：富山県黒部市古御堂伊東森作氏より提供された種子で、赤ゲヤキと称している。
- 日原：島根県日原営林署中内谷国有林より橋詰が持ち帰った山引苗。
- 福山：広島県福山営林署可部地山国有林より橋詰が持ち帰った山引苗。

植栽本数、採種母樹の形質などは表－ 11 に示す。

保育：

下刈り、雪起こしを数年間行ったが詳細は不明。平成 7 年（1995）に地上 2 mぐらいまで枝打ちを行う。

1994 年に大雪があり、積雪上に出ていた地上 1 ～ 2 mの部分の幹が野ウサギの食害を受けて樹皮が剥がれたが、植栽木が枯れるようなことはなかった。

⑯ 台帳番号 25　ブナ産地別植栽試験地

場所：第 17 林班ホ小班、面積 0.25ha、平成 3 年（1991）4 月設定。

種子の産地は表－ 12 に示す。東大北海道演習林で育苗し、全国の演習林数ヶ所に配布して植栽した。4 年生苗（岩手のみ 2 年生）を斜面に沿って列状に 1 列に 10 本ずつ植栽した。植栽間隔は 2.25 × 3 mである。東大からの送付苗は 14 産地であるが、これに地元蒜山演習林産を加え 15 産地とした。各産地の植栽本数は表－ 13 の通りで、1 産地 6 ～ 30 本であるが、10 本枯死し、現在 276 本が生育している。

手入れ：1991 年から 1995 年まで 5 年間下刈りを行った。その間に雪起こしも行った。二又や太枝は除去した。

(17)　台帳番号 26　クヌギの人工造林試験地—苗木の形態別植栽試験と肥培試験

場所：第 7 林班ワ小班、面積 1.0ha、昭和 63 年（1988）4 月設定。

1）苗木の形態別植栽試験

鹿児島県田代町迫森竹氏の養成した苗木を用いて試験した。苗木の種類と植栽本数は表-14 の通りである。

2）肥培試験

1990 年（植栽から 2 年後）に蒜山演習林産苗木の植栽地に次の施肥試験区を設けた。

①ＩＢワンス 24 個区 (N-P-K-Mg=20-10-10-3.3g/ 本)・・・・・1 列、28 本施肥。

②住友化成特号 100g 区 (N-P-K=20-10-10g/ 本)・・・・・1 列、29 本施肥。

③対照区 (無施肥)・・・・・1 列、27 本。

施肥：1990 年 4 月と 1991 年 4 月の 2 回。深さ 10cm に側方施肥した。

第 7 林班ワ小班のクヌギ造林地で苗木の形態別植栽試験地以外の造林木はすべて蒜山演習林産（採種源は川上村熊谷の牧場のクヌギ）のクヌギ苗である。

植栽間隔 1.8m、下刈り 5 年間、雪起し数年間行った。植栽から 2 年後に大雪があり、幹折れ、枝折れ、枝抜けなどが発生した。特に断幹造林区で被害率が高かった。被害木に対して手直しの枝打ちを行った。施肥の効果は顕著でなかった。

研究発表：多雪地におけるクヌギ大苗の人工造林に関する研究 , 日林関西支論 2,1993. 広葉樹研究 7,1993.

(18)　台帳番号 27　コナラの人工造林試験地

場所：第 26 林班イ小班、面積 0.2ha、平成元年 (1989)11 月設定。

直播造林と大苗の断幹造林を試験した。

1）直播造林

播種：1989 年 11 月 7 日に行う。

試験区：次の 3 区を設けた。

①竹筒区・・・直径 7cm、長さ 30cm の竹筒を地中に 10cm 埋め込み、土を入れて 3 粒播種した。

②直播施肥区・・・植穴を掘って 1 か所に 5 粒播種し、翌年住友粒状化成肥料特号を床当り 50g(N 成分 10g) 散布した。

③直播無施肥区・・・上記の方法で播種したが、無施肥である。

播種床の間隔は 1.5m。各区とも斜面方向に 3 列、1 列に 20 床播種した。

下刈りを年 2 回行う。直播区は野ネズミに食害され成功しなかった。

2）大苗の断幹造林

植栽：1990 年 4 月 13 日。4 年生苗、苗長 1.5m ～ 2m を植栽。植栽間隔 1.5m。

試験区：次の 6 区を設けた。

①無断幹無施肥区 (1 列)・・・25 本植栽。

②無断間施肥区 (4 列)・・・4 列× 25 本。

③ 1 m で断幹、無施肥区 (1 列)・・・25 本。

④ 1 m で断幹、施肥区 (4 列)・・・4 列× 25 本。

⑤ 0.5m で断幹、無施肥区 (1 列)・・・25 本。

⑥ 0.5m で断幹、施肥区 (4 列)・・・4 列× 25 本。

1 本当り施肥量：IB ワンス 12 個 (N10g) と IB ワンス 24 個 (N20g) 区、住友化成特号

50g(N10g) と 100g(N20g) 区の 4 種類。各試験区の配列は台帳 27 に示してある。

2 年後の調査結果：

①コナラは無断幹でも活着率が高い (平均 94%)。

②施肥の効果は顕著でない。

③ 1 年間の伸長量は断幹区が無断幹区よりも大きい。結論は出ていない。

研究発表：コナラの人工造林に関する研究. 103 回日林論 ,1992.

⑲ 台帳番号 28 コナラ天然更新試験地

場所:第 26 林班イ小班、面積 3.0ha、昭和 63 年 (1988)11 月～平成 2 年 (1990)11 月（3 年間、1ha ずつ伐採)

コナラ、ミズナラの優良木を ha 当り約 30 本残して不良木を伐採し、萌芽更新と下種更新を試験した。1988 年伐採地の中にフレノック粒剤散布区 (10 × 10m) を 2 か所設けた。フレノックは、1991 年 8 月に ha 当り 50kg 散布した。

本試験地の調査は 1994 年に '88 年と '89 年伐採地 (択伐後 6 年と 5 年) で行った。Ha 当り 2,500 ～ 20,000 本の実生の発生が見られた。ササ、ススキ、低木類が天然下種更新の阻害要因として挙げられた。

⑳ 台帳番号 29 ナラ類の雑種の自然交配家系植栽試験地

場所：第 12 林班ハ小班、面積 0.3ha、平成 8 年 (1996)5 月設定。

蒜山演習林およびその周辺で選抜したナラ類の自然雑種と思われるコガシワ、カシワモドキの自然交配苗木と、比較のためにカシワ、ミズナラ、ナラガシワの苗木を植栽した。苗木の植栽位置図および母樹の生育場所は台帳に示してある。また、植栽木の中でこれまでに枯死した個体と結実した個体を植栽位置図に示した。種子を採種した母樹の記録を表－ 15 に示す。コガシワ 8 個体、カシワモドキ 10 個体、ナラガシワ 2 個体、カシワ 3 個体、ミズナラ 4 個体である。

㉑ 台帳番号 30 ケヤキ一般造林地

場所：第 31 林班チ小班、面積 0.45ha、平成元年 (1989)11 月設定。

種子は日野郡江府町江尾の江美神社で採集した。蒜山演習林苗畑で育苗し、3 年生苗を 1.8m 間隔で植栽した。ケヤキの単植試験地である。5 年間下刈りと雪起しを行った。枝打は平成 13 年現在まだ行っていない。

VII. 三朝演習林試験地の設定状況

(1) 台帳番号 1 ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

場所：第 7 林班ト小班、面積 0.50ha、昭和 56 年 (1981)10 月設定。

日野 2 号、日野 5 号、朝来 1 号、3 号、4 号、出石 1 号、2 号、豊岡 2 号、綾部 1 号、峰山 1 号、飯石 1 号、仁多 2 号、3 号、邑智 4 号、那賀 1 号、松江署 1 号の 16 系統を用い、各系統を 2 列ずつ植栽している。ただし、日野 5 号と朝来 4 号は 2 回反復している。従って No.1 から No.18 まで 36 列、合計 1,188 本植栽した。1 列の植栽本数は 33 本である。各系統の配列は台帳を参照のこと。関西林木育種場より種子を購入し、蒜山演習林苗畑で育苗、3 年生実生苗を植栽した。同様の試験地 (同年度に設定) は蒜山演習林第 18 林班ル小班に設定されている。

(2)　台帳番号 2,3,4　スギ精英樹クローン検定林

場所：第 8 林班カ小班 (0.60ha)、第 3 林班タ小班（0.35ha)、第 4 林班ラ小班（0.15ha)、昭和 57 年（1982）10 月設定。第 8 林班カ小班では、日野 11 号を含め 17 クローンを 1 列ずつ 18 列 (日野 11 号のみ 2 回反復) 植栽している。1 列の植栽本数は 50 本 (No.17 の宮津 1 号と No.18 の日野 11 号は 51 本) で、合計 902 本植栽している。

第 3 林班タ小班、第 4 林班ラ小班では、14 クローンを 1 列、2 列または 3 列に、日野 11 号のみ 15 列に植栽している。1 列の植栽本数は記載されていない。各クローンの配列は台帳を参照のこと。同様の検定林は蒜山演習林第 21 林班ヌ小班に設置している。

苗木は、鳥取大学農学部苗畑のスギ精英樹採穂園から穂木をとり、さし木苗を養成し、2 年生苗を植栽した。

(3)　台帳番号 5　スギ精英樹挿木苗植栽試験地

場所：第 4 林班ナ小班、面積 0.50ha、昭和 57 年 (1982)10 月設定。

前記のスギ精英樹クローン検定林に使用した残り苗の植栽地で、クローン別に植栽していない。苗木は鳥大農学部苗畑の精英樹採穂台木から穂木をとり挿木したものである。

(4)　台帳番号 6　智頭スギ実生苗植栽試験地

場所：第 7 林班チ小班、面積 0.98ha、昭和 58 年 (1983)10 月設定。

智頭スギ実生苗の植栽地で、苗木に関する記録、植栽本数などは不明である。

(5)　台帳番号 7　広葉樹林の林相改良試験

場所：第 4 林班ハ、カ、ヨ小班内、面積 0.446ha、昭和 60 年 (1985)4 月設定。

広葉樹の優良大径材を育成する目的で、保育間伐を行った。ブナ、ミズメ、ミズナラ、クリ、ホオノキなど有用広葉樹が生育する場所を選んで試験区を設定した。試験区の位置は台帳に示してある。試験区の設定、立て木本数などは表 -17 に示す。第 1 回調査は 1990 年 (間伐 5 年後) に行った。

研究発表：落葉広葉樹二次林の間伐試験．101 回日林論 ,1990.

(6)　台帳番号 8　スギ－ケヤキ混交植栽試験

場所：第 5 林班ネ小班、面積 1.14ha の内、昭和 63 年 (1988)11 月設定。

植栽材料：ケヤキ 3 年生大苗、苗高 1.5 ～ 2m とスギ 3 年実生苗の混植。

植栽間隔 1.8m、ha 当り 3,000 本植え。ケヤキを 9m に 1 本の割合 (スギを 4 本植え、5 本目にケヤキを植える) で混植する。植栽場所及び配植図は台帳に記載している。

(7)　台帳番号 9　スギ－キハダ混交植栽試験

場所：第 5 林班ネ小班、面積 0.5ha、昭和 63 年 (1988)11 月設定。

植栽材料：キハダ 2 年生実生苗、100 本、日野町より購入。スギは 3 年生実生。

植栽方法：スギの造林地に 6m おきにキハダを混植する。キハダを千鳥植えに配植する。植栽場所及び配植図は台帳に記載している。

VIII.　溝口演習林試験地の設定状況

(1)　台帳番号 1　アカマツ、クロマツ品種別植栽試験地

場所：ヌ小班の 1、面積 0.76ha、昭和 46 年 (1971)10 月設定。
36 系統のマツが植栽されているが、母樹の樹種名、採種地、形質などに関する記述はない。

(2) 台帳番号 2　アカマツ、ヒノキ混合植栽試験地
場所：ヘ小班の 1、面積 0.35ha、昭和 47 年 (1972)10 月設定。
種苗、植栽方式などに関する資料はない。

(3) 台帳番号 3　ヒノキ、アカマツ二段林施業試験地
場所：ハ小班、面積 1.00ha、昭和 59 年 (1984)11 月設定。
上木にアカマツ優良木を残し、下木にヒノキを植栽している。種苗、植栽方式などに関する資料はない。

(4) 台帳番号 4　マツースギ・ヒノキ、マツースギ、マツースギ・キハダ、マツークヌギ二段林施業地 (一般造林)
場所：ヌ－ 2 小班 (0.63ha)　平成元年設定、ヌ－ 3 小班 (0.62ha)　平成 2 年設定、ヌ－ 4 小班 (0.41ha)　平成 3 年設定、ヌ－ 5 小班 (0.53ha)　平成 4 年設定、ル小班 (0.62ha)　平成 7 年設定。
アカマツ優良木を保残木として ha 当り 40 ～ 70 本残し、その下にスギ、ヒノキ、キハダ、クヌギを植栽している。二段林施業というよりは保残木施業である。
スギ、ヒノキの種子は川上村茅部産、クヌギは川上村熊谷産で、蒜山演習林苗畑で育苗した実生苗である。植栽方法、保育などに関する資料はない。

参考文献

斎藤雄一・近藤芳五郎・岸本　潤・橋詰隼人 (1958) 蒜山演習林植物誌．鳥大演報 , 1：1-3.
橋詰隼人 (1993) 演習林の変遷．鳥取大学農学部林学科設立五十周年記念誌 , 記念事業会 , pp. 89-99.

（2002年12月11日受理）

表-1　蒜山演習林針葉樹試験地名

台帳番号	林小班	設定年度(年, 月)	試験名	面積(ha)
1	16 イ	昭31(1956),4	スギ在来品種植栽試験地	1.30
2	11 イ	昭45(1970),12	スギ次代検定林	0.80
3	20 ヘ	昭51(1976),10	北山スギF_1交配種植栽試験地	0.50
4	19 ホ	昭53(1978),11	ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地	0.30
5	11 ニ	昭54(1979),10	〃	2.90
6	18 ヘ	昭55(1980),10	ヒノキ挿木苗植栽試験地	0.30
7	18 ル	昭56(1981),10	ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地	0.50
8	18 チ	昭57(1982),10	北山スギ交配品種植栽試験地	0.30
9	18 ヌ	昭58(1983),4	〃	0.30
10	21 ヌ	昭58(1983),10	スギ精英樹クローン検定林	0.50
11	18 オ	昭58(1983),10	南郷ヒノキ植栽試験地	0.10
12	10 ヨ	昭59(1984),10	スギ品種別見本林	0.30
13	20 ハ	昭59(1984),10	木曽ヒノキ植栽試験地	0.20
14	25 ニ	昭60(1985),10	段戸国有林産ヒノキ植栽試験地	0.20
15	20 イ	昭61(1986),11	ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地	0.30
16	10 ロ	昭60(1985),4	アスナロ二段林植栽試験地(クサアテ)	アカマツ林内
17	10 ロ	昭61(1986),4	アスナロ二段林植栽試験地(ヒノキアスナロ)	〃
18	10 イ	昭62(1987),10	リギテーダマツ植栽試験地	0.25
19	10 ヘ	昭63(1988),10	アカマツ-スギ二段林施業地	0.50
20	12 ル	平 2(1990),10	アカマツ-スギ・ヒノキ二段林〔保残木〕施業地	0.36

（注意）本演習林内の試験地調査の際は、試験地台帳で、場所、標柱、植栽配列等を確認し、さらに設定記録を一読の上、調査を進めてほしい。

表-2　北山スギ人工交配苗の植栽本数

第18林班チ小班
昭和57年10月植栽

標柱番号	交配組合せ	植栽列数	植栽本数
1	特1×北1	2	11
2	特1×北2	3	32
3	特1×北5	2	26
4	特1オープン	1	15
5	北1×特1	3	44
6	北1×北2混合	6	92
7	北1×北5	8	235
8	北1×雲通	4	72
9	北1×H1	7	209
10	北1セルフ	1	21
11	北1オープン	3	102
12	北2×特1	2	51
13	北2×北1	4	121
14	北2×北5	1	15
15	北2×H1	3	70
16	北2オープン	4	118
17	北5×特1	4	158
18	北5×北1	3	105
19	北5×H1	3	93
計			1590

第18林班ヌ小班
昭和58年4月植栽

標柱番号	交配組合せ	植栽列数	植栽本数
1	C1×北1	3	103
2	北5×北2混合	4	136
3	北5×雲通	1	30
4	H1×北2混合	1	56
5	C1セルフ	1	46
6	H1×北5	2	78
7	H1×北1	2	86
8	C1×北5	2	84
9	H1×特1	3	68
10	杉坂オープン	1	13
11	C1オープン	1	25
12	杉坂×北混合	1	25
13	C1×特1	1	24
14	C1×北2	1	13
15	H1セルフ	1	6
計			793

No-12の杉坂×北混合は、杉坂×特1、杉坂×北1、杉坂×北2の混合植栽である。

(注) 1) 特1,北山特1号; 北1,北山1号; 北2,北山2号; 北5,北山5号; 杉坂,杉坂1号; H1,八東1号; C1, 智頭1号;雲通、雲通スギである。
2) オープンは自然受粉を、セルフは自殖を示す。北2混合は、北山2号の花粉に北山1号の花粉が混ったもの。
3) 表-1の植栽本数は鳥取から蒜山へ送付した苗木数で、林地に植栽した本数と一致しない。台帳によると、昭和57年分1,170本、昭和58年分966本植栽したことになっている。
4) 各組合せの植栽場所は台帳の配列図に示してある。

表-3 鳥取県八頭郡八東町の坂尾氏へ送付した苗木数

交配組合せ	本数	交配組合せ	本数
北1×H1	200	H1×特1	50
北1×北2混合	100	H1×北2混合	50
北2×北1	100	H1×雲通	43
北5×特1	100	H1オープン	46
北5×北1	100	C1×H1	36
北5×北2混合	50	計	875

表－4 蒜山演習林広葉樹試験地名

記載番号	台帳番号	林小班	設定年度(年,月)	試験名	面積(ha)	備考
1	1	23 ト	昭52(1977),4	ブナ母樹別系統植栽試験地	0.7	
	2	19 イ	昭52(1977),11	コナラ施業試験地	0.1	廃止
	3	19 ロ	昭52(1977),11	コナラ施業試験地	0.2	廃止
	4	19 ハ	昭52(1977),11	コナラ施業試験地	0.1	廃止
2	5	25 ル	昭53(1978),11	ブナ植栽試験地(無施肥)	0.2	
	6	17 ヘ	昭53(1978),11	クヌギ施業試験地	0.1	廃止
	7	17 ト	昭53(1978),11	クヌギ施業試験地	0.3	廃止
	8	17 チ	昭53(1978),11	クヌギ施業試験地	0.1	廃止
	9	20 ト	昭53(1978),10	クヌギ採種林施業試験地	1	廃止
3	10	25 リ	昭54(1979),11	ケヤキ在来品種植栽試験地	0.2	
	11	18 ト	昭56(1981),4	クヌギ二段林施業試験地	1	廃止
4	12	21 チ	昭56(1981),11	キハダ産地別植栽試験地	0.5	
5	13	22 カ	昭56(1981),11	クヌギ産地別植栽試験地	1.18	産地試験は廃止
		21 リ		(植栽密度試験に切り替え)		
6	14	23 チ	昭56(1981),4	ブナ産地別植栽試験地	0.5	
	15	18 イ	昭57(1982),4	クヌギ二段林施業試験地	1.13	廃止
7	16	32 ロ	昭57(1982),10	ケヤキ産地別植栽試験地	0.5	
8	17	21 リ	昭57(1982),11	コナラ,ミズナラ,クリ産地別植栽試験地	1	
9	18	31 ト	昭58(1983),11	トチノキ産地別植栽試験地	1	
10	19	10 カ	昭59(1984),10	広葉樹植栽見本林	0.2	
11	20	32 ハ	昭59(1984),11	ケヤキ植栽試験地	0.5	
12	21	32 ニ	昭59(1984),11	ウルシ植栽試験地	0.03	廃止
13	22	22 オ	昭62(1987),11	ブナ産地別植栽試験地	0.5	
14	23	26 イ	平1(1989),4	ブナ母樹別植栽試験地	0.3	
15	24	21 リ	昭61(1986),11	ケヤキ母樹別,産地別植栽試験地	0.3	
16	25	18 ホ	平3(1991),4	ブナ産地別植栽試験地	0.25	
17	26	7 ワ	昭63(1988),4	クヌギ人工造林試験地	1	
18	27	26 イ	平1(1989),11	コナラ人工造林試験地	0.2	
19	28	26 イ	昭63(1988),11	コナラ天然更新試験地	3	昭63－平2年,3年間設定
20	29	12 ハ	平8(1996),5 平9(1997)・平11(1999),4	ナラ類雑種の自然交配家系植栽試験地	0.3	平8,9,11年設定
21	30	31 チ	平1(1989),11	ケヤキ一般造林地	0.45	

表－5　第23林班のブナ植栽試験の採種源と植栽本数

標柱 No..	系統名	採種場所	標高 (m)	採種 母樹数	植栽 列数	植栽 本数	胸高直径 (cm)	樹高 (m)
	上の段							
1	大山No.2	大山夏山登山道5合目	1270	混合	5	120	5.6	5.6
2	大山No.3	大山夏山登山道3合目	1100	混合	2	70	5.0	5.6
3	大山No.3(I)	大山夏山登山道3合目	1140	1本	1	30	5.7	6.1
4	大山No.4(I)	大山夏山登山道2合目	940	1本	} 1	15	5.8	5.9
5	大山No.4(II)	大山阿弥陀堂	840	1本		15	5.1	5.2
6	大山No.5(I)	裏大山文珠堂	970	1本	2	60	5.0	5.4
7	大山No.4	大山夏山登山道2合目	1010	混合	2	50	5.5	5.4
8	大山No.5(II)	裏大山文珠堂	970	1本	4	100	5.9	5.4
9	大山No.5(III)	裏大山二ノ沢	970	1本	2	60	5.1	5.5
10	大山No.6	烏ヶ山新小屋峠	980	混合	4	95	4.9	5.4
11	船上山No.1	船上山行宮跡	640	混合	2	40	5.5	5.7
12	船上山No.2	勝田ヶ山頂上	1240	混合	1	30	6.0	6.0
13	船上山No.3	勝田ヶ山80/81林班	960	混合	1	20	5.7	5.9
14	蒜山No.2(I)	スカイライン沿線	740	1本	1	16	5.4	6.3
15	蒜山No.2(II)	スカイライン沿線	740	1本	1	15	6.2	6.9
16	蒜山2(III)	スカイライン沿線	740	1本	1	17	4.5	5.8
17	蒜山No.3(I)	スカイライン沿線	920	1本	2	30	5.5	6.8
18	上蒜山No.5	上蒜山夏山登山道	1080	混合	2	40	4.3	6.1
19	上蒜山No.6	上蒜山頂上	1200	混合	1	14	3.4	5.9
20	上蒜山No.7	上蒜山オロガタワ側	1100	混合	1	15	4.2	6.6
21	上蒜山No.8	鬼面台	900	1本	1	6	4.9	6.4
22	佐治三王谷	佐治村三王谷国有林94林班	700	混合	10以上	300	4.2	6.6
	中の段							
23	氷ノ山No.3	氷ノ山越登山道の中程	1340	混合	2	70	4.9	5.6
24	氷ノ山No.4	氷ノ山越	1270	混合	2	70	5.1	5.8
25	氷ノ山No.5	セン谷コースの中程	1300	1本	4	120	5.6	6.2
	氷ノ山No.6	セン谷コース下部	940	混合	1	25	5.6	6.0
27	氷ノ山No.2	尾根登山道からセン谷コース入口	1400	混合	1	12	—	—
28	和歌山A	和歌山県美山村小川	950	1本	1	19	—	—
29	和歌山B	和歌山県美山村小川	960	1本	1	18	—	—
30	和歌山E	和歌山県美山村小川	970	1本	1	10	—	—
31	佐治北谷	佐治村北谷国有林	700	1本?	1	30	5.7	6.5
32	河合谷高原	扇ノ山林道の最高所	1050	1本	1	16	4.7	6.1
33	扇ノ山No.2	扇ノ山林道筋	850	1本	1	20	5.6	6.2
34	扇ノ山No.4	扇ノ山沢川保護林	1050	1本	1	20	5.4	6.5
	下の段							
35	扇ノ山No.3	扇ノ山林道筋	940	1本	3	60		
36	扇ノ山沢川No.5	扇ノ山沢川の林道筋	1050	1本	1	18		
37	裏大山文珠堂	裏大山文珠堂	970	混合	20以上	640		
計								

（注）１）混合は複数の母樹から種子を採集したもの。
　　２）胸高直径と樹高は植栽から20年後の各系統の平均値である。

表－6A 第23林班チ小班ブナ産地別植栽試験の採種源と植栽本数

標柱 No.	系統名	採種場所	標高 (m)	採種母樹数	植栽列数	植栽本数	備考
	西側						
1	大山夏道混合	鳥取県大山町大山夏山登山道	1100～1270	混合	1	21	
2	文珠堂混合	鳥取県江府町裏大山文珠堂	970	混合	3	58	
3	氷ノ山坂の谷	兵庫県大屋町 坂ノ谷国有林	—	混合	1	22	山引苗
4	秋田県田沢湖	秋田県田沢湖町	1000	混合	1	23	山引苗
5	白山大倉山3号	石川県白山大倉尾根	1600	混合	1	13	山引苗
6	佐治三王谷	鳥取県佐治村三王谷国有林	700	混合	1	49	
7	大山5-1号	鳥取県江府町裏大山文珠堂	970	1本	1	21	
8	大山5-2号	鳥取県江府町裏大山文珠堂	970	1本	1	21	
9	大山混合	裏大山地区	970	混合	3	63	
10	氷ノ山4号	鳥取県若桜町氷ノ山	1270	混合	1	21	
11	氷ノ山5号	鳥取県若桜町氷ノ山	1300	1本	1	21	
12	氷ノ山6号	鳥取県若桜町氷ノ山	940	混合	1	19	
13	扇ノ山沢川4号	鳥取県若桜町沢川保護林	1050	1本	1	21	
14	大山三ノ沢混合	鳥取県江府町裏大山三ノ沢	1260	混合	2	42	
15	大山三ノ沢1号	鳥取県江府町裏大山三ノ沢	1260	1本	1	21	
16	大山三ノ沢2号	鳥取県江府町裏大山三ノ沢	1260	1本	2	37	
17	大山三ノ沢4号	鳥取県江府町裏大山三ノ沢	1260	1本	2	48	
18	大山三ノ沢5号	鳥取県江府町裏大山三ノ沢	1260	1本	2	40	
19	大山三ノ沢6号	鳥取県江府町裏大山三ノ沢	1260	1本	2	42	
20	大山三ノ沢入口12号,13号	鳥取県江府町裏大山三ノ沢入口	970	1本	1	20	各々8, 12
21	大山三ノ沢入口14号	鳥取県江府町裏大山三ノ沢入口	970	1本	1	21	
22	大山二ノ沢混合	鳥取県江府町裏大山二ノ沢	970	混合	1	21	
23	新小屋峠3号	鳥取県江府町烏ヶ山新小屋峠	980	1本	2	42	
24	西ノ谷1-1号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	1	11	
25	西ノ谷1-2号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	1	19	
26	西ノ谷1-3号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	3	63	
27	西ノ谷1-5号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	1	21	
28	西ノ谷1-8号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	1	18	
29	西ノ谷1-9号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	1	13	
30	西ノ谷1-122号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	1	15	
31	西ノ谷1-206号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	1	21	
	西側 小計					888	

表－6B　第23林班チ小班ブナ産地別植栽試験の採種源と植栽本数（沢の東側区）

標柱 No.	系統名	採種場所	標高 (m)	採種母樹数	植栽列数	植栽本数	備考
	東側						
1	西ノ谷1-3号	蒜山演習林第23林班母樹林内	750	1本	2	42	枯死率高く翌年補植する
2	西ノ谷2-1号	蒜山演習林第24林班	750	1本	1	13	枯死率高く翌年補植する
3	西ノ谷2-6号	蒜山演習林第24林班	750	1本	1	10	枯死率高く翌年補植する
4	西ノ谷2-10号	蒜山演習林第24林班	750	1本	1	17	枯死率高く翌年補植する
5	西ノ谷2-11号	蒜山演習林第24林班	750	1本	1	16	枯死率高く翌年補植する
6	西ノ谷3-7号	蒜山演習林第24林班	750	1本	1	20	枯死率高く翌年補植する
7	西ノ谷4-10号	蒜山演習林第24林班	750	1本	1	16	枯死率高く翌年補植する
8	スカイライン680-1	蒜山スカイライン沿線	680	1本	1	17	枯死率高く翌年補植する
9	スカイライン680-2	蒜山スカイライン沿線	680	1本	1	13	枯死率高く翌年補植する
10	スカイライン740-1	蒜山スカイライン沿線	740	1本	1	21	枯死率高く翌年補植する
11	スカイライン740-3	蒜山スカイライン沿線	740	1本	1	15	枯死率高く翌年補植する
12	スカイライン740-5	蒜山スカイライン沿線	740	1本	1	13	枯死率高く翌年補植する
13	西ノ谷1-7号	蒜山演習林第23林班	750	1本	1	7	枯死率高く翌年補植する
	鏡ヶ成1号	鳥取県江府町鏡ヶ成	920	1本		9	枯死率高く翌年補植する
14	上蒜山5号	岡山県川上村上蒜山夏山登山道	1080	混合	1	10	枯死率高く翌年補植する
	三ノ沢入口15号	鳥取県江府町裏大山三ノ沢入口	970	1本		10	枯死率高く翌年補植する
15	大山・蒜山混合	大山・蒜山のブナ林	—	混合	7	145	枯死率高く翌年補植する
16	富山県上平村	富山県上平村	—	混合	4	92	山引苗
17	八甲田山	青森県八甲田山	—	混合	2	46	
18	高山三吉谷	岐阜県宮川村三吉谷	950	混合	3	69	山引苗
19	高山裏俣	岐阜県宮川村裏俣	950	混合	1	23	山引苗5本三吉谷
20	苗場山	新潟県湯沢町苗場山国有林	1100	1本	1	23	
21	西ノ谷1号	蒜山演習林第23林班	750	1本	1	23	
22	西ノ谷2号,5号	蒜山演習林第23林班	750	1本	3	不明	3列目の谷側8本が5号
23	大山三ノ沢混合	鳥取県江府町裏大山三ノ沢	1260	混合	8	約160	
	東側　小計					830	
	合計					1718	

(注)(1)　混合は複数の母樹から種子を採取したもの。
(2)　東側区のNo.1からNo.15までの植栽列は枯損率が高く、翌年の秋に改植した。従って系統名に記載した母樹の子供でない。

表－7　ミズナラ、ケヤキ、クリ種子の採取場所，母樹の大きさ，植栽列数

ミズナラ

標柱 No.	系統名	採種場所	母樹 採種母樹数	齢級	胸高直径(cm)	樹高(m)	植栽列数
西側 1	蒜山北の谷	蒜山北ノ谷	混合	—	—	—	1
2	笛吹山三の沢	裏大山三ノ沢笛吹山	混合	—	—	—	1
8	東大秩父演習林	埼玉県秩父郡大滝村川俣	1本	—	20	12	1
9	北海道新2号	北海上川郡新得町	1本	15	44	18	1
10	岩手県民の森	岩手県松尾村県民の森	混合	6	—	—	2
11	東大富士演習林	記録なし	—	—	—	—	1
12	北海道新1号	北海道上川郡新得町	1本	12	32	12	1
13	北海道新166号	北海道上川郡新得町	1本	15	46	18	2
14	九大宮崎演習林	記録なし	—	—	—	—	3
15	遠藤1号	岡山県上斉原村遠藤国有林	混合	—	30	—	1
16	遠藤2号	岡山県上斉原村遠藤国有林	混合	—	—	—	
17	遠藤3号	岡山県上斉原村遠藤国有林	1本	—	50	—	
18	東大富士演習林	記録なし	—	—	—	—	1
19	岐阜県林試	岐阜県大野郡清見村巣ノ俣	天然生	10	40	15	1
20	北海道新4号	北海道上川郡新得町	1本	15	40	15	2

注）昭和54年9～10月に採種。混合は数本の種子。

ケヤキ種子，苗木の採取場所

標柱 No.	系統名	採種場所	種苗
1～10	鳥大1号～鳥大10号	鳥取大学図書館裏のケヤキ林	個体別種子，3年生苗山出し
11	黒部	黒部市古御堂伊東森作の赤ケヤキ	混合種子，3年生苗山出し
12	日原	島根県日原町日原営林署中内谷国有林	山引苗
13	福山	広島県三和町福山営林署可部地山国有林	山引苗

クリ

標柱No.6　九大宮崎演習林産。宮崎県東臼杵郡椎葉村宮崎演習林第24林班内。
採種母樹の詳細は不明。

表－8 トチノキ種子の採種場所，採種木，植栽列数

標柱 No.	系統名	採種場所	採種木 本数	採種木 DBH(cm)	植栽列数
林道の上の斜面					
1	扇ノ山沢川	鳥取県若桜町沢川国有林第12林班	混合	60-110	2
2	陣鉢山3号	鳥取県若桜町東因幡林道筋	2本	60-65	4
3	扇ノ山畑ヶ平2号	兵庫県温泉町菅野畑ヶ平国有林	混合	40-70	2
4	蒜山北ノ谷	蒜山苗代川上流北ノ谷国有林	混合	—	4
5	愛知県林試	愛知県北設楽郡豊根村	1本	75	2
6	若桜町諸鹿	鳥取県若桜町諸鹿	混合	—	6
7	和歌山県林セ1号	和歌山県大塔村富里	2本	70，100	2
8	蒜山西ノ谷30-1号	蒜山演習林西ノ谷本谷第28林班	1本	115	1
9	三本木営林署	青森県十和田町幌内山国有林	1本	60	1
10	富山県白木峰	富山県八尾町白木峰	1本	30	2
11	蒜山西ノ谷4号	蒜山演習林西ノ谷第31林班	1本	100	2
12	蒜山西ノ谷混合	蒜山演習林西ノ谷	混合	—	2
13	岐阜県寒冷地林試1号	岐阜県荘川村黒谷	1本	120	2
14	和歌山県林セ2号	和歌山県大塔村富里	2本	50，90	1
15	東大秩父演習林	東大秩父演習林字大除沢	混合	75	1
16	蒜山鍛冶屋谷2号(大ドチ)	蒜山演習林鍛冶屋谷第23林班	1本	幹周8.3	2
17	東大北海道演習林	北海道富良野市山部町東大演習林樹木園	1本	51	1
18	蒜山西ノ谷32-2号	蒜山演習林西ノ谷本谷	1本	—	1
19	和歌山県林セ3号	和歌山県大塔村富里	1本	130	1
20	混合	残り苗の混合	混合	—	5
林道の下の平坦地					
22	扇ノ山畑ヶ平1号	兵庫県温泉町菅野畑ヶ平国有林	混合	—	3
23	扇ノ山鹿野1号	鳥取県八東町妻鹿野	混合	50-100	1
24	京大芦生演習林	芦生演習林第5林班	1本	60	2
25	岐阜県寒冷地林試2号	岐阜県荘川村三谷	1本	25	4
26	蒜山西ノ谷32号	蒜山演習林西ノ谷本谷	1本	—	4
27	蒜山鍛冶屋谷1号	蒜山演習林鍛冶屋谷第25林班	1本	—	6

注）昭和54年(1979)9～10月に種子を採集する。混合は数本の種子。

表－9 第22林班のブナ植栽試験の採種源と植栽本数

標柱 No.	系統名	採種場所	標高 (m)	採種母樹数	植栽本数	植栽列数	備考
1	大山スカイライン	岡山県川上村スカイライン沿線	950	混合	11	1	手前の11本が
	寒河江営林署	山形県大江町沢口清水国有林	600	1本	9		スカイライン
2	白山	石川県白峰村	970	混合	16	1	
3	大山三ノ沢入口	鳥取県江府町裏大山三ノ沢入口	970	混合	20	1	
4	烏ヶ山鏡ヶ成	鳥取県江府町鏡ヶ成	920	混合	39	2	母樹 200年生
5	古口営林署	山形県戸沢村古口中沢国有林	440	1本	42	2	直径58cm
6	寒河江営林署	山形県大江町沢口清水国有林	600	1本	42	2	直径65cm
8	大山御机	鳥取県江府町御机	900	混合	63	3	
9	大山文珠堂	鳥取県江府町裏大山文珠堂	970	混合	130	6	
10	烏ヶ山新小屋峠	鳥取県江府町烏ヶ山新小屋峠	980	混合	129+12	6	6列目の12本は大山産
11	大山三ノ沢	鳥取県江府町裏大山三ノ沢	1260	混合	147	6	
12	蒜山西ノ谷	岡山県川上村鳥大蒜山演習林	750	混合	156	6	
13	九大宮崎地方演習林	宮崎県椎葉村九大演習林	900	3本	183+7	7	7列目の7本は大山産
7	毛無山	岡山県新庄村毛無山	1000	混合	53+5	2	2列目の5本は大山産
14	大山混合	裏大山900～1260m	—	混合	116	4	
合計					1180	49	

注）混合は数本の落下種子を混合したもの。山形県産は1982年3月に、その他は1983年3月に鳥取市湖山町鳥大農学部苗畑に播種した。

表－10 家系別ブナ植栽本数

家系	列数	本数*
1号	1	20
2号	12	400
5号	1	20
7号	2	80
8号	1	17
9号	3	120
10号	1	40
12号	1	40
4号	3	240
計		1037

*注）昭和62年11月に蒜山演習林へ送付した本数で、植栽本数は不明。昭和60年3月播種。

表－11 ケヤキ産地別植栽試験、植付本数と採種母樹の形質

標柱 No.	系統名	植付本数	列数	備考	採種母樹の形質		
					胸高直径	樹幹形	総合判定
1	鳥大1号	15	1	16番目からの23本は江美神社産	1号28cm	少曲	
	江美神社	23					
2	鳥大2号	38	1		2号36cm	通直	優良木
3	鳥大3号	38	1		3号32cm	通直	
4	鳥大4号	19	No.4,5合わせて1	手前の19本が鳥大4号	4号30cm	通直	優良木
5	鳥大5号	18			5号34cm	少曲	
6	鳥大6号	37	1		6号35cm	通直	優良木
7	鳥大7号	15	No.7,8合わせて1	先端の7本は混合苗	7号31cm	少曲	
8	鳥大8号	15			8号28cm	通直	優良木
9	鳥大9号	37	1		9号29cm	少曲	
10	鳥大10号	37	1		10号22cm	曲り	
11	黒部	74	2		—	—	—
12	日原	74	2		—	—	—
13	福山	69	2		—	—	—
14	混合	17	1		—	—	—
計		503	15	系統外30本			

植栽本数合計533本，母樹は鳥取大学図書館裏のケヤキで，母樹の位置と各系統の植栽配列は台帳に記載してある。親子相関を求めることができる。

表－12 ブナ種子の採取地の記録

産地名	採取地	標高	採取月日	採取者(提供者)	母樹
大平山	北海道島牧村黒松内営林署事業区183林班い小班	160m	1986.9.29	永豊担当区澤田 優	母樹3本混合 D50-H20, D54-H21, D42-H18
黒松内				(森林総合研究所 長尾精文)	
白井川	北海道寿都郡黒松内町白井川道有林	不明	1986.9.27-10.27	倶知安林務署黒松内事業区竹田新治	2本
木古内	北海道知内町木古内営林署1154林班い2小班	270m	1986.10.3	碁盤沢担当区三沢信一郎	DBH48cm, H17m, Crown12m
三戸	青森県三戸郡新郷村大字戸来 字戸来岳三戸営林署114林班る小班	不明	1986.9下-10月上	三戸営林署経営課	樹齢131年 保護樹帯
三本木				(森林総合研究所 長尾精文)	
岩手	岩手県盛岡市岩手大学植物園	不明	1988.10.4	岩手大学演習林 戸沢俊治	D40cm-H15m
日光	栃木県中禅寺湖畔			(森林総合研究所 長尾精文)	
秩父	埼玉県東京大学秩父演習林突出峠	1600m	1986.10.20・27	東京大学秩父演習林	数本
山梨	山梨県山中湖村旭が丘県有林	1050m	1986.10.3	山梨県林業技術センター 長田十九三	樹齢80-100年 No.1=D44cm-H14m No.2=D30cm-H14m No.3=D50cm-H18m No.4=D40cm-H16m No.5=D54cm-H16m
長野	長野県飯山営林署木島山155林班り小班	1150m	1986.10.9	関東林木育種場	6本 D70cm-H20m
沼津	静岡県駿東郡小山町			(森林総合研究所 長尾精文)	
天城	静岡県田方郡天城湯が島町182林班b2小班	1040m	1986.10.6	天城営林署	1本
福井	福井県福井営林署管内冠山	900-1000m	1986.10.11 11.10	福井県立短大 畑野健一	天然林
芦生	京都府美山町 京都大学芦生演習林16林班	No.1 710m No.2 660m No.3 635m	1986.10.3	京都大学芦生演習林	No.1=D42cm-H18m No.2=D64cm-H22m No.3=D37cm-H15m
高知	高知県土佐郡本川村			(森林総合研究所 長尾精文)	
高千穂	宮崎県西臼杵郡高千穂			(森林総合研究所 長尾精文)	
矢部	熊本県矢部営林署管内	1470m	1986.10.17	矢部営林署	5本
八代	熊本県八代営林署管内	1500m	1986.10.21	八代営林署	樹齢150年 4～5本

表－13　ブナ産地試験の植栽列数と植栽本数

産地	列数	植栽本数	生存本数	備考
蒜山	1	10	10	
大平山	3	29	29	
白井川	2	20	20	
木古内	2	20	20	
三戸	1	10	10	
岩手	3	26	24	
蒜山	1	10	8	
秩父	1	10	10	
山梨	2	20	19	5系統あり
天城	1	10	10	
福井	2	19	19	
芦生	3	21	21	
高知	1	5	3	
高千穂	1	10	10	
矢部	3	31	28	
八代	1	6	6	
蒜山	3	30	29	
計15産地		286	276	

表－14　クヌギの造林試験に用いた苗木の種類と本数

苗木の種類	苗高(cm)	断幹高(cm)	植栽列数	杭No.	植栽本数	苗木の産地	備考
1年生分岐根苗	80	—	1	1	24	鹿児島県	分岐根苗は、主根が数本に枝分かれした苗木で、発根させて根切りして播種する。
	110	—	1	2	25		
1回床替 2年生分岐根苗	80	—	1	3	24	鹿児島県	
	120	—	2	4	51		
	150	—	1	5	26		
無床替2年生分岐根苗	170	—	1	6	26	鹿児島県	杭根苗は、根切りしないゴボー根の苗木(直根苗)
無床替 2年生分岐根苗	170	30	1	7	8	鹿児島県	
		50			8		
		100			8		
無床替 4年生分岐根苗	170	30	1		20	蒜山演習林	断幹は、植栽後指定の高さで幹を切断する。
		50	1		20		
		100	1		30		
		無断幹	1		21		植栽:1988年4月21日

表－15 ナラ類の採種母樹の所在地と大きさ

母樹	所在地	胸高直径 (cm)	樹高 (m)
コガシワ鳥大1号	鳥取大学農学部苗畑	18	8
コガシワ鳥大2号	鳥取大学農学部苗畑	23	8
コガシワ118号	蒜山演習林へ入る林道筋左側	34	14
コガシワ10林班141号	第10林班ヨ小班スギ品種見本林の下	22	10
コガシワ県境1号	県境の林道筋4林班ロ小班土塁の所	28	12
コガシワ県境2号	県境の林道筋3林班チ小班の曲り角	18	11
コガシワ三平山158号	三平山山麓から県道俣野線を下り、谷を渡りカーブの左側	38	13
コガシワ22-1号	第22林班カナディアンハウスの手前23林班への入口	30	22
カシワモドキ			
108号	演習林道入口左側	39	14
110号	演習林道入口左側	36	14
116号	演習林道筋	17	10
140号	第10林班ヨ小班スギ品種見本林の下	34	15
15号	第12林班苗畑の北側、広葉樹－スギ二段林の中	26	14
18号	第12林班苗畑の北側、広葉樹－スギ二段林の中	32	14
41号	第12林班苗畑の北側、広葉樹－スギ二段林の中	24	14
2(178)号	第12林班苗畑の北側、広葉樹－スギ二段林の中	30	15
県境3号	県境の林道筋、コガシワ県境2号のとなり	19	11
三平山204号	内海峠より県道俣野線を下る、ミズナラタイプの木	—	—
ナラガシワ1号	鳥取大学農学部苗畑	—	—
ナラガシワ5号	鳥取大学農学部苗畑	—	—
カシワ三平山1号	県道俣野線沿線	21	11
カシワ三平山2号	県道俣野線沿線	34	8
カシワ三平山3号	県道俣野線沿線	29	10
ミズナラ大平原混合	江府町大平原大山環状道路沿い、混合種子	—	—
ミズナラ鏡ヶ成3号	江府町鏡ヶ成キャンプ場敷地内	42	12
ミズナラ鏡ヶ成5号	江府町鏡ヶ成キャンプ場敷地内	26	11
ミズナラ鏡ヶ成8号	江府町鏡ヶ成キャンプ場敷地内	30	14

表－16 三朝演習林試験地名

記載番号	台帳番号	林小班	設定年度 (年, 月)	試験名	面積 (ha)
(1)	1	7 ト	昭56(1981). 10	ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地	0.5
(2)	2	8 カ	昭57(1982).10	スギ精英樹クローン検定林	0.6
	3	3 タ	昭57(1982).10	スギ精英樹クローン検定林	0.35
	4	4 ラ	昭57(1982).10	スギ精英樹クローン検定林	0.15
(3)	5	4 ナ	昭57(1982).10	スギ精英樹挿木苗植栽試験地	0.5
(4)	6	7 チ	昭58(1983).10	智頭スギ実生苗植栽試験地	0.98
(5)	7	4 ハカヨ	昭60(1985).4	広葉樹の林相改良試験(保育間伐)	0.446
(6)	8	5 ネ	昭63(1988). 11	スギーケヤキ混交植栽試験	1.14
(7)	9	5 ネ	昭63(1988). 11	スギーキハダ混交植栽試験	0.5

表－17　広葉樹林の林相改良試験の試験区の設定と立木本数

プロット No.	試験区	面積 (㎡)	間伐後の立木本数 (本/ha)	立て木の本数 (本/ha)	備考
1	対照区(無間伐)	20×20m(400㎡)	2275	775	
2	対照区(無間伐)	20×20m(400㎡)	4025	1300	立て木に赤
3	弱度間伐	20×20m(400㎡)	1850	775	ペンキを塗る
4	弱度間伐	15×30m(450㎡)	1150	850	
5	強度間伐	20×20m(400㎡)	1300	650	各プロットの
6	対照区(無間伐)	20×20m(400㎡)	2900	800	4角にプラス
7	弱度間伐+施肥区	20×20m(400㎡)	1350	675	チック製の
8	弱度間伐+施肥区	20×20m(400㎡)	2750	775	杭を打つ
9	強度間伐+施肥区	20×20m(400㎡)	750	550	
10	間伐区(ブナ林)	20×20m(400㎡)	4275	1000	
11	対照区(ブナ林)	15×25, 30m(410㎡)	1900	650	

間伐：昭和60年(1985)6月(プロット11は8月)に行う.
施肥：第1回　昭60年6月6日
　　第2回　昭61年5月上旬
　　第3回　昭62年4月25日
住友化成特号(N-P-K=20:10:10%)を400㎡に45kg(3俵)施肥する。

表-18　溝口演習林試験地名

記載番号	台帳番号	林小班	設定年度 (年, 月)	試験名	面積 (ha)
1	1	ヌ	昭46(1971).10	アカマツ、クロマツ品種別植栽試験地	0.76
2	2	ヘ	昭47(1972).10	アカマツ、ヒノキ混合植栽試験地	0.35
3	3	ハ	昭59(1984).11	ヒノキ、アカマツ二段林施業試験地	1.00
4	4	ヌ-2～ヌ-5, ル	平1～平7(1989～1995).10	マツ-スギ二段林ほか4施業地	計2.81

昭和31年4月起

蒜山演習林

針葉樹試験地台帳

蒜山演習林針葉樹試験地

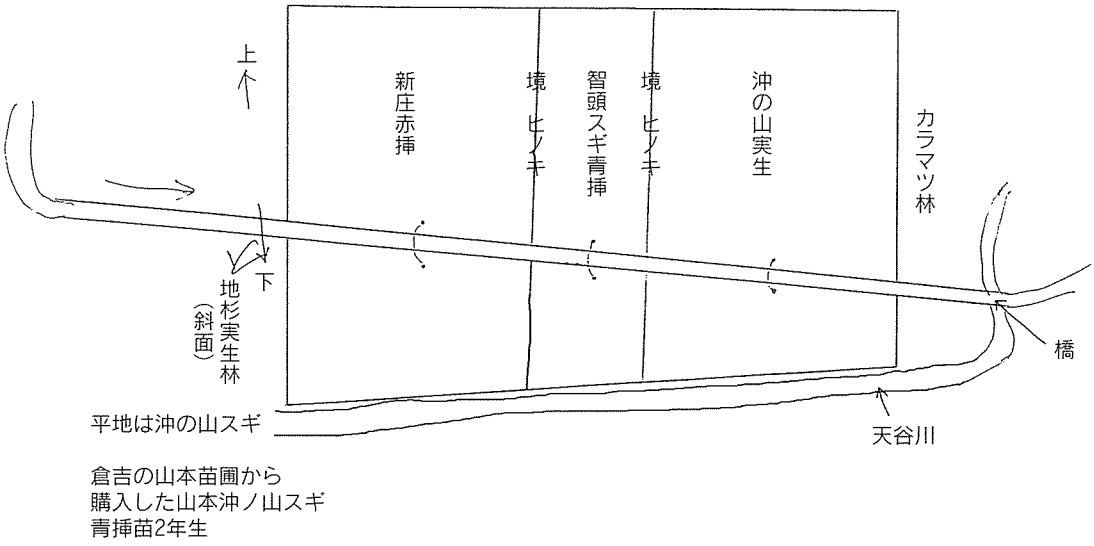
林小班	年月日	試験名	面積	台帳番号
16 イ	昭31年4月	スギ在来品植栽試験地	1.30	①
11 イ	昭45年10月	スギ次代検定林	0.80	②
20 ヘ	昭51年10月	北山スギF1交配種植栽試験地	0.50	③
19 ホ	昭53年11月	ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地	0.30	④
11 ニ	昭54年10月	〃	2.90	⑤
18 ヘ	昭55年10月	ヒノキ挿木苗植栽試験地	0.30	⑥
18 ル	昭56年10月	ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地	0.50	⑦
18 チ	昭57年10月	北山スギ交配品種植栽試験地	0.30	⑧
18 ヌ	昭58年10月	〃	0.30	⑨
21 ヌ	昭58年10月	スギ精英樹クローン検定林	0.50	⑩
18 オ	昭58年10月	南郷ヒノキ植栽試験地	0.10	⑪
10 ヨ	昭59年10月	スギ品種別見本林	0.30	⑫
20 ハ	昭59年10月	木曽ヒノキ植栽試験地	0.20	⑬
25 ニ	昭60年10月	段戸国有林産ヒノキ植栽試験地	0.20	⑭
20 イ	昭61年11月	ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地	0.30	⑮
10 ロ	昭60年4月	アスナロ二段林植栽試験地（クサアテ）	アカマツ林内	⑯
10 ロ	昭61年4月	〃（ヒノキアスナロ）	〃	⑰
10 イ	昭62年10月	リギテーダマツ植栽試験地	0.25	⑱
10 ヘ	昭63年10月	アカマツースギ二段林施業地	0.50	⑲
12 ル	平2年10月	アカマツースギ・ヒノキ二段林（保残木）施業地	0.36	(⑳)

昭和 31 年 4 月設定

台帳番号 1．スギ在来品種植栽試験地

第 16 林班イ小班（1.30ha）

スギ在来品種植栽試験地見取図



沖ノ山実生…鳥大農学部（吉方）林学科苗畑の周囲に防風用（あるいは試験用？）として斉藤先生が植えていた沖ノ山スギ複数木からタネをとり、蒜山演習林内海谷苗畑で育苗した３年生苗を植栽。

沖ノ山青挿…岸本潤先生が智頭から持ち帰り研究用に内海谷の事務所苗木に植えていたものから穂を取り挿木した。母樹（採穂したもの）は 10 本以上あったと思う。２年生苗。

新庄赤挿…朝鍋鷲ヶ山及び野土呂峠の向う側の国六林業の天然スギ林の伏条枝をとり事務所の苗畑にさし木して育苗。２年生苗。

地杉実生林…内海谷の川上谷入口官行造林のスギ林（３倍体が１本あった）の複数木からタネをとり事務所の苗畑で育苗。３年生苗。

昭和 45 年 10 月設定

台帳番号 2．スギ次代検定林

第 11 林班イ小班内（0.80ha）

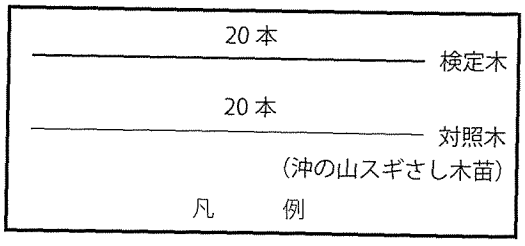
スギ検定林見取図
昭和 45 年 12 月設定

傾斜地

検定木　20 本× 30 品種
対象木　20 本× 30 列

平坦地

検定木　20 本× 30 品種
対象木　20 本× 30 列

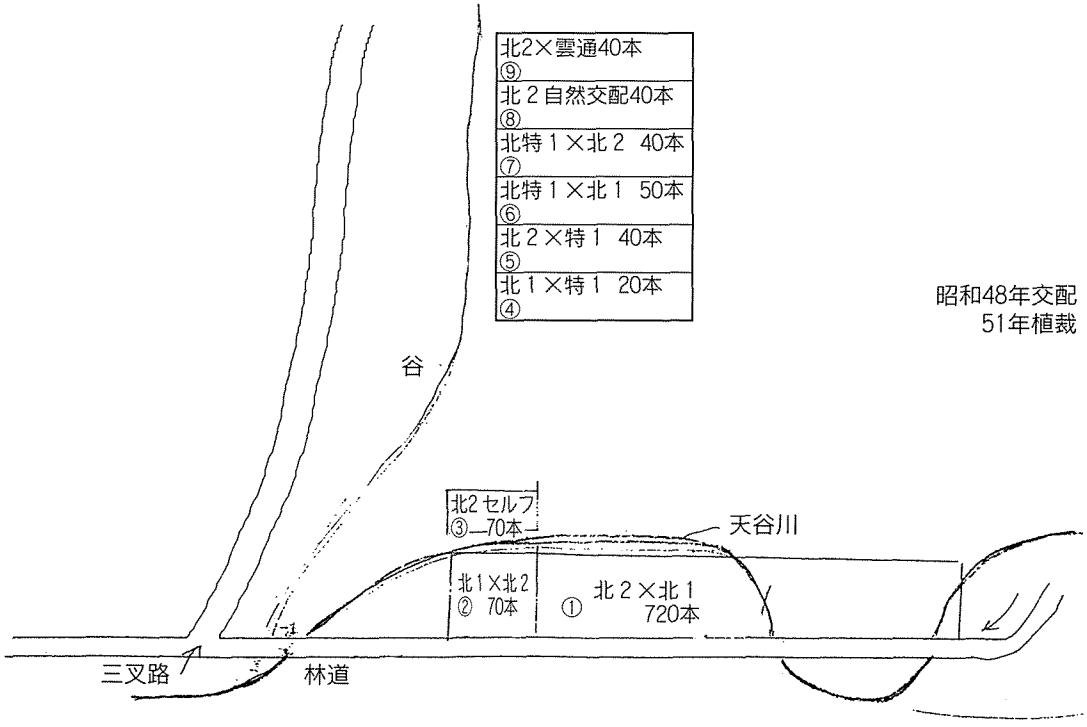


昭和 51 年 10 月設定

台帳番号３．北山スギＦ１交配種植栽試験地

第 20 林班へ小班（0.50ha）

北山スギＦ１交配種植栽試験地見取図



昭和 53 年 11 月設定

台帳番号 4．ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

第 19 林班ホ小班内（0.30ha）

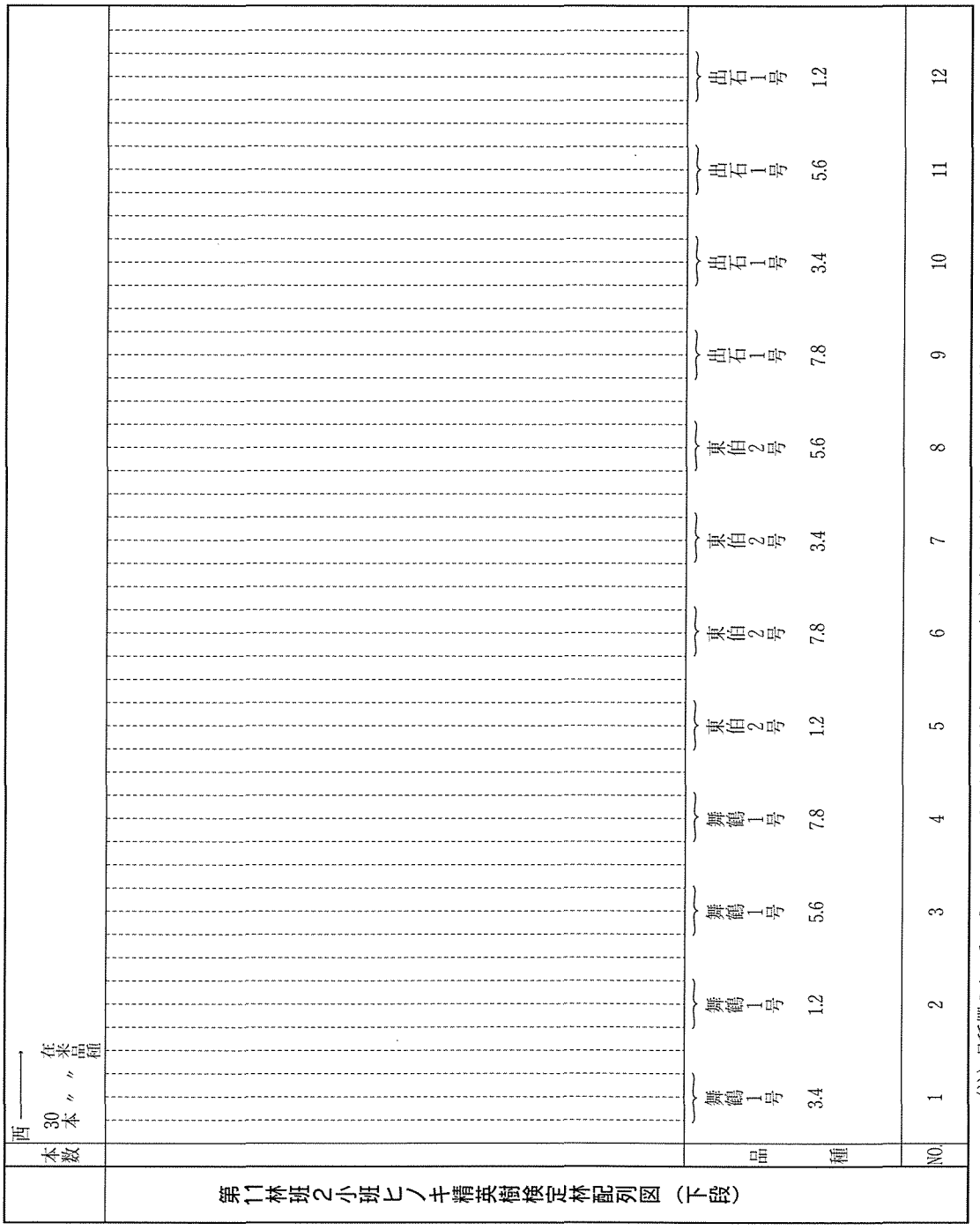
植栽配置

		30 30 30 30 30 30 30 30 30 30		30 30 30 30 30 30 30 30 30 30		30 30 30 30 30 30 30 30 30 30		
第19林班ホ小班内ヒノキ精英樹植栽試験地	1号区	坂田 朝来 城崎 東伯 倉吉 大原 邑智 飯石 仁多 1号 1号 2号 2号 1号 1号 5号 1号 4号 1 2 3 4 5 6 7 8 9	2号区	坂田 朝来 城崎 東伯 倉吉 大原 邑智 飯石 仁多 1号 1号 2号 2号 1号 1号 5号 1号 4号 1 2 3 4 5 6 7 8 9	3号区	坂田 朝来 城崎 東伯 倉吉 大原 邑智 飯石 仁多 1号 1号 2号 2号 1号 1号 5号 1号 4号 1 2 3 4 5 6 7 8 9		

昭和54年10月設定

台帳番号5．ヒノキ精英樹系統苗植裁試験地

第11林班2小班（2.90ha）



（注）品種欄の1、2；3、4；5、6；7、8はジベレリン（GA）処理の試験区分で、品種系統を示すものではない。
GA処理によって着花させた種子による苗木である。

第11林班2小班ヒノキ精英樹検定林配列図（下段の続き）

	本数	品種	NO.
		八頭1号 7.8	13
		八頭1号 3.4	14
		八頭1号 5.6	15
		八頭1号 1.2	16
		城崎2号 3.4	17
		城崎2号 7.8	18
		城崎2号 5.6	19

→ 東

第11林班2小班ヒノキ精英樹検定林配列図（下段の続き）

本数：30本 〃 〃 … 〃 ——→東

NO.	品種	
13	舞鶴1号	3.4
14	舞鶴1号	5.6
15	舞鶴1号	7.8
16	城崎2号	3.4
17	城崎2号	1.2
18	城崎2号	5.6

第11林班2小班ヒノキ精英樹検定林配列図（上段）

本数：西——→ 30本 〃 〃 在来種 〃 … 〃 30本 〃 … 〃

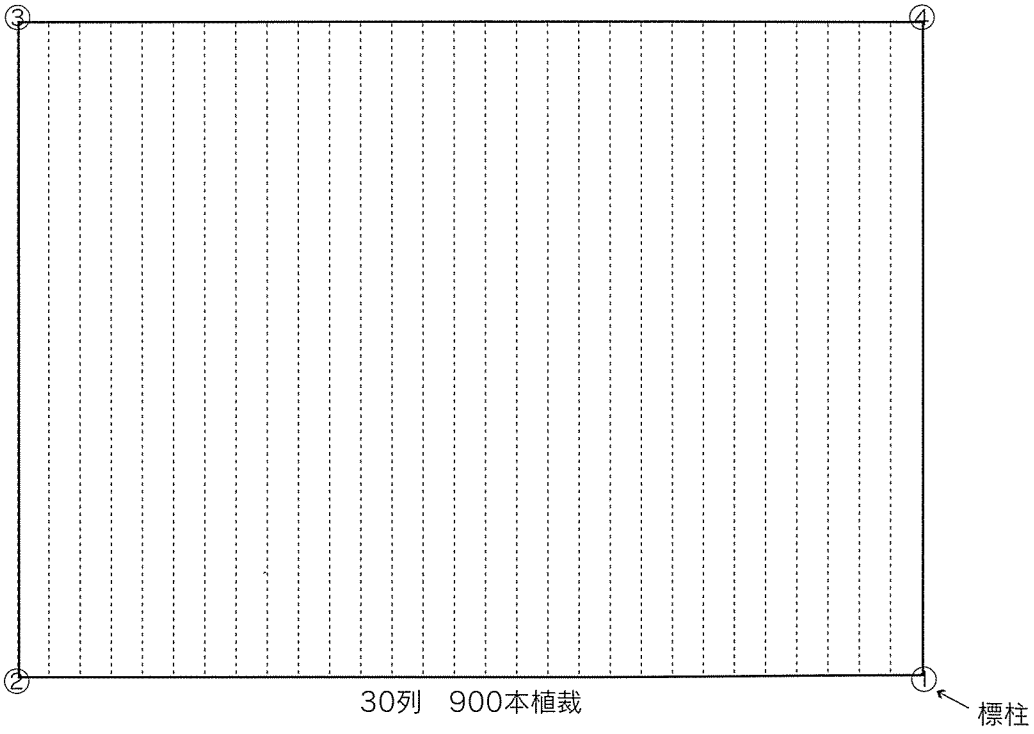
NO.	品種	
1	出石1号	5.6
	中一列は対照区	
2	出石1号	1.2
3	出石1号	7.8
4	出石1号	3.4
5	東伯2号	3.4
6	東伯2号	7.8
7	東伯2号	5.6
8	東伯2号	1.2
9	八頭1号	1.2
10	八頭1号	5.6
11	八頭1号	7.8
12	八頭1号	3.4

昭和 55 年 10 月設定

台帳番号 6．ヒノキ挿木苗植栽試験地

第 18 林班ヘ小班（0.30ha）

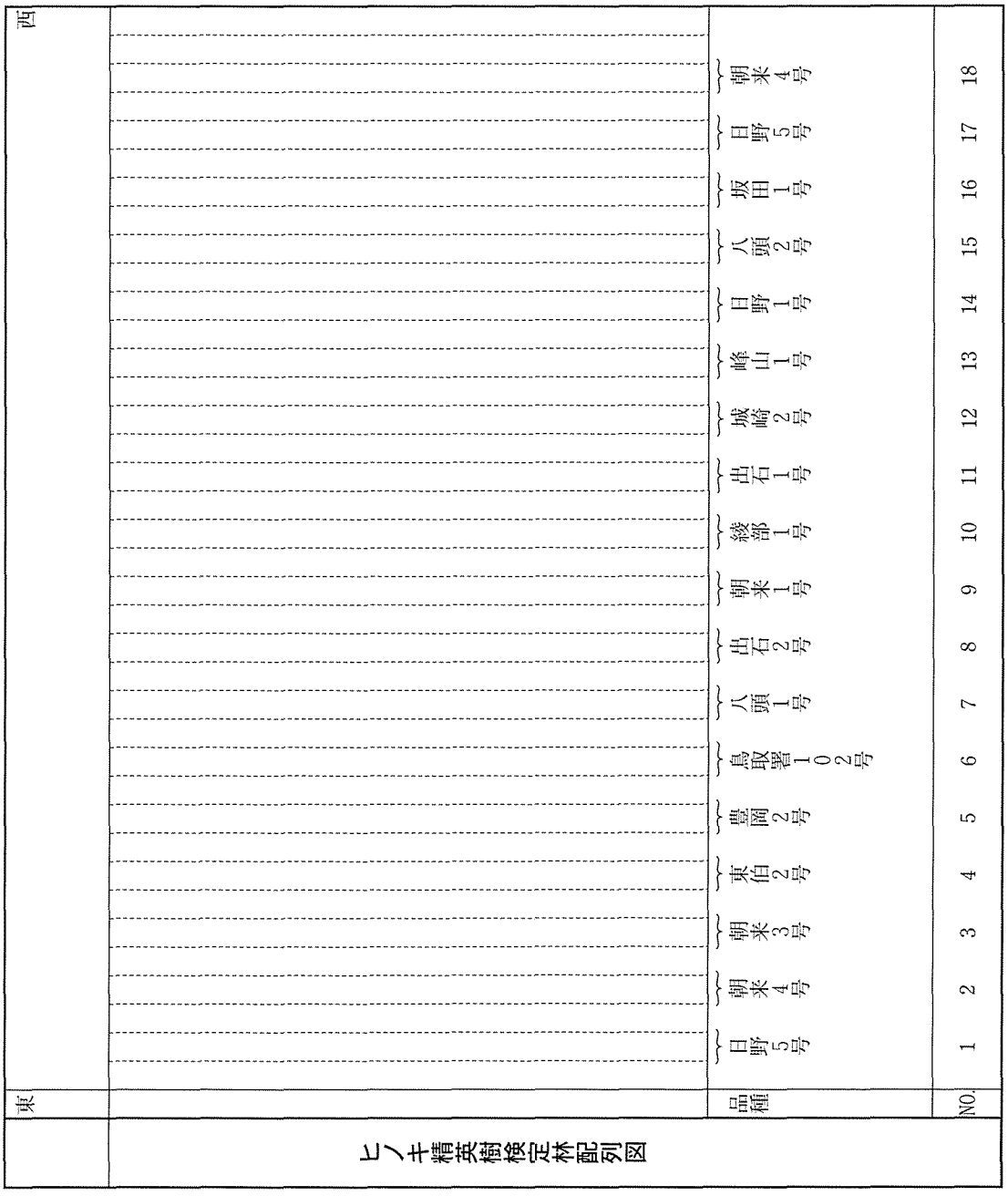
ヒノキ挿木苗植栽試験地見取図



昭和 56 年 10 月設定

台帳番号 7．ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

第 18 林班ル小班（0.50ha）



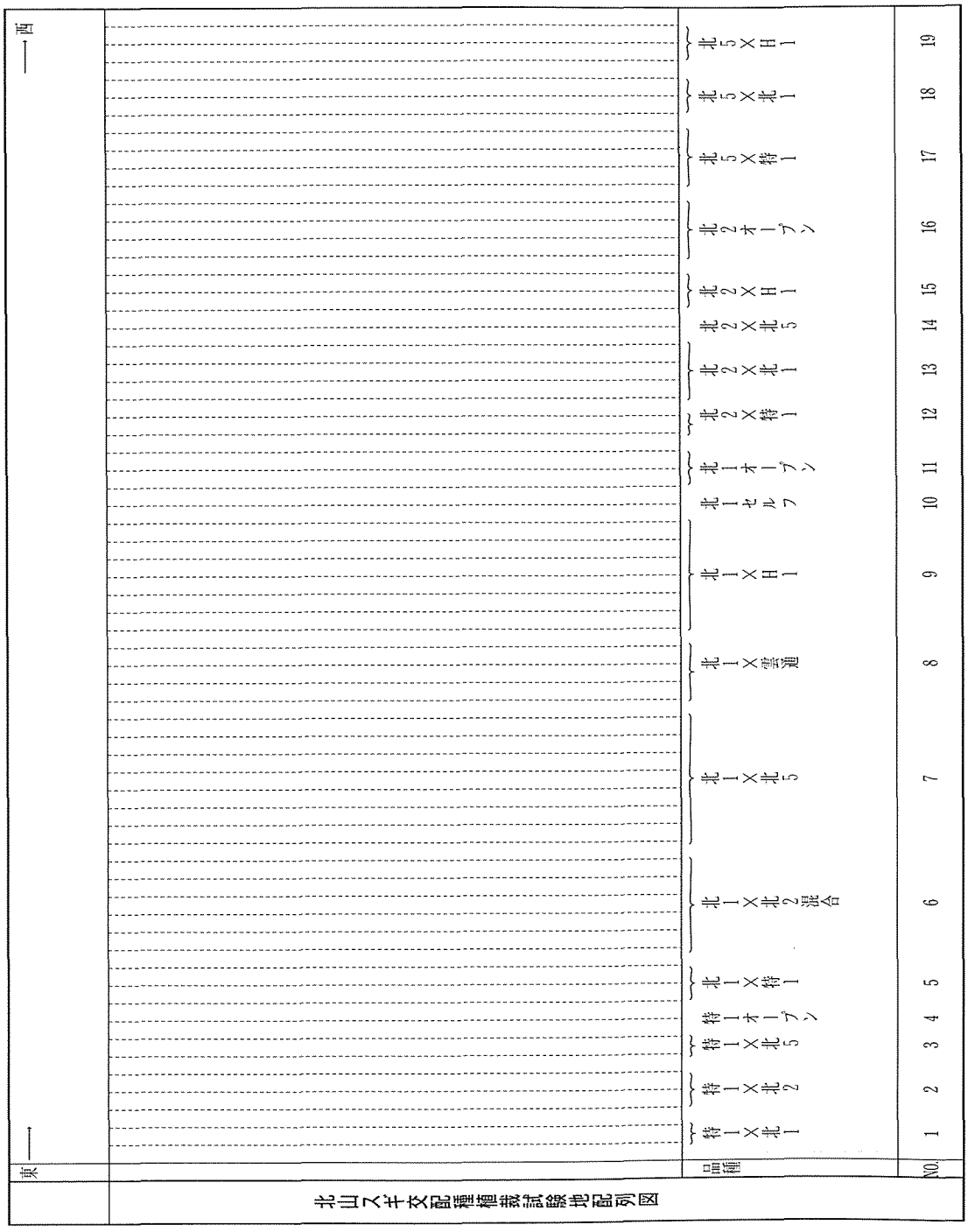
西			
		朝来4号	18
		日野5号	17
		坂田1号	16
		八頭2号	15
		日野1号	14
		峰山1号	13
		城崎2号	12
		出石1号	11
		綾部1号	10
		朝来1号	9
		出石2号	8
		八頭1号	7
		鳥取署102号	6
		豊岡2号	5
		東伯2号	4
		朝来3号	3
		朝来4号	2
		日野5号	1
東		品種	NO.

ヒノキ精英樹候定林配列図

昭和 57 年 10 月設定

台帳番号 8．北山スギ交配品種植栽試験地

第 18 林班チ小班（0.30ha）



NO.	品種
1	特1×北1
2	特1×北2
3	特1×北5
4	特1オープン
5	北1×特1
6	北1×北2混合
7	北1×北5
8	北1×雲通
9	北1×H1
10	北1セルフ
11	北1オープン
12	北2×特1
13	北2×北1
14	北2×北5
15	北2×H1
16	北2オープン
17	北5×特1
18	北5×北1
19	北5×H1

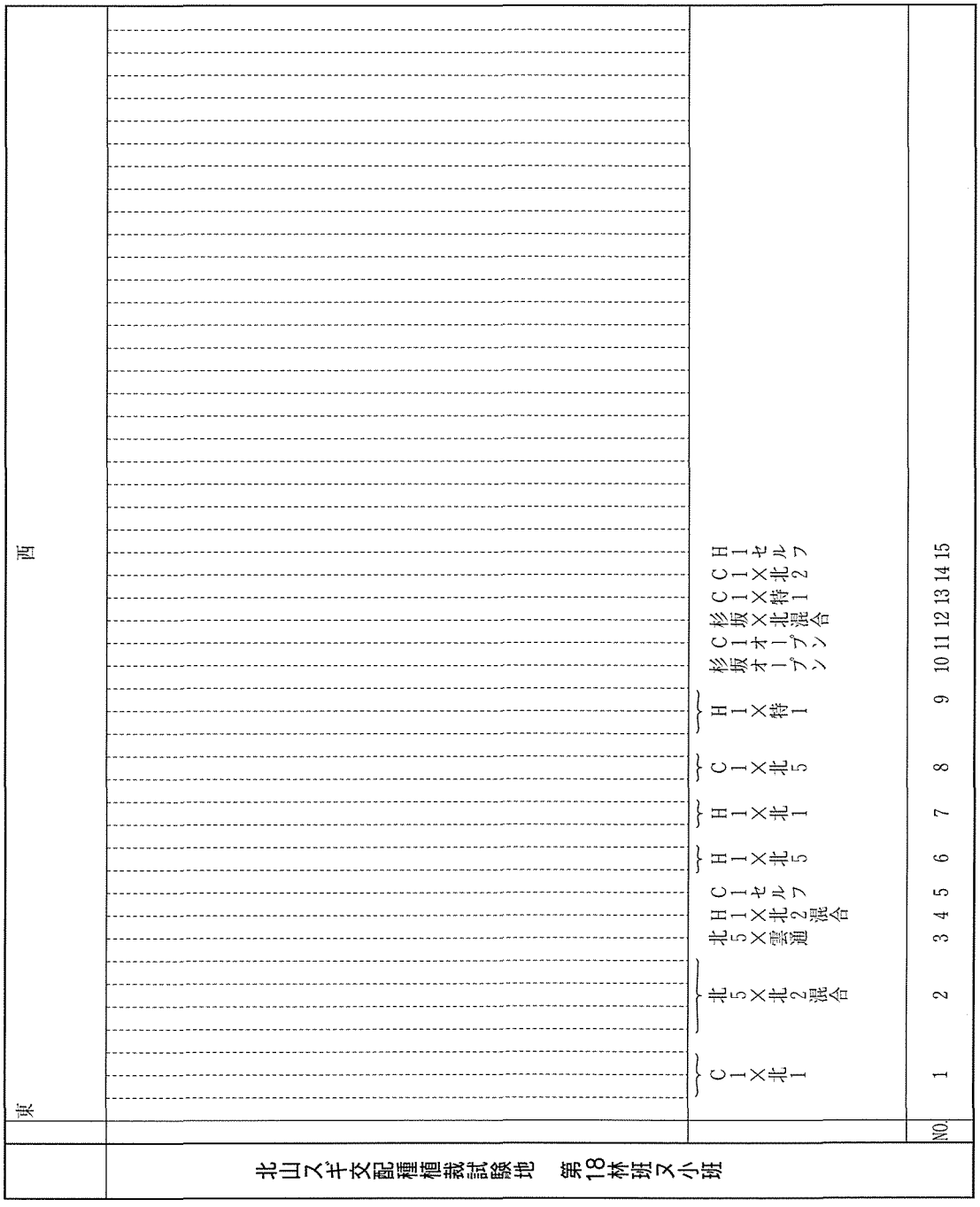
北山スギ交配品種植栽試験地配列図

東 ← → 西

昭和 58 年 4 月設定

台帳番号 9．北山スギ交配品種植栽試験地

第 18 林班ヌ小班（0.30ha）



NO.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	C 1 ×北 1	北 5 ×北 2 混合	北 5 ×雲通 2 混合	H C 1 セ ル フ	H 1 ×北 5	H 1 ×北 1	C 1 ×北 5	H 1 ×特 1	杉 板 オ ー プ ン	C 1 ー ー ア ン	杉 板 1 ー ー ブ ン	C 1 ー ー ア ン	杉 板 1 ー ー ブ ン	C 1 ー ー ア ン	H 1 ー ー ア ン
											×北	×北	特	×北	特
											混合	混合	1	2	1

北山スギ交配種植栽試験地　第18林班ヌ小班

東　西

昭和 58 年 10 月設定

台帳番号 10. スギ精英樹クローン検定林

第 21 林班ヌ小班（0.50ha）

東入口	品種	No.
より 33クローン	園部10号	32
	松江署4号	31
	松江署2号	30
	鳥取署103号	29
	金沢署103号	28
	能足4号	27
	能足3号	26
	太田3号	25
	仁多2号	24
	邑智5号	23
	那賀2号	33
	松江署5号	22
	日野15号	21
	松江署3号	20
	日野12号	19
	日野11号	18
	日野9号	17
	日野8号	16
	日野7号	15
	日野4号	14
	東伯4号	13
	八頭9号	12
	八頭2号	11
	朝来7号	10
	福知山2号	9
	綾部3号	8
	綾部1号	7
	日原署3号	6
	園部3号	5
	園部2号	4
	京北3号	3
	宮津1号	2
	園部1号	1

スギ精英樹クローン検定林　配列図

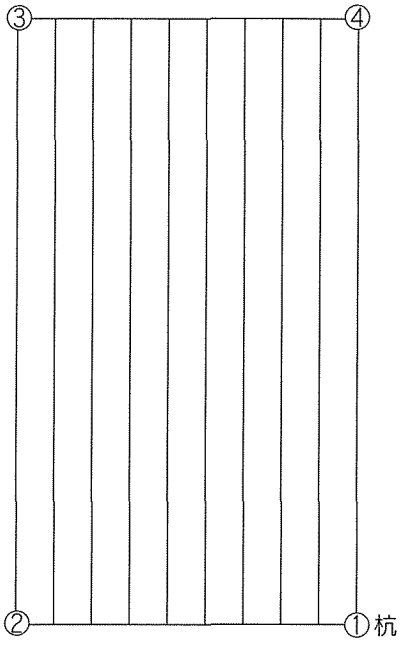
昭和 58 年 10 月設定

台帳番号 11. 南郷ヒノキ植栽試験地

第 18 林班オ小班（0.10ha）

熊本県阿蘇の高森町、馬原広男氏より購入した挿木苗を植栽した。熊本県林業指導所の原山氏のあっせんのよる。

南郷ヒノキ植栽試験地　見取図



10列　300本植栽
4 隅に杭を打つ

昭和59年10月設定

台帳番号12. スギ品種別見本林

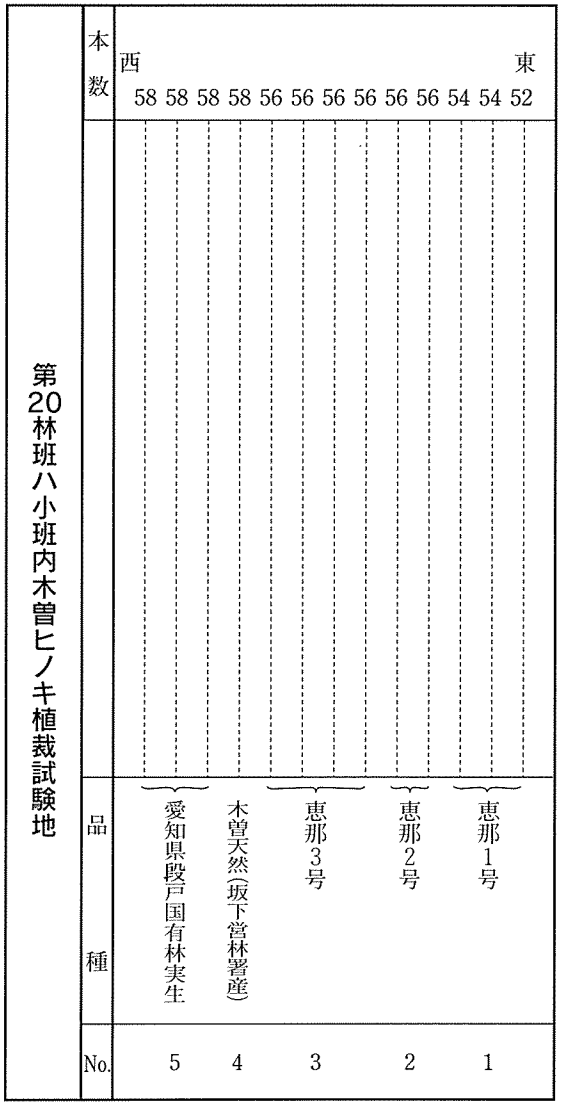
第10林班ヨ小班（0.30ha）

注）1）ストローブマツは米国ニューヨーク州産種子　2）日本カラマツ、F1カラマツは北見林務署新田季利氏より送付のもの。

昭和 59 年 10 月設定

台帳番号 13. 木曽ヒノキ植栽試験地

第 20 林班ハ小班内（0.20ha）

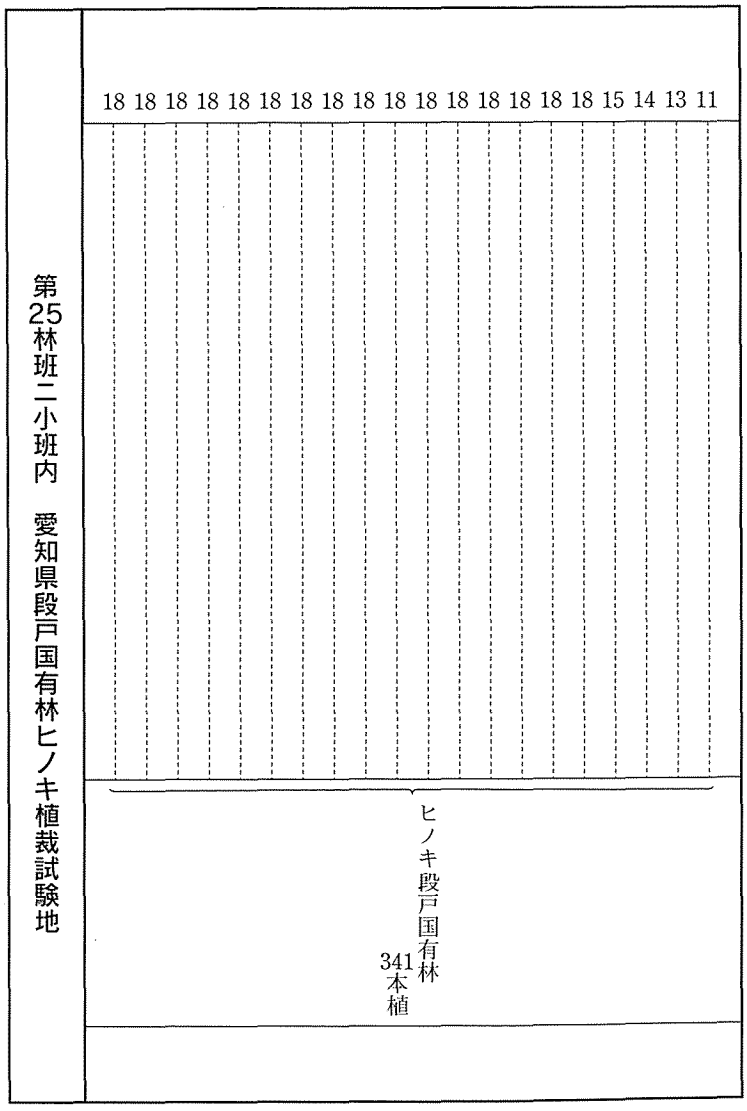


備考
木曽天然は坂下営林署産
東濃ヒノキ精英樹
恵那１号：恵那市東野町保古山産
恵那２号：恵那市串原村上沢産
恵那３号：恵那市長島町正家入会鍋山産

昭和60年10月設定

台帳番号14. 段戸国有林産ヒノキ植栽試験地

第25林班ニ小班内（0.20ha）



昭和 61 年 11 月設定

台帳番号 15. ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

第 20 林班イ小班（1.00ha）（内 0.30ha）

ヒノキ精英樹植栽試験配列図

東	品種	No.
23 23 23 23 23 23 24 24 25 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 21 14 9 合計 902 本	舞鶴1の3	1
	福知山2号	2
	柳井2号	3
	姥ヶ原1号	4
	姥ヶ原3号	5
	山口3号	6
	南山4号	7
	邑智4号	8
	城崎2の1	9
	城崎2の2	10
	城崎2の3	11
	舞鶴1の1	12
	舞鶴1の2	13
	舞鶴1の4	14
	舞鶴1の3	15

耐やせ地性

注）柳井 2 号、姥ヶ原 1、3 号、山口 3 号、南山 4 号は関西林木育種場で選抜した耐やせ地性品種。

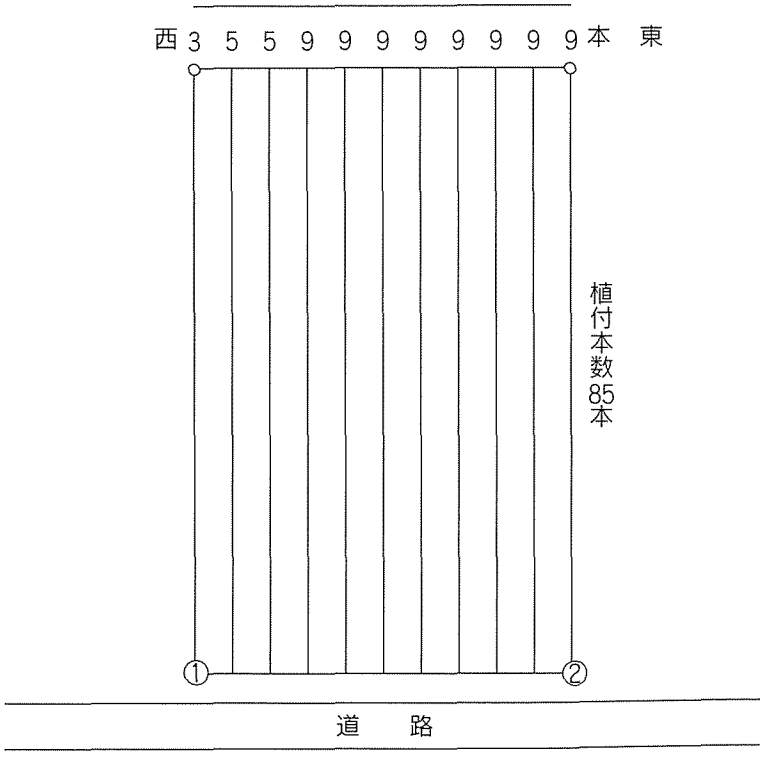
昭和60年4月設定

台帳番号16. アスナロ二段林植栽試験地

（クサアテ）

第10林班ロ小班内

クサアテ植栽試験地　見取図



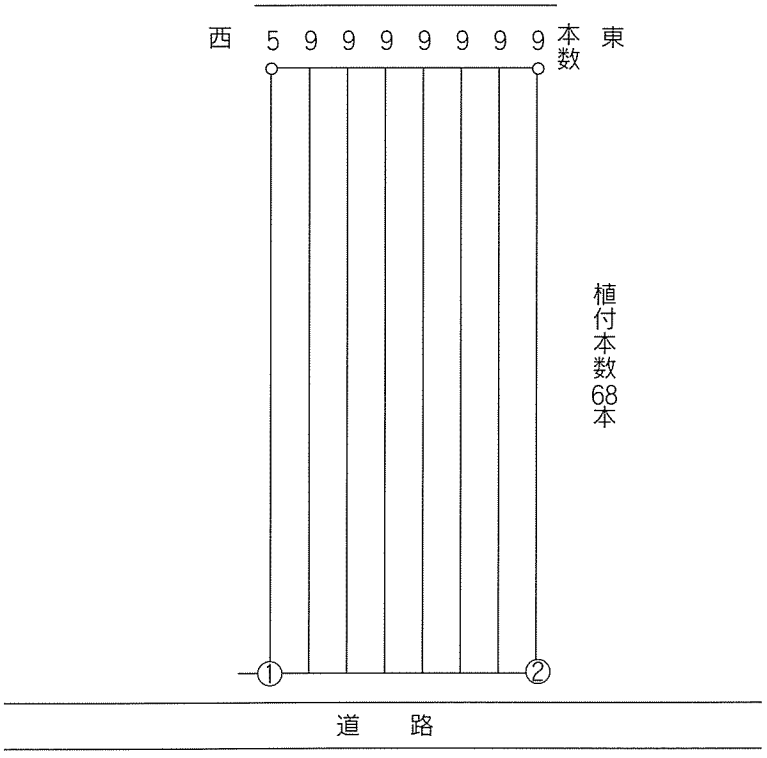
昭和61年4月設定

台帳番号17．アスナロ二段林植栽試験地

（ヒノキアスナロ）

第10林班ロ小班内

ヒノキアスナロ植栽試験地　見取図



昭和 62 年 10 月設定

台帳番号 18. リギテーダマツ植栽試験地

第 10 林班イ小班（0.25^{ha}）

京大演習林より送付のリギテーダマツの自然交配種子を苗畑にまいて育苗し蒜山演習林に植えた。元の親木は苗畑移転のため伐採した。
親木は 10 本以上あったと思う。
リギテーダ OP 種子のもの。

昭和 63 年 10 月設定

台帳番号 19. アカマツースギ二段林施業地

第 10 林班へ小班（0.50ha）

アカマツ優良木 52 本を残し、下木
にスギ実生苗（茅部産）を植栽する。

平成2年10月設定

台帳番号20. アカマツースギ・ヒノキ二段林（保残木）施業地

第12林班ル小班（0.36ha）

アカマツ優良木15本を残し、下木にスギ・ヒノキ実生苗（地元茅部産）を植栽する。
大部分の林地で上木はない。

昭和 52 年 4 月起

蒜山演習林

広葉樹試験地台帳

蒜山演習林広葉樹試験地

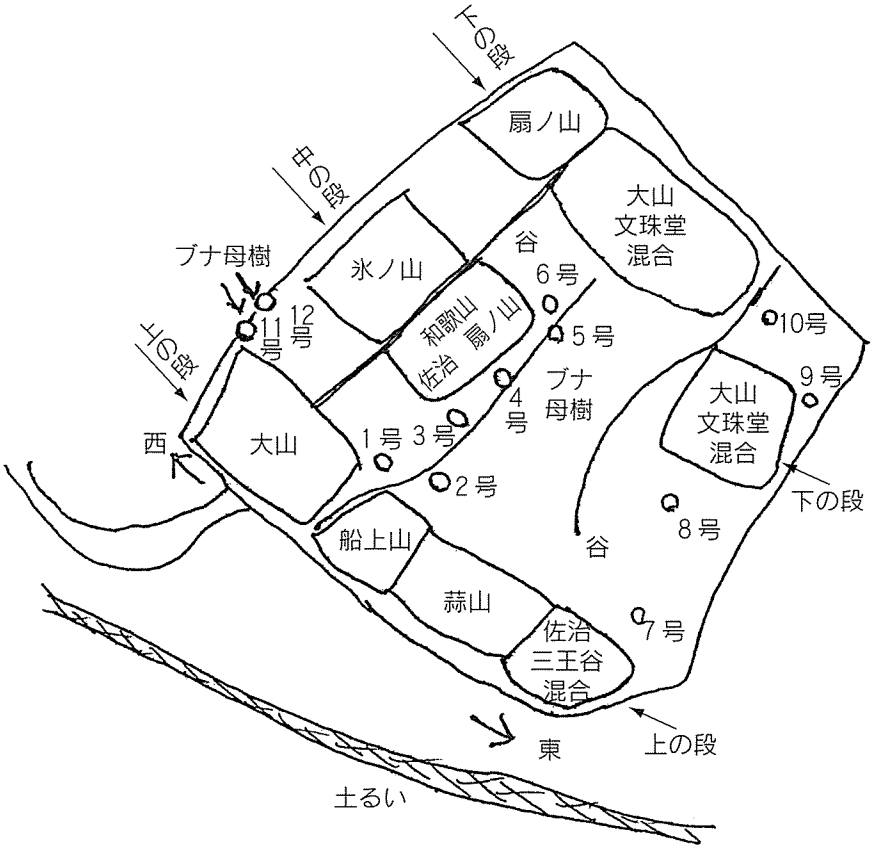
林小班	年月日	試験名	面積	台帳番号
23 ト	昭52年 4月	ブナ母樹別系統植栽試験地	0.70	1
19 イ	昭52年11月	コナラ施業試験地　（廃止）	0.10	(2)
19 ロ	昭52年11月	〃　（廃止）	0.20	(3)
19 ハ	昭52年11月	〃　（〃）	0.10	(4)
25 ル	昭53年11月	ブナ植栽試験地　（無施肥区）	0.20	(5)
17 ヘ	昭53年11月	クヌギ施業試験地　（廃止）	0.10	(6)
17 ト	昭53年11月	〃　（廃止）	0.30	(7)
17 チ	昭53年11月	〃　（〃）	0.10	(8)
20 ト	昭53年10月	クヌギ採種林施業試験地　（廃止）	1.00	(9)
25 リ	昭54年11月	ケヤキ在来品種植栽試験地	0.20	10
18 ト	昭56年 4月	クヌギ二段林施業試験地　（廃止）	1.00	(11)
21 チ	昭56年11月	キハダ産地別植栽試験地	0.50	12
22 カ 21 リ	昭56年11月	植栽密度試験、一部肥培試験、 クヌギ産地別植栽試験地　（産地別は廃止）	1.18	13
23 チ	昭56年 4月	ブナ産地別植栽試験地	0.50	14
18 イ	昭57年 4月	クヌギ二段林施業試験地　（廃止）	1.13	(15)
32 ロ	昭57年10月	ケヤキ産地別植栽試験地	0.50	16
21 リ	昭57年11月	コナラ、ミズナラ、クリ、ケヤキ産地別植栽試験地	1.00	17
31 ト	昭58年11月	トチノキ産地別植栽試験地	1.00	18
10 カ	昭59年10月	広葉樹植栽見本林	0.20	19
32 ハ	昭59年11月	ケヤキ植栽試験地　（一般造林地）	0.50	(20)
32 ニ	昭59年11月	ウルシ　〃　（廃止）	0.30	(21)
22 オ	昭62年11月	ブナ産地別植栽試験地	0.50	22
26 イ	平元年 4月	ブナ母樹別植栽試験地	約0.3	23
21 リ	昭62年11月	ケヤキ母樹別植栽試験地　（№17にあり）	約0.3	24
18 ホ	平 3年 4月	ブナ産地別植栽試験地	0.25	25
7 ワ	昭63年 4月	クヌギ苗木の形態別植栽試験、肥培試験、一般造林	1.0	26
26 イ	平元年11月	コナラ人工造林（直播、植樹）試験地	0.2	27
26 イ	昭63年11月 平元年11月 平2年11月	コナラ天然更新試験地	昭63年1ha 平元年1ha 平2年1ha	28
12 ハ	平 8年 5月 平 9年 4月	ナラ類雑種の自然交配苗木植栽試験地	0.3	29
31 チ	平元年11月	ケヤキ一般造林地	0.45	(30)

昭和 52 年 4 月設定

台帳番号 1．ブナ母樹別系統苗植栽試験地

第 23 林班ト小班（0.70ha）

23 林班ブナ人工造林試験地　位置図



植栽 52 年 4 月 21 ～ 23 日

西
↑

	No.	品　目	列　数	No.	品　目	列　数	
上の段	1	大　山2号	5	28	和歌山A	1	中の段
	2	〃　3号	3	29	〃　B	1	
	3	〃　3の1	1	30	〃　E	1	
	4	〃　4の1	1	31	佐治北谷	1	
	5	〃　4の2	1	32	河合谷高原	1	
	6	〃　5の1	2	33	扇の山2号	1	
	7	〃　4号	2	34	〃　4号	1	
	8	〃　5の2	4	35	〃　3号	3	下の段
	9	〃　5の3	2	36	〃　沢川5号	1	
	10	〃　6号	4	37	大山文珠堂混合（640本）	数　列	
	11	船上山1号	2				
	12	〃　2号	1				
	13	〃　3号	1				
	14	蒜　山2の1	1				
	15	〃　2の2	1				
	16	〃　2の3	1				
	17	〃　3の1	2				
	18	上蒜山5号	2				
	19	〃　6号	1				
	20	〃　7号	1				
	21	〃　8号	1				
	22	佐治三王谷混合	数列 300 本				
中の段	23	氷の山3号	2				
	24	〃　4号	2				
	25	〃　5号	2				
	26	〃　6号	1				
	27	〃　2号	1				

注）下刈りを5年間、施肥を植え付け2年目から3回（粒状化成肥料N－P－K 13－17－12）220～380 kg／ha 行う。15 年生頃に枝打ちを1回行う。幼時に兎害あり。

昭和 54 年 11 月設定

台帳番号 10. ケヤキ在来品種植栽試験地

第 25 林班リ小班（0.20ha）

54 年 11 月 3 年生苗を植栽　2m 間隔
下刈り 4 回、雪起し 1 回（3 ～ 4 年目）、施肥 1 回
幼齢時に雪害、ネズミ害が出る。

種子　鳥大図書館母樹より
51 年 10 月　採　種
52 年　4 月　播　種
54 年 11 月　植　付 4 年　生　苗

2,500 本／ha で植栽

昭和 56 年 11 月設定

台帳番号 12. キハダ産地別植栽試験地

第 21 林班チ小班（0.50ha）

キハダ産地別試験地　見取図

H10年（1998年）夏に斜面から上と
静岡県林試産の不良造林地を除伐した。

第21林班チ小班内　キハダ産地別植栽試験地

北

No	品種	列	各列本数
1	岐阜県林業試験場132本	6列	22 22 22 22 22 22
2	前橋営林局22本	1列	〃
3	東大秩父演習林44本	2列	〃 〃
4	長野県林業指導所66本	3列	〃 〃 〃
5	鳥取県日南町120本	5列	22 〃 〃 〃 22
6	静岡県林業試験場550本	25列	22 〃

計890本

昭和 56 年 11 月設定

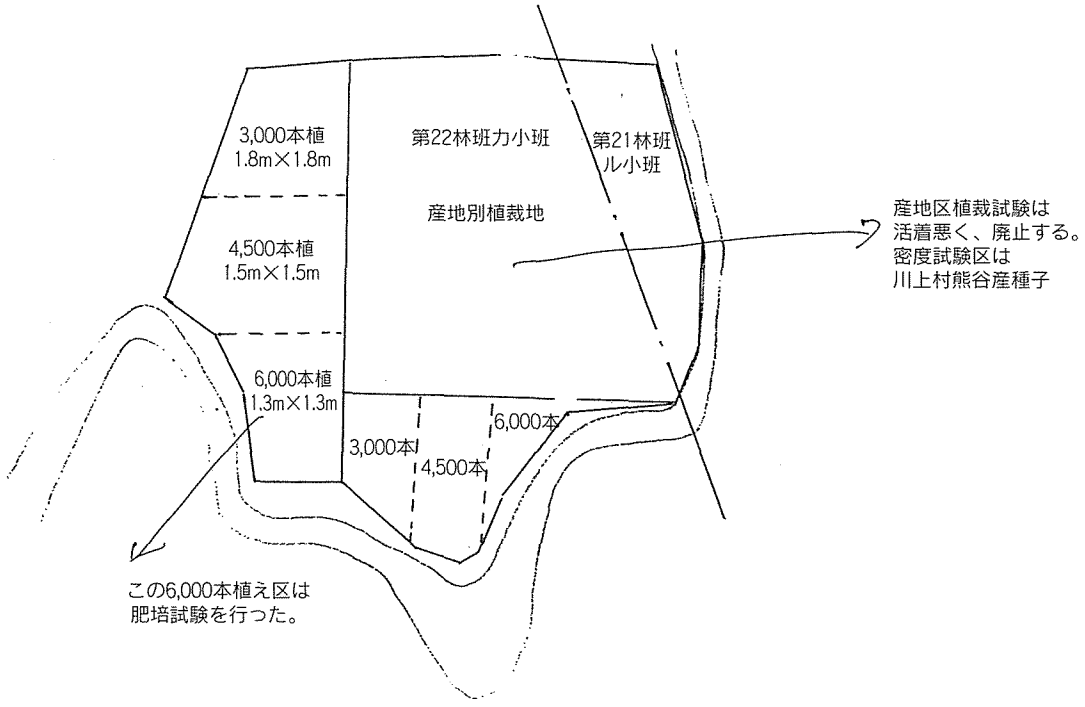
台帳番号 13. クヌギ産地別植栽試験地

第 22 林班カ小班・第 21 林班リ小班（21：0.03ha）
（22：1.15ha）

手入れ 1991 年枝打ち（演習林が行う）
昭和 59 年（1984）年 1 ～ 2 月大雪で雪害発生、翌春被害枝を枝打ちする。
平成 2 年（1990）ひも打ち（太枝をとる）

クヌギ産地別試験地見取図

クヌギ植栽密度試験地に切り替える（橋詰）



第22林班カ小班　クヌギ産地別植栽試験地

西　1列40本　　東

No	品種
27	埼玉県林試
26	山口県林試
25	浅川実験林
24	宮崎県林試
23	蒜山天谷
22	蒜山熊谷
21	熊本県阿蘇12号
20	〃 10号
19	〃 球磨5号
18	〃 26号
17	〃 阿蘇28号
16	〃 菊地8号
15	愛知県林試
14	島根大学
13	九大粕屋演習林
12	東大無田演習林
11	山口県林試2号
10	山口県林試1号
9	富山県林試
8	関西育種場5号
7	〃 4号
6	〃 1号
5	兵庫県林試2号
4	〃 1号
3	大分県林試
2	京都府林試
1	鳥取覚寺混合

活着不良で補植したので、産地間の比較はできない。（橋詰）

昭和 56 年 4 月設定

台帳番号 14. ブナ産地別植栽試験地

第 23 林班チ小班（0.50^{ha}）

手入れ
1991 年秋－枝打ち（ひも打ち〕－
女作業員が行う。10cm ほど枝を残して枝打ち
1997 年 6 ～ 7 月除伐。一部スギも切っている。

第23林班チ小班　ブナ産地別植栽試験地

東側

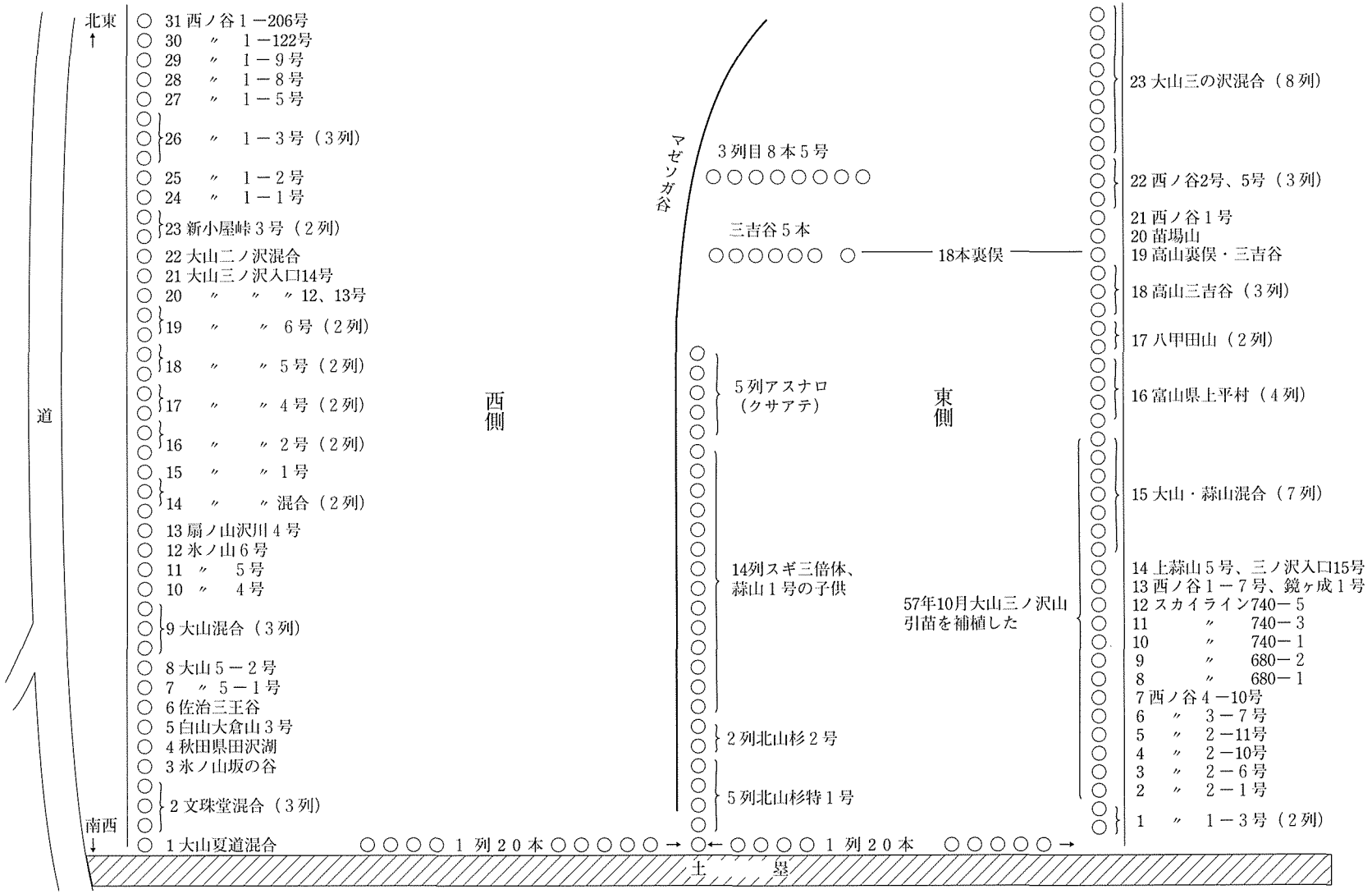
No	品種	品種	No
北			
23	大山三の沢混合	西の谷1ノ5号	27
		西の谷1ノ8号	28
		西の谷1ノ9号	29
		西の谷1ノ122号	30
		西の谷1ノ206号	31
22	西の谷2号5号	西の谷1ノ3号	26
21	西の谷1号	西の谷1ノ2号	25
		西の谷1ノ1号	24
20	苗場山		
19	高山裏俣産	新小屋峠3号	23
18	高山三吉谷	大山二の沢混合	22
		大山三の沢入口14号	21
		大山三の沢12号13号	20
17	八甲田山	大山三の沢6号	19
16	富山県上平村	大山三の沢5号	18
		大山三の沢4号	17
15	大山蒜山混合	大山三の沢2号	16
		大山三の沢1号	15
		大山三の沢混合	14
		扇の山沢川4号	13
14	上蒜山5号・三の沢入口15号	氷の山6号	12
		氷の山5号	11
13	西の谷1ノ7号鏡成1号	氷の山4号	10
12	スカイライン740ノ5	大山混合	9
11	スカイライン740ノ3		
10	スカイライン740ノ1		
9	スカイライン680ノ2	大山5ノ2号	8
8	スカイライン680ノ1	大山5ノ1号	7
7	西の谷4ノ10号	佐治三王谷	6
6	西の谷2ノ7号	白山大倉山3号	5
5	西の谷2ノ11号	秋田県田沢湖	4
4	西の谷2ノ10号	氷の山坂の谷	3
3	西の谷2ノ6号	文珠堂混合	2
2	西の谷2ノ1号		
1	西の谷3号	大山夏山道混合	1

○○○○○ 5号

境界（沢のくぼ地）

西側

ブナ産地・系統別植栽地位置図（23林班チ小班）

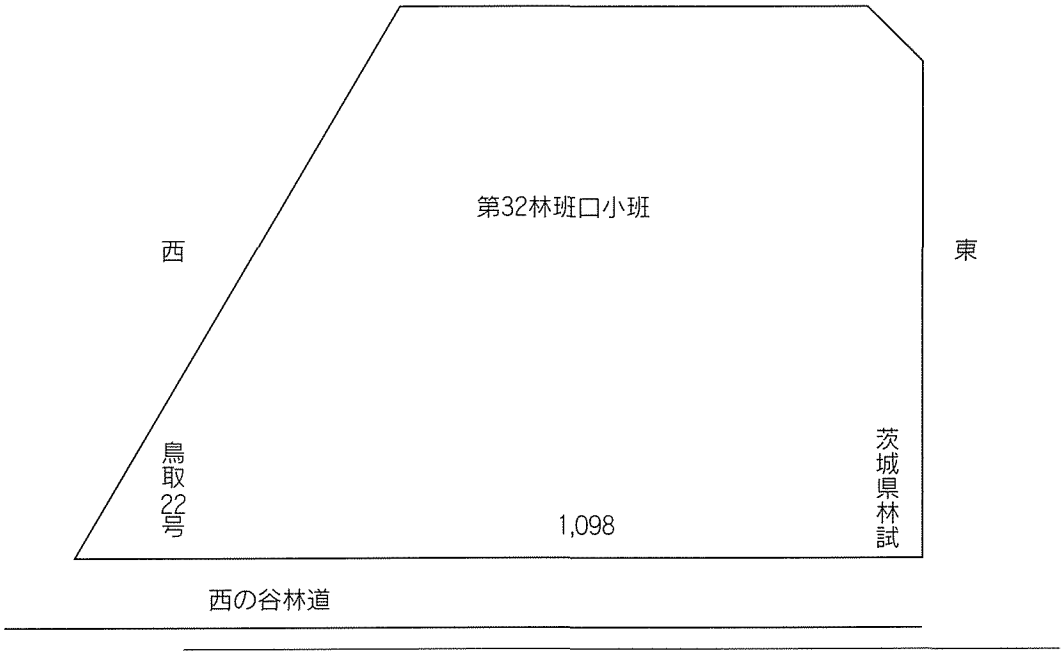


昭和 57 年 10 月設定

台帳番号 16. ケヤキ産地別植栽試験地

第 32 林班ロ小班（0.50ha）

ケヤキ産地別試験地見取図



手入れ
雪起こし数年行う
第 1 回枝打ち。1997 年 5 月に行う
太い枝も切る。主幹を 1 本にする。
（15 年後）
カーブの上の方は枝打ちしていない。
（トチノキ大木の上の方）

第32林班ロ小班　ケヤキ産地別植栽試験

No	品種	列本数（西→東）
10	鳥取7号（4列）	1, 7, 10, 14
9	鳥取12号（2列）	19, 19
8	鳥取21号（1列）	20
7	鳥取15号（3列）	20, 20, 21
6	鳥取7号（4列）	22, 25, 29, 31
5	鳥取10号（4列）	31, 33, 32, 32
4	鳥取2号（5列）	31, 31, 31, 31, 33
3	富山県黒部（4列）（赤ケヤキ）	39, 40, 39, 39
2	鳥取11号（5列）	40, 40, 42, 42, 42
1	茨城県林試（5列）	40, 41, 41, 40, 37本

西 ←→ 東

昭和 57 年度 11 月設定

台帳番号 17. コナラ、ミズナラ産地別植栽試験地

ケヤキ（S61.11）　〃

クリ（宮崎産）

第 21 林班リ小班（1.00ha）

手入れ

平成 7 年（1995 年）8 月に除伐と枝打ちを行う（16 年生時）。

S61.11 月植栽

ケヤキ産地別試験植付本数

No.	品　種	本　数	例　数	備　　考
1	鳥大 1 号	15	1	23 本　江尾神社分
2	〃 2 号	38	1	
3	〃 3 号	38	1	
4	〃 4 号	19	1	
5	〃 5 号	18		
6	〃 6 号	37	1	
7	〃 7 号	15	1	7 本混合
8	〃 8 号	15		
9	〃 9 号	37	1	
10	〃 10 号	37	1	
11	黒　部	74	2	
12	日　原	74	2	
13	福　山	69	2	
14	混　合	17	1	
計		533	15	

東←

ケヤキ　1995年8月に除伐、枝打ち、ケヤキは兎害を受け地上1－20cmで樹皮が食われた

品種			杭No.
コナラ	鳥取大学		1
〃			
〃	和歌山県林試		2
〃			
〃	九大粕屋演習林	島根大学演習林(4)	3
〃	岐阜県林試		5
〃			
〃	愛知県林試		6
〃	兵庫県林試	東大富士演習林(8)	7
〃	東大秩父演習林	東大田無演習林(9)	10
〃	三本木営林署	辰巳峠(11)	12
〃	熊本県黒髪	静岡県林試(14)	13
ミズナラ	京都府林試	浅川実験林(16)	15
〃	富山県林試		17
コナラ	岩手県民の森		18
〃	富山県砺波市		19
〃	秋田県林試		20
〃			
〃			
〃			
〃			
ケヤキ38	鳥大1号	江府町(江尾神社35本)…(鳥大15本)	1
〃38	〃2号		2
〃38	〃3号		3
〃37	〃4号	(鳥大5号18本)…(5)…(鳥大19本)	4
〃37	〃6号		6
〃37	〃7号	(混合7本)…(鳥大8号15本)…(8)…(鳥大7号15本)	7
〃37	〃9号		9
〃37	〃10号		10
〃37	黒部		11
〃37			
〃37	日原		12
〃37			
〃37	福山		13
〃32			
〃17	混合		14
ミズナラ	笹吹山三の沢		1
〃	蒜山北の谷		2
クヌギ	富山県林試		3
〃			
〃			
アベマキ	鳥取覚寺		4
〃			
クヌギ	京都府林試		5
〃			
クリ	九大宮崎演習林		6
〃			
ナラガシワ	鳥取市		7

枯損多く失敗 東側 ← → ケヤキ ← → 西側

第21林班リ小班コナラ、ミズナラ、ケヤキ産地別試験地配列図

第21林班リ小班コナラ、ミズナラ、ケヤキ産地別試験地配列図

→西

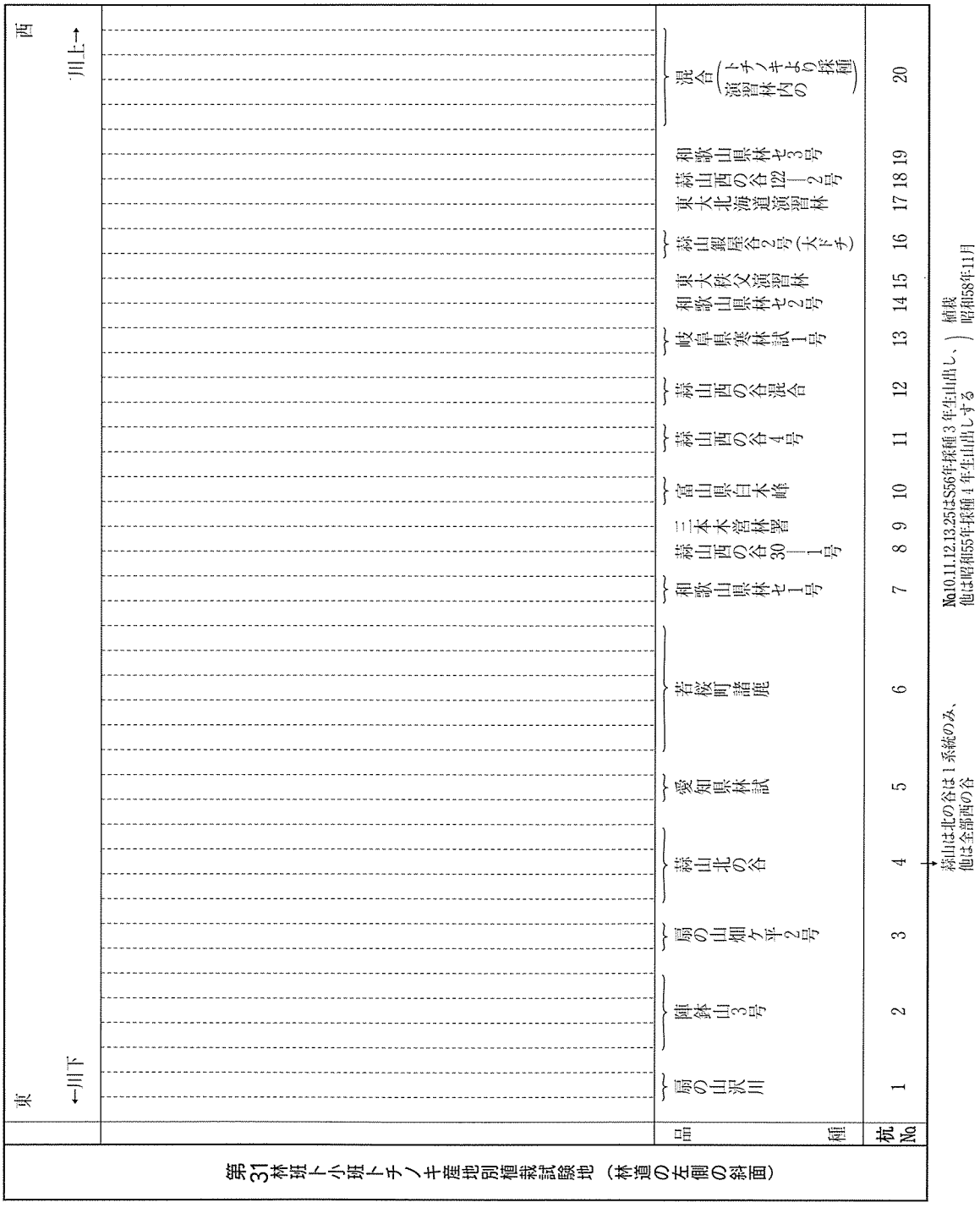
品種	杭No.	
ミズナラ	8	東大秩父演習林
〃	9	北海道新2号
〃	10	岩手県民の森
〃	11	東大富士演習林
〃	12	北海道新1号
〃	13	北海道166号
〃	14	九大宮崎演習林
〃	15	岡山県遠藤1号
〃	18	東大富士演習林
〃	19	岐阜県林試
〃	20	北海道新4号
〃		遠藤2号⑯
〃		遠藤3号⑰

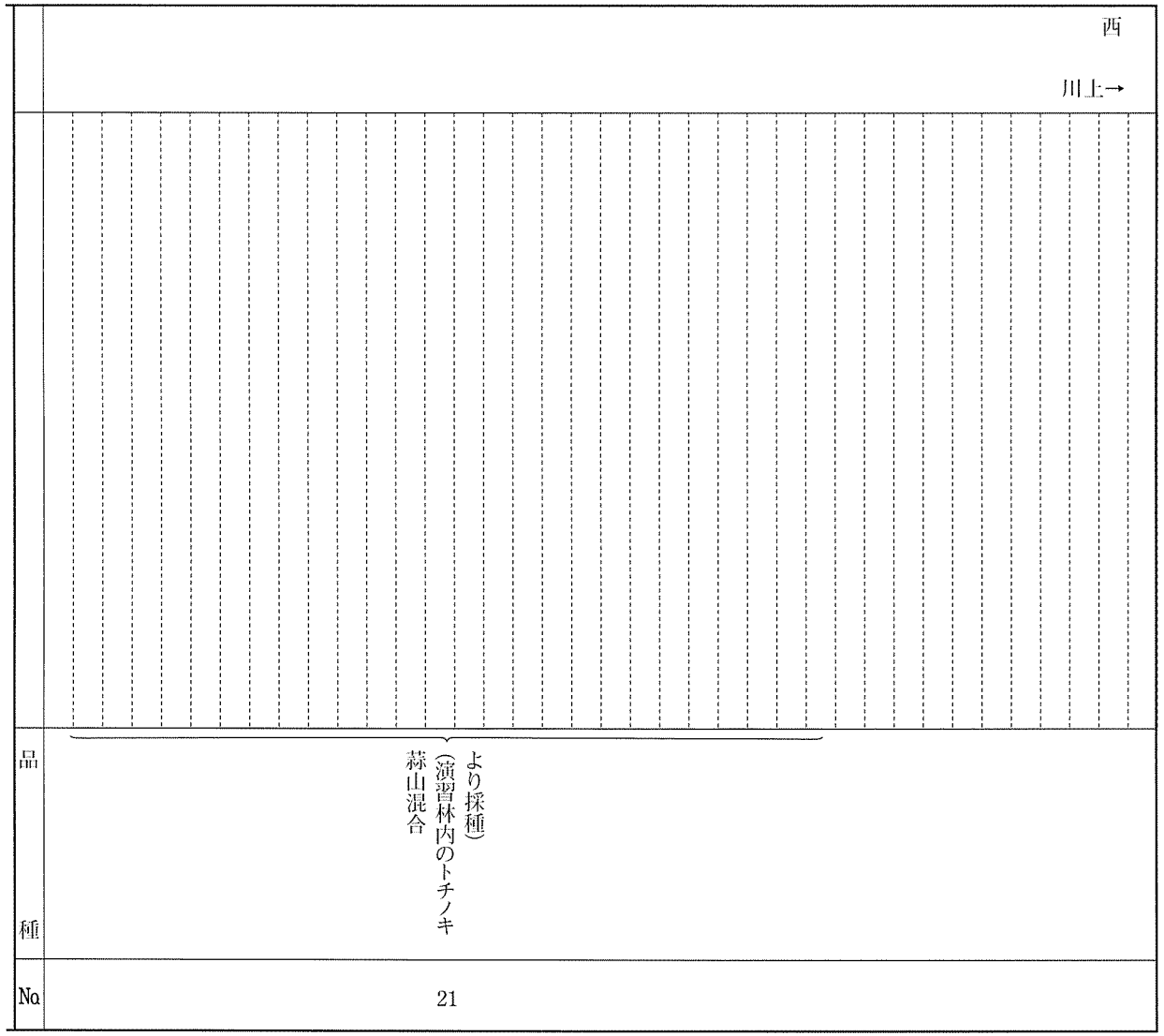
西側 →

昭和 58 年度 11 月設定

台帳番号 18. トチノキ産地別植栽試験地

第 31 林班ト小班（1.00ha）




西
川上→
品種
No
21
より採種）
（演習林内のトチノキ
蒜山混合

第31林班ト小班トチノキ産地別植栽試験地（林道の右側平坦地）

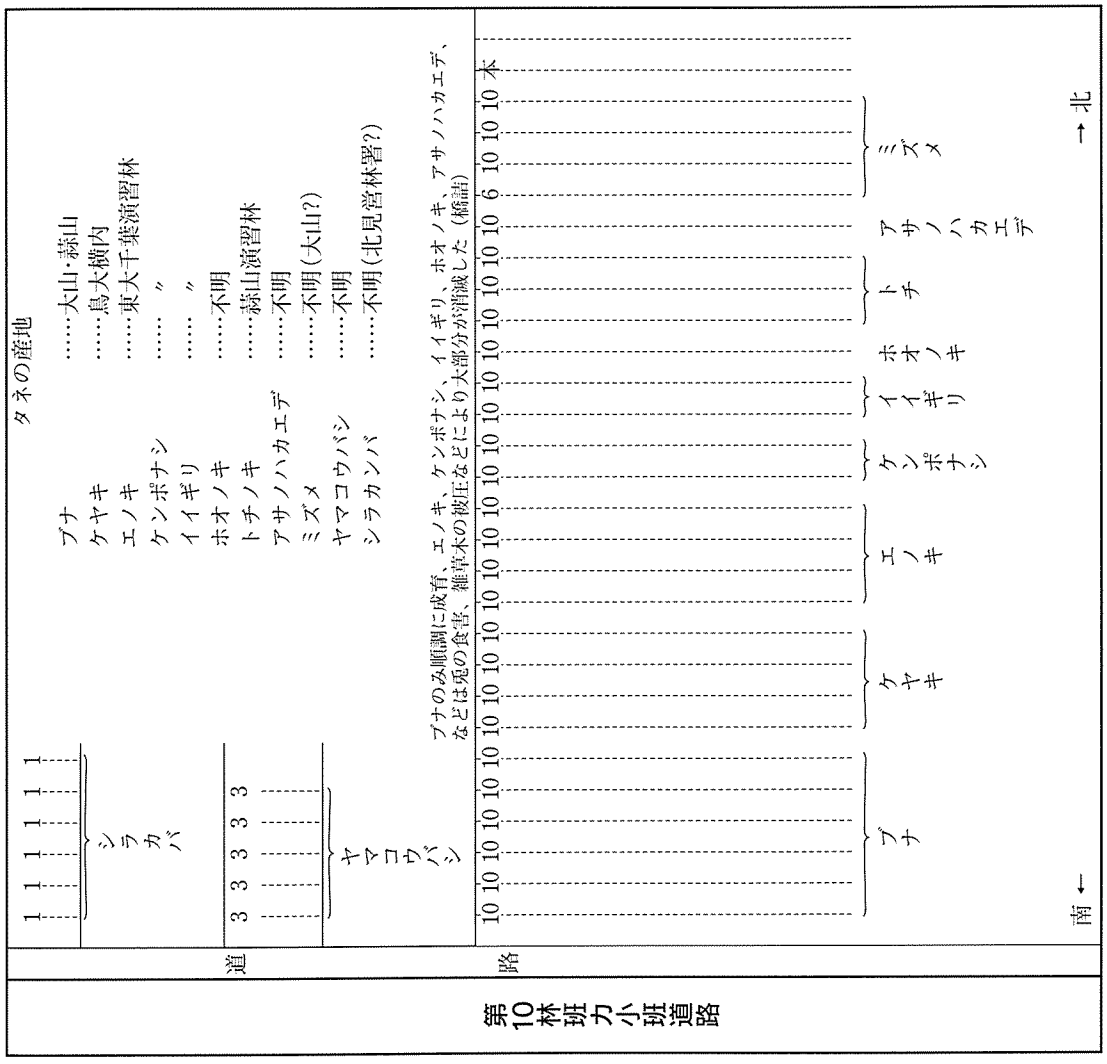
東←　川下　　→西　川上

No	種品
22	扇の山畑ケ平1号
23	〃　妻鹿野1号
24	京大芦生演習林
25	岐阜県寒林試2号
26	蒜山西の山32号
27	蒜山鍛治屋谷1号

昭和 59 年 10 月設定

台帳番号 19. 広葉樹植栽見本林

第 10 林班カ小班（0.20ha）



昭和 62 年 11 月設定

台帳番号 22. ブナ産地別植栽試験地

第 22 林班オ小班（0.50ha）

S62 年 11 月植付
（1987 年）

ブナ苗木明細表

列順	品　種	産地	苗令	本数	列数	備　　考
1	蒜山スカイライン	岡　山	5年	11	1	寒河江 9 本続く
2	白　　山	石　川	〃	16	1	
3	大山三の沢入口	鳥　取	〃	20	1	
4	烏ケ山鏡ケ成	〃	〃	39	2	
5	古口営林署	山　形	6年	42	2	1981 年のタネ
6	寒河江営林署	〃	〃	42	2	
8	大山御机	鳥　取	5年	63	3	
9	大山文殊堂	〃	〃	130	6	
10	烏ケ山新小屋峠	〃	〃	129	6	大山三の沢 12 本続く
11	大山三の沢	〃	〃	147	6	
12	蒜山西の谷	岡　山	〃	156	6	
13	九大宮崎地方演習林	宮　崎	〃	183	7	大山混合 7 本続く
7	毛　無　山	岡　山	〃	53	2	大山混合 5 本続く
14	大山混合	鳥　取	〃	116	4	
合計				1,147	49	33

1994 年雪害、枝折れ、幹割れあり。
手直しの枝打ちを行った。

第22林班　ブナ産地別植栽試験地

東 ← 本数　　→ 西

No	品種	本数	備考
1	蒜山スカイライン	20	寒河江営林署…9本…11本
2	白山	16	
3	大山三ノ沢入口	20	
4	烏ケ山鏡ケ成（2列）	20	
		19	
5	古口営林署（2列）	21	
		21	
6	寒河江営林署（2列）	21	
		21	
8	大山御机（3列）	21	
		21	
		21	
9	大山文殊堂（6列）	21	
		21	
		22	
		22	
		22	
		22	
10	烏ケ山新小屋峠（6列）	23	
		23	
		23	
		24	
		24	大山三ノ沢…12本……烏ケ山新小屋峠…12本
		24	
		24	
11	大山三ノ沢（6列）	24	
		24	
		25	
		25	
		25	
12	蒜山西谷ノ谷（6列）	26	
		26	
		26	
		26	
		26	
		26	
13	九大宮崎地方演習林（7列）	26	
		26	
		27	
		27	
		28	
		28	大山混合…7本
7	毛無山（2列）	21	
		29	
14（49列）	大山混合（4列）	116本	

平成元年（1989）4月設定

台帳番号23. ブナ母樹別植栽試験地

第26林班イ小班（約0.3ha）

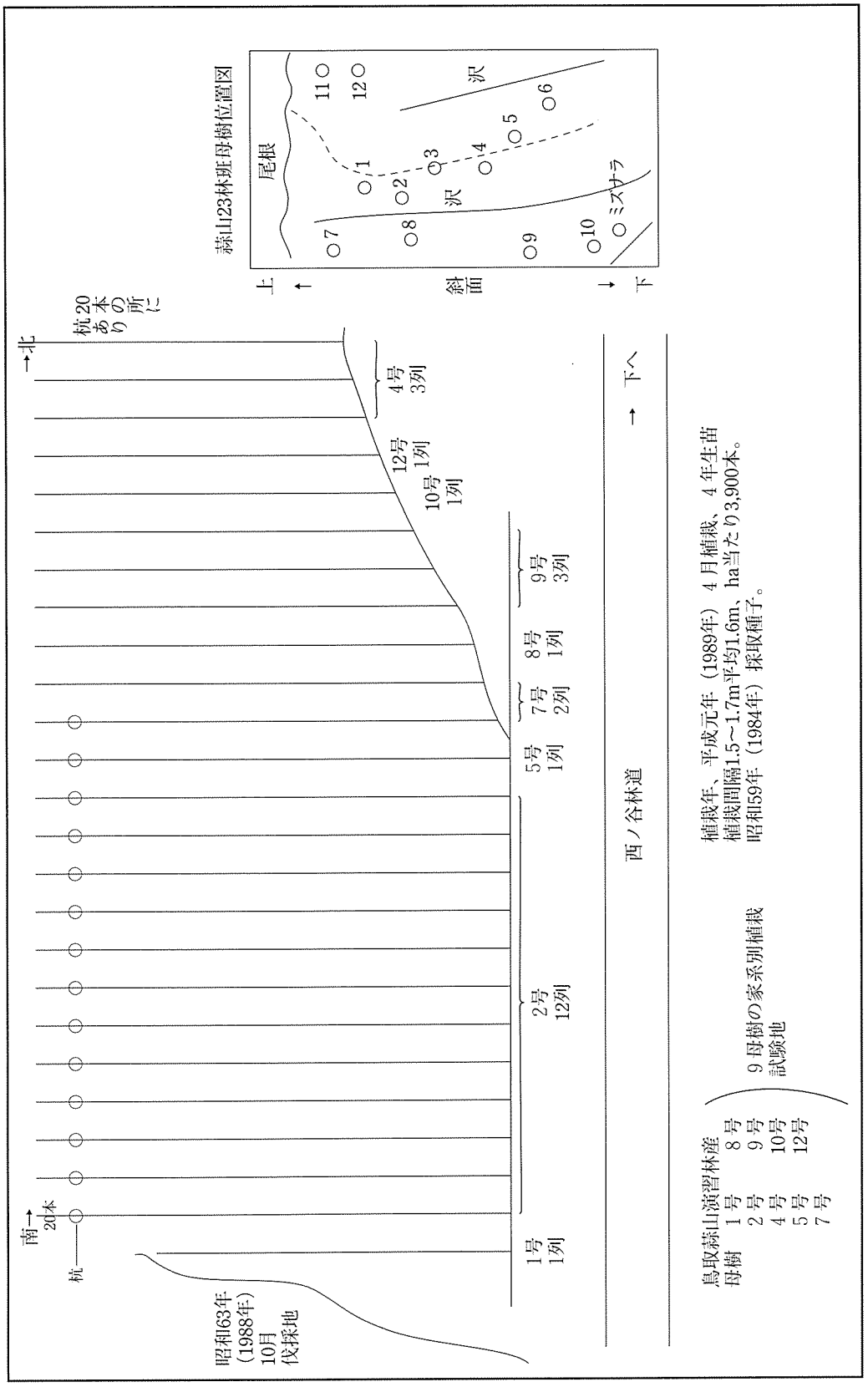
ブナ母樹植栽試験地

場　所：第26林班イ小班
設定年：平成元年（1989年）4月
面　積：約0.3ha
種　苗：蒜山演習林母樹林(23林班)より平成5年(1993)にタネを取り、湖山町農学部苗畑で育苗。
　　4年生苗を植栽、1列20本植え。

蒜山1号	1列
〃 2号	12列
〃 4号	3列
〃 5号	1列
〃 7号	2列
〃 8号	1列
〃 9号	3列
〃 10号	1列
〃 12号	1列

母樹の位置は次の頁に示してある。23林班の老大木である。

蒜山演習林第26林班ブナ試験地



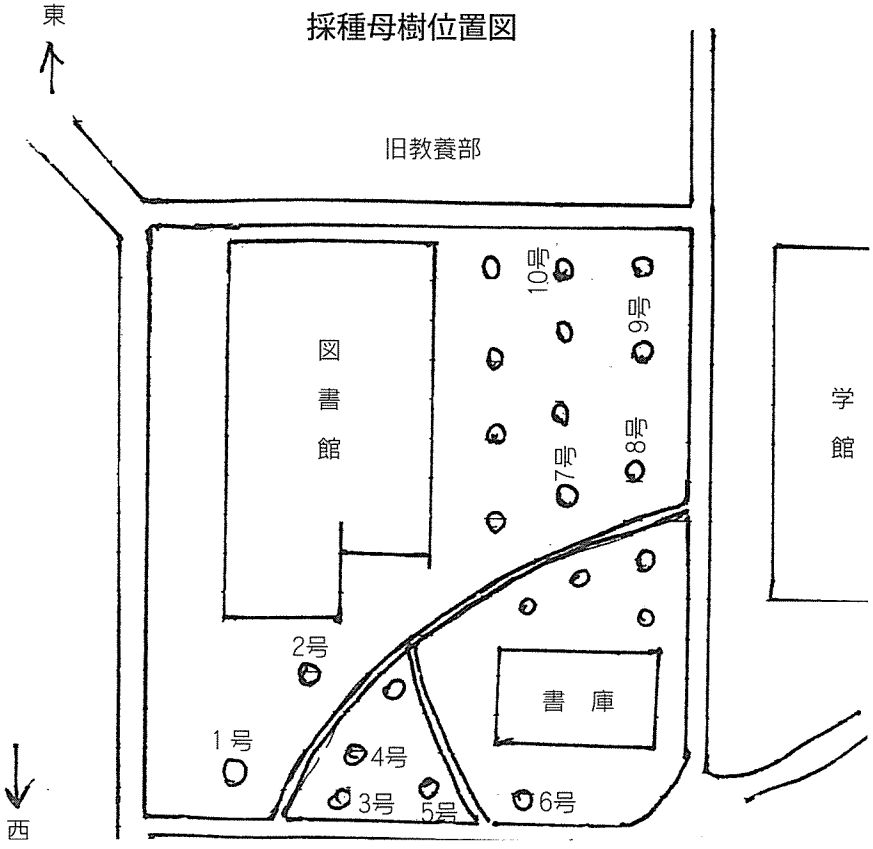
昭和61年（1986）11月設定

台帳番号24. ケヤキ母樹別・産地別植栽試験地

第21林班リ小班（約0.30ha）

ケヤキ母樹別・産地別植栽試験地

場所：第21林班リ小班
設定年：昭和61年（1986）11月
種苗：
●鳥大1～10号…鳥取大学図書館横のケヤキ林からタネをとる。
●黒部…富山県黒部市古御堂49。伊東森作氏より送られた種子。アカゲヤキと称している。
●日原…島根県日原町日原営林署中内谷国有林で山引きした苗木。
●福山…広島県三和町福山営林署可部地山国有林で山引きした苗木。
保育：下刈り、雪起しを数年間行う。詳細不明。除伐、枝打ちを平成7年（1995）に行う。地上2mぐらいまで枝打ちする。
被害：1994年に大雪があり、野ウサギの食害を受けた。地上1～2mでウサギが樹皮を食害した。



S61.11 月植栽

ケヤキ母樹別・産地別試験植付本数

No.	品　種	本　数	例　数	備　　考
1	鳥大 1 号	15	1	25 本　江尾神社分
2	〃 2 号	38	1	
3	〃 3 号	38	1	
4	〃 4 号	19	1	
5	〃 5 号	18		
6	〃 6 号	37	1	
7	〃 7 号	15	1	7 本混合
8	〃 8 号	15		
9	〃 9 号	37	1	
10	〃 10 号	37	1	
11	黒　部	74	2	
12	日　原	74	2	
13	福　山	69	2	
14	混　合	17	1	
計		533	15	

第21林班リ小班コナラ、ミズナラ、ケヤキ産地別試験地配列図

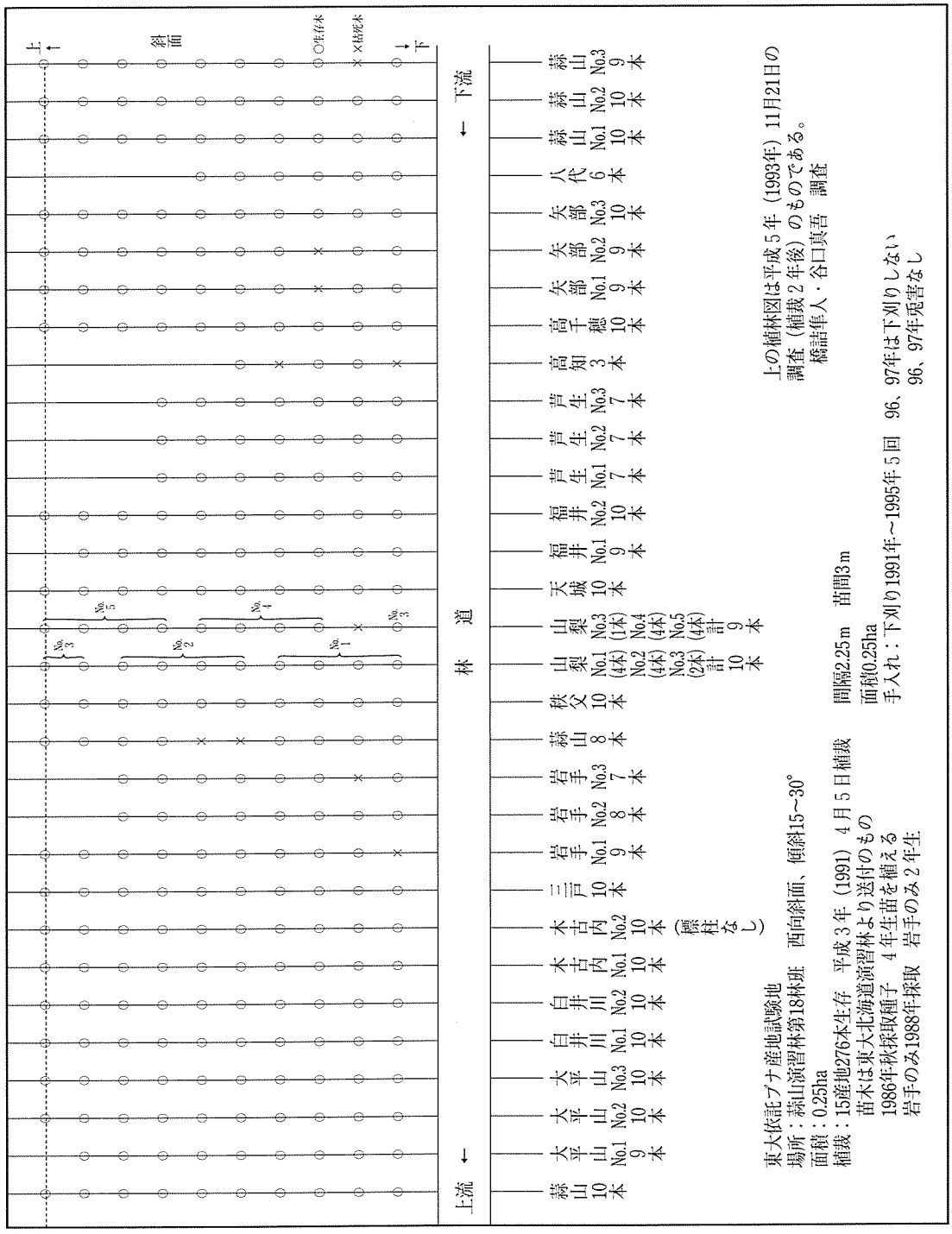
1995年8月に除伐、枝打ち、ケヤキは兎害を受け
地上1－1.5mで樹皮が食われたケヤキ

No	産地	品種	備考
1	鳥取大学	コナラ、〃	
2	和歌山県林試	〃、〃、〃	
3	九大粕屋演習林	〃	島根大学演習林(4)
5	岐阜県林試	〃、〃	
6	愛知県林試	〃	
7	兵庫県林試	〃	東大田無演習林(9)　東大富士演習林(8)
10	東大秩父演習林	〃	辰巳峠(11)
12	三本木営林署	〃	
13	熊本県黒髪	〃	静岡県林試(14)
15	京都府林試	〃	浅川実験林(16)
17	富山県林試	ミズナラ、〃	
18	岩手県民の森	コナラ	
19	富山県砺波市	〃、〃	
20	秋田県林試	〃、〃、〃	
1	鳥大1号	ケヤキ 38	江府町(江尾神社23本)　(鳥大15本)
2	〃2号	〃 38	
3	〃3号	〃 38	
4	〃4号	〃 37	(鳥大5号18本)(5)　(鳥大19本)
6	〃6号	〃 37	
7	〃7号	〃 37	(混合7本)　(鳥大8号15本)(8)　(鳥大7号15本)
9	〃9号	〃 37	
10	〃10号	〃 37	
11	黒部	〃 37、〃 37	
12	日原	〃 37、〃 37	
13	福山	〃 37、〃 32	
14	混合	〃 17	
1	蒜山北の谷	ミズナラ	
2	笛吹山三の沢	〃	
3	富山県林試	クヌギ、〃、〃	
4	鳥取覚寺	アベマキ、〃	
5	京都府林試	クヌギ、〃	
1	九大宮崎演習林	クリ、〃	

平成３年（1991 年）４月設定

台帳番号 25．ブナ産地別植栽試験地

第 18 林班ホ小班（0.25ha）



18林班ブナ試験地の種子産地

産地名	採取地	標高	採取月日	採取者（提供者）	母　樹
大平山	北海道島牧村	160m	1986.9.29	永豊担当区　澤田　優	母樹3本混合
	黒松内営林署事業区183林班い小班				D50-H20,D54-H21,D42-H18
黒松内				（森林総合研究所　長尾精文）	
白井川	北海道寿都郡黒松内町字白井川道有林	不明	1986.9.27－10.27	倶知安林務署黒松内事業区竹田新治	2本
木古内	北海道知内町木古内営林署1154林班い2小班	270m	1986.10.3	碁盤沢担当区　三沢信一郎	DBH48cm,H17m,Crown12m
三戸	青森県三戸郡新郷村大字戸来				
	字戸来岳三戸営林署114林班る小班	不明	1986.9下－10月上	三戸営林署経営課	林齢131年　保護樹帯
三本木				（森林総合研究所　長尾精文）	
岩手	岩手県盛岡市岩手大学植物園	不明	1988.10.4	岩手大学演習林　戸沢俊治	D40cm-H15m
日光	栃木県中禅寺湖畔			（森林総合研究所　長尾精文）	
秩父	埼玉県東京大学秩父演習林突出峠	1,600m	1986.10.20・27	東京大学秩父演習林	数本
山梨	山梨県山中湖村旭が丘県有林	1,050m	1986.10.3	山梨県林業技術センター	樹齢80-100年　No.1=D44cm-H14m
				長田十九三	No.2=D30cm-H14m
					No.3=D50cm-H18m
					No.4=D40cm-H16m
					No.5=D54cm-H16m
長野	長野県飯山営林署木島山155林班り小班	1,150m	1986.10.9	関東林木育種場	6本　D70cm-H15m
沼津	静岡県駿東郡小山町			（森林総合研究所　長尾精文）	
天城	静岡県田方郡天城湯が島町182林班ｂ2小班	1,040m	1986.10.6	天城営林署	1本
福井	福井県福井営林署管内冠山	900－1,000m	1986.10.11　11.10	福井県立短大　畑野健一	天然林
芦生	京都府美山町	No.1 710m	1986.10.3	京都大学芦生演習林	No.1=D42cm-H18m
	京都大学芦生演習林16林班	No.2 660m			No.2=D64cm-H22m
		No.3 635m			No.3=D37cm-H15m
高知	高知県土佐郡本川村			（森林総合研究所　長尾精文）	
高千穂	宮崎県西臼杵郡高千穂			（森林総合研究所　長尾精文）	
矢部	熊本県矢部営林署管内	1,470m	1986.10.17	矢部営林署	5本
八代	熊本県八代営林署管内	1,500m	1986.10.21	八代営林署	樹齢150年　4～5本

昭和 63 年（1988 年）4 月設定

台帳番号 26. クヌギの人工造林

苗木の形態別植栽試験、施肥試験地

第 7 林班ワ小班（1.0ha）

クヌギの人工造林－苗木の形態別造林試験

場所：7 林班ワ小班
設定：63 年 4 月植栽（1988 年）
苗木：鹿児島県田代町迫　森竹氏育苗木

1 年生分岐根苗	苗高　80 cm 〃　110 cm	鹿児島県産
1 回床替 2 年生分岐根苗	苗高　80 cm 〃　120 cm 〃　150 cm	鹿児島県産
無床替 2 年生分岐根苗	苗高 170 cm	鹿児島県産
無床替 4 年生直根苗	苗高 170 cm	蒜山演習林産（熊谷で採種）

施肥区
　別紙論文の通り（表－3 をみよ）

植栽間隔 1.8 m
手入れ…下刈り　　5 年、雪起しを数年行った。
1990 年（植栽から 2 年後）に雪害。幹折れ、枝折れあり、手直しの枝打ちを行った。

表1　苗木の種類と植栽本数

苗木の生産地	苗木の種類	規格 苗高 (cm)	規格 地際直径 (mm)	断幹高 (cm)	植栽本数
鹿児島県田代町	1年生分岐根	80	12	—	24
		110	18	—	25
	1回床替2年生分岐根苗	80	12	—	24
		120	20	—	51
		150	18	—	26
	無床替2年生分岐根苗	170	25	—	26
	無床替2年生分岐根苗	170	25	30	8
				50	8
				100	8
岡山県川上村 鳥取大学蒜山演習林	無床替4年生抗根苗	170	20	30	20
				50	20
				100	30
				無断幹	21

表2　植栽に用いたクヌギ苗木の形質

苗木の種類	規格(苗高)(cm)	苗高(cm)	地際直径(mm)	根長[1](cm)	主根数(本)	苗重[2](g) 地上部	苗重[2](g) 地下部	苗重[2](g) 計	比較苗高(H/Do)	T/R率	側根・細根[3]の割合(%)
1年生分岐根苗	100	95	14	20	4.8	(32)	(50)	(82)	68	(0.64)	—
1回床替2年生分岐根苗	80	84	16	20	4.7	48 (19)	55 (35)	103 (54)	53	0.87 (0.54)	33.7
	120	122	18	26	5.0	103 (60)	144 (79)	247 (139)	68	0.72 (0.76)	28.9
	150	156	25	25	4.3	214 (118)	227 (114)	441 (232)	62	0.94 (1.04)	34.4
無床替2年生分岐根苗	170	167	26	28	4.3	416 (188)	276 (142)	692 (330)	64	1.51 (1.32)	8.4
無床替4年生抗根苗	170	170	19	27	1.0	189 (105)	155 (73)	344 (178)	89	1.22 (1.44)	7.5

備考：1）根長は切断部分までの長さである。2）（　）内は乾重量を示す。3）主根に対する側根・細根の割合を示す。
4）調査本数は各種類とも5本である。

クヌギ大苗の人工林に関する研究

表3　施肥設計

苗木の種類	規格(苗高)(cm)	肥料の種類	1本当たり施用量	1本当たり施肥成分量(g) 窒素	リン酸	カリウム	マグネシウム
1年生分岐根苗	80～110	複合ウッドエース4号	30個	54	27	27	9
1回床替2年生分岐根苗	80～120	複合ウッドエース	15個	52	4.5	—	—
無床替2年生分岐根苗	150～170	複合ウッドエース4号	40個	72	36	36	12
		複合ウッドエース	20個	69	6	—	—
無床替4年生抗根苗	170	複合ウッドエース4号	40個	72	36	36	12
無床替4年生断幹苗	30～100	複合ウッドエース	20個	69	6	—	—

備考：複合ウッドエース4号　N－P－K－Mg＝12－6－6－2（%）
複合ウッドエース　N－P＝23－2（%）

クヌギ施肥試験

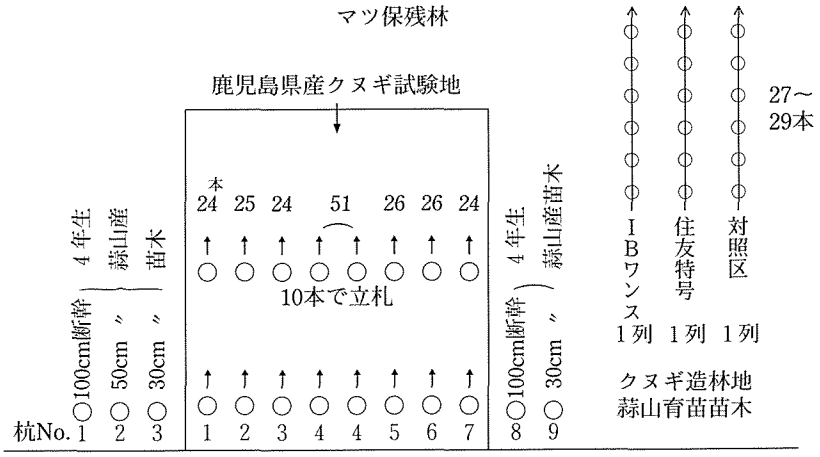
場　　所：7 林班ワ小班（1988 年 4 月植栽の造林地）
試験地設定：1990 年 4 月施肥区設定
　　4 年生蒜山演習林育苗直根苗植栽地

試験区
① IB－ワンス 24 個区（成分N＝20g／本）　－1 列 28 本
② 住友化成特号 100g 区（N＝20g／本）　－1 列 29 本
③ 対照区（無施肥）　－1 列 27 本
　　計 84 本

施肥
第 1 回－ 1990 年 4 月 27 日　植栽木の周囲をくわで深さ 10 cmの穴を掘り側方施肥
第 2 回－ 1991 年 4 月 27 日

供試肥料
IB ワンス（N－P－K－Mg＝12－6－6－2%）
住友特号（N－P－K＝20－10－10%）

場所　7 林班



鹿児島産クヌギ苗

杭 NO.		
1	1 年生分岐根苗	苗高 80 cm
2	〃	〃 110 cm
3	1 回床替 2 年生分岐根苗	苗高 80 cm
4	〃	〃 120 cm
5	〃	〃 150 cm
6	無床替 2 年生分岐根苗	苗高 170 cm
7	無床替 2 年生分岐根苗	断幹区

平成元年（1989）11 月設定

台帳番号 27. コナラ人工造林試験地

―直播と大苗の断幹造林―

第 26 林班イ小班（約 0.2ha）

コナラ人工造林試験

（直播造林・大苗の断幹造林）

場所：26 林班イ小班　約 0.2ha

直播造林
　設　定：平成元年（1989 年）11 月 7 日播種
　試験区
　　竹筒区　3 列
　　直播施肥区　3 列
　　直播無施肥区　3 列

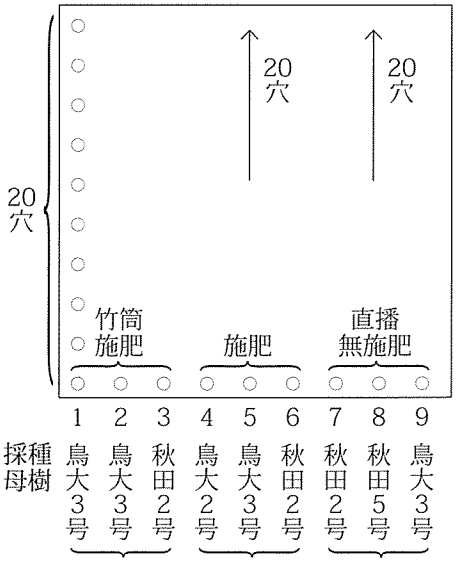
大苗の断幹造林
　設　定：平成 2 年（1990 年）4 月 13 日植栽
　苗　木：蒜山演習林産 4 年生苗長 150 ～ 200 ㎝
　試験区
　　①無断幹無施肥区（1 列）　25 本
　　②　〃　施肥区（4 列）　25 本× 4 列
　　③ 100 ㎝で断幹無施肥区（1 列）25 本
　　④ 100 ㎝断幹施肥区（4 列）　25 本× 4 列
　　⑤　50 ㎝断幹無施肥区（1 列）　25 本
　　⑥　50 ㎝断幹施肥区（4 列）　25 本× 4 列

試験区の配置は次の頁の通り。

コナラの直播・竹筒造林試験地

設定年：平成元年（1989 年）　1989 年 11 月 7 日
場　所：蒜山 26 林班
試験区
(1)　竹筒：播種
　1 カ所 3 粒播種、1 列 20 か所　3 列（20 × 3 ＝ 60 か所）
　鳥大 3 号 2 列、秋田 2 号 1 列
(2)　直播、施肥区
　1 か所 5 粒播種、1 列 20 か所、3 列
　鳥大 2 号 1 列、鳥大 3 号 1 列、秋田 2 号 1 列
(3)　直播、無施肥区
　1 か所 5 粒播種　3 列（20 粒× 3 列）
　秋田 2 号 1 列、秋田 5 号 1 列、鳥大 3 号 1 列

○竹筒播種法（竹筒造林法）
竹筒…直径約 7 ㎝長さ 30 ㎝の竹筒を使用。地中 10 ㎝の深さに真っすぐに立て、うめ込む。種子を 3 個入れ、5 ㎝ほど覆土、覆土面から竹筒の先端まで 15 ㎝の高さとする。
○直播法…坪播き、直径 30 ㎝の範囲内の草木の根を除去し、耕し、植穴を掘り、種子を放射状に 5 個並べ 5 ㎝覆土、その植えを足でふみかためる。目印として、木の杭を立てる。
○植栽間隔…1.3 × 1.3（斜面方向は 1.4 m）ha 当り 5,917 ≒ 6,000 本（播種）
○供試種子…1969 年 10 月鳥大農学部苗畑内母樹より採種。



1　鳥大 3 号…IB ワンス 18 個（N ＝ 15g ／穴）
2　鳥大 3 号…住友特号 75g（N ＝ 15g ／穴）
3　秋田 2 号…ウッドエース 4 号 17 個
　（N ＝ 30g ／穴）2 年分
4　鳥大 2 号…IB ワンス 18 個
5　鳥大 3 号…住友特号 75g
6　秋田 2 号…ウッドエース 4 号 17 個
7　秋田 2 号
8　秋田 5 号
9　鳥大 3 号

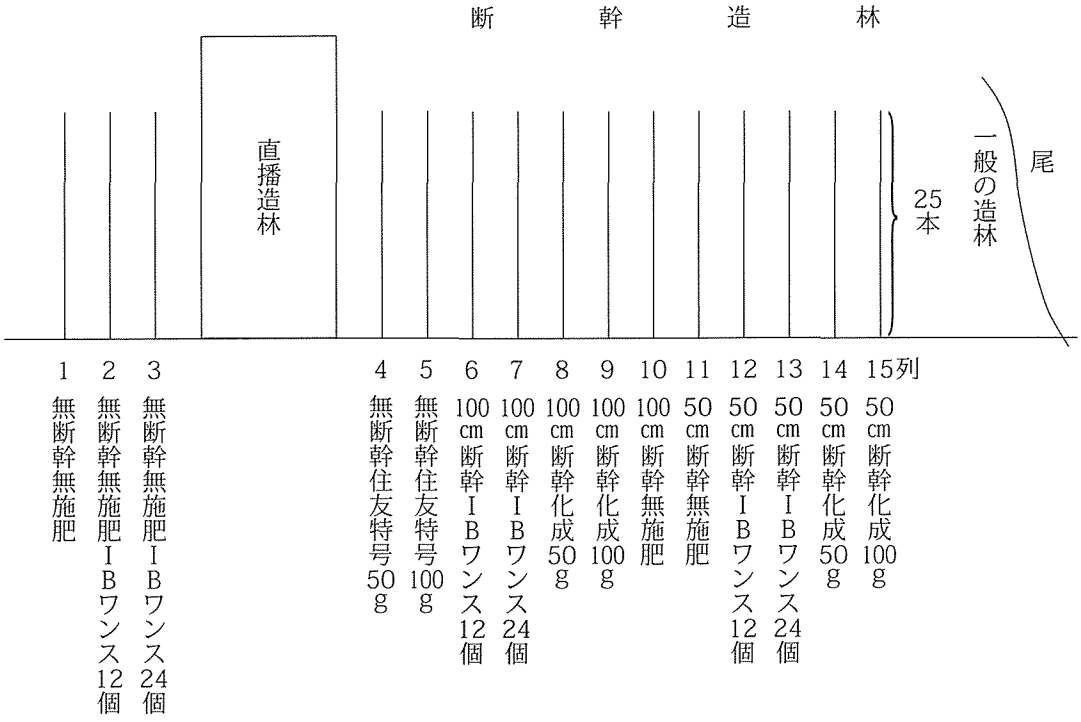
以上 9 列

施肥 { 第 1 回…1990 年 5 月
　　第 2 回…1991 年 5 月

種子は鳥取市の鳥大苗畑で採取した。

コナラ大苗断幹造林試験地

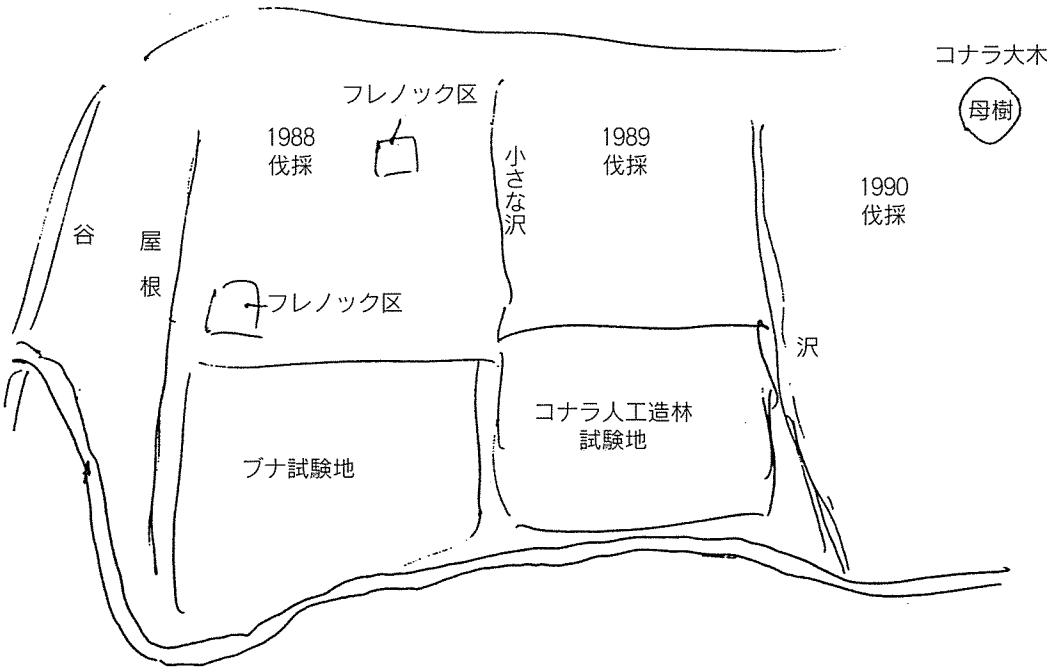
設定年月：平成 12 年（1990 年）4 月 13 日植栽
場　　所：蒜山演習林 26 林班
苗　　木：4 年生大苗苗長 150 ～ 200 ㎝、地際直径 1.5 ～ 2 ㎝
　　根長 20 ～ 30 ㎝切断　蒜山演習林苗畑（12 林班）のもの
施　　肥：第 1 回 1990 年 4 月 19 日
試 験 区：15 区、15 列、1 区（1 列）25 本
断 幹 区：無断幹、10 ㎝断幹、50 ㎝断幹
施 肥 区：無施肥、IB ワンス 12 個（N10g）、IB ワンス 24 個（N20g）
　　住友化成特号（N10g）と 100g（N20g）
　　（1 本当り施肥量）



昭和 63, 平成元年（1988,1989）設定

台帳番号 28. コナラ天然更新試験地

第 26 林班イ , ロ小班（3.0ha）



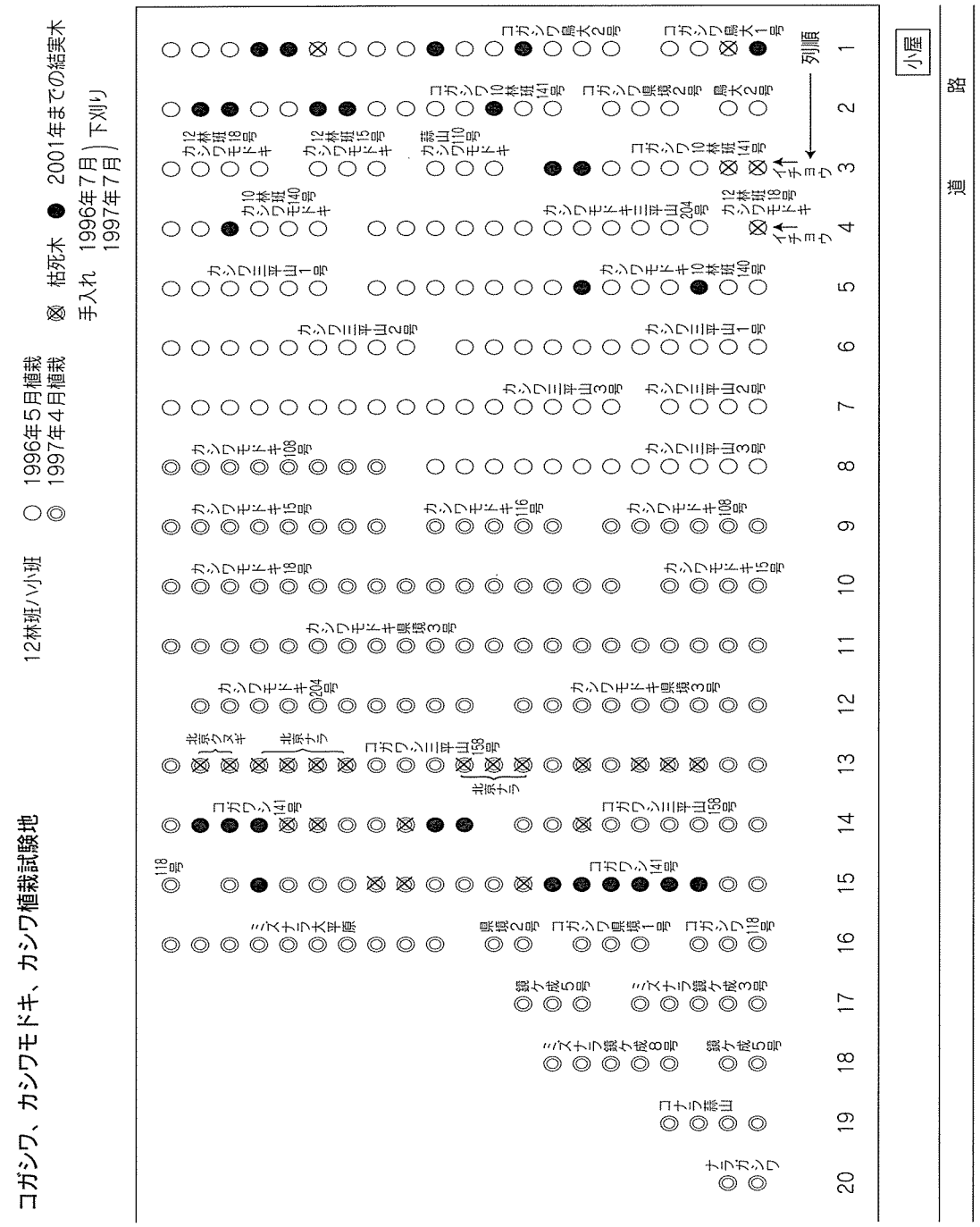
コナラ天然更新試験（択伐）
26 林班イ、ロ約 60 年生林分
S.63 年（1988 年）約 1 ha 択伐
S.64 年（1989 年）　〃　　〃
S.65 年（1990 年）　〃　　〃

コナラ、ミズナラの優良木をｈａ当り約 30 本残して不良木を伐採し、シイタケ原木とする。
萌芽更新と下種更新で再生する。
1988 年伐採地の中にフレノック粒剤散布区（10 × 10m）を 2 カ所設ける。50 kg /ha を 1991 年 8 月 31 日に散布。

平成8年（1996）5月設定

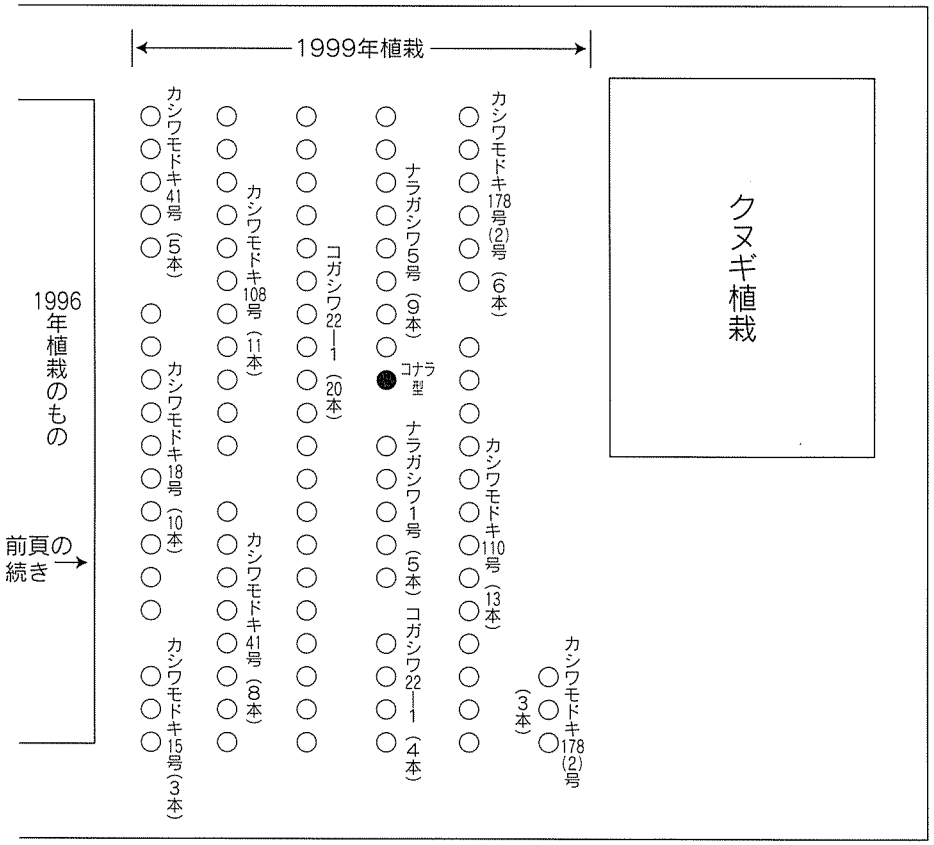
台帳番号 29. ナラ類雑種の自然交配家系植栽試験地

第12林班ハ小班（0.3ha）



注）2001年12月に中国の北京産ナラ7本、クヌギ2、イチョウ4本、を補植した。

平成13年（2001）10月訂正



1999年４月植栽
カシワモドキ・コガシワ…1995年種子　３年生苗木
ナラガシワ…1994年種子　４年生苗木
ナラガシワ５号のコナラ型は４年生で結実した。　●は結実木

母樹と種子の一覧

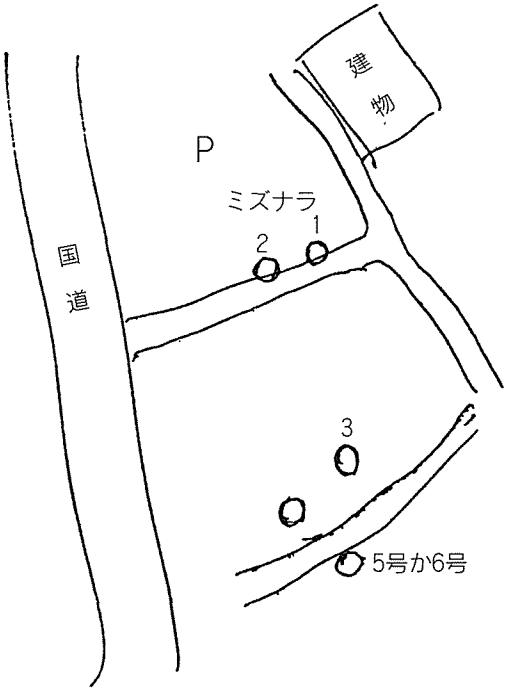
コガシワ鳥大1号	1991 年種子
コガシワ鳥大2号	1991 年種子
コガシワ県境2号	1991 年種子
コガシワ 10 林班 141 号	1992 年種子
カシワモドキ蒜山 110 号	1991 年種子
カシワモドキ 12 林班 15 号	1992 年種子
カシワモドキ 12 林班 18 号	1992 年種子
カシワモドキ三平山 204 号	1992 年種子
カシワモドキ 10 林班 140 号	1993 年種子
カシワ三平山1号	1993 年種子
カシワ三平山2号	1993 年種子
カシワ三平山3号	1993 年種子
カシワモドキ 108 号	1994 年種子
カシワモドキ 116 号	1994 年種子
カシワモドキ 12 林班 15 号	1994 年種子
カシワモドキ 12 林班 18 号	1994 年種子
カシワモドキ県境3号	1994 年種子
カシワモドキ三平山 204 号	1994 年種子
コガシワ三平山 158 号	1994 年種子
コガシワ 10 林班 141 号	1994 年種子
コガシワ 118 号	1994 年種子
コガシワ県境1号	1994 年種子
コガシワ県境2号	1994 年種子
ミズナラ大平原	1994 年種子
ミズナラ鏡ケ成3号	1993 年種子
ミズナラ鏡ケ成5号	1993 年種子
ミズナラ鏡ケ成8号	1993 年種子

コナラ蒜山

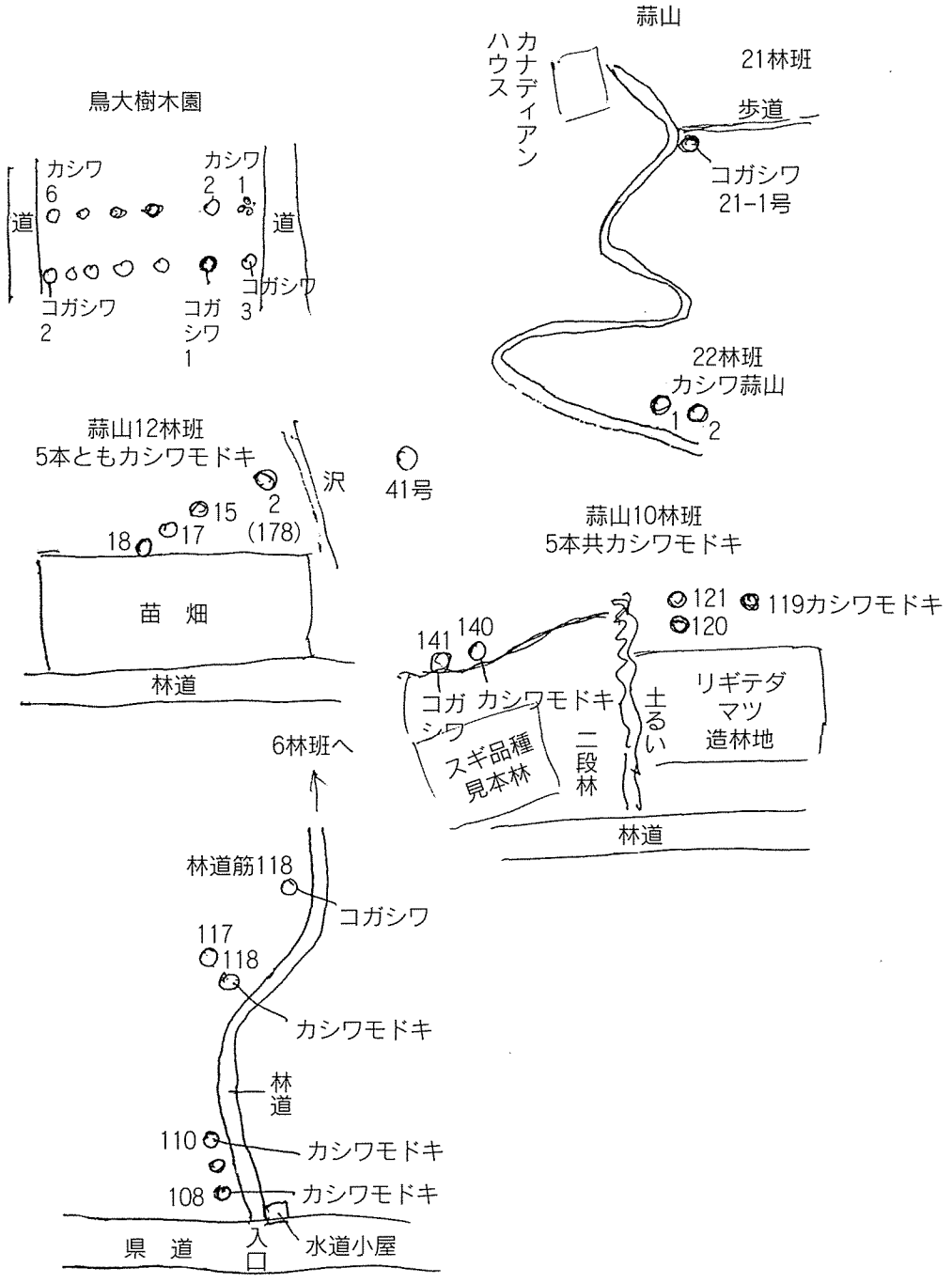
ナラガシワ

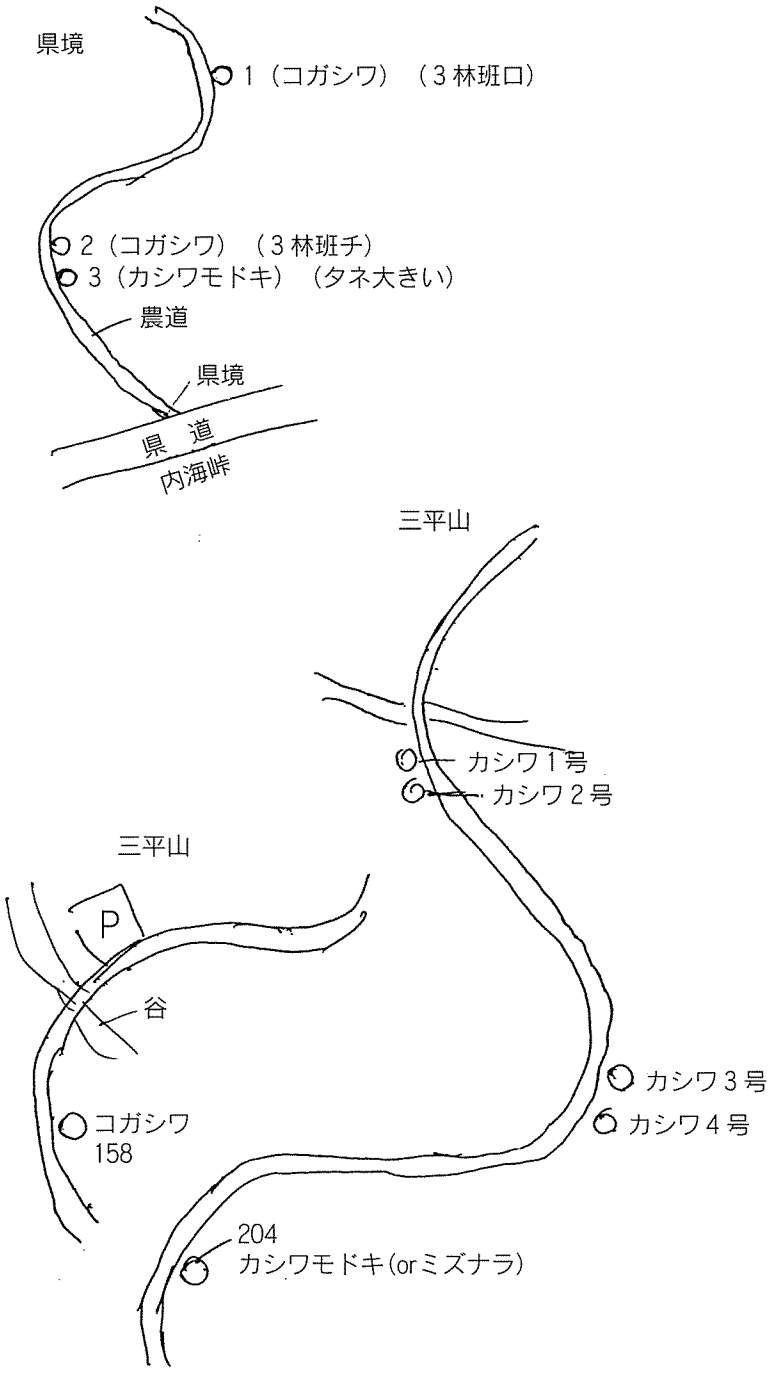
ミズナラの母樹位置図

鏡ケ成



母樹の位置図


蒜山
カナディアンハウス
21林班
歩道
コガシワ
21-1号
22林班
カシワ蒜山
1
2
鳥大樹木園
カシワ
6
カシワ
2
1
道
道
コガシワ
2
コガシワ
1
コガシワ
3
蒜山12林班
5本ともカシワモドキ
沢
41号
2
(178)
15
17
18
苗　畑
林道
蒜山10林班
5本共カシワモドキ
121
119カシワモドキ
120
141
140
コガシワ
カシワモドキ
土るい
リギテダマツ造林地
スギ品種見本林
二段林
林道
6林班へ
林道筋118
コガシワ
117
118
カシワモドキ
林道
110
カシワモドキ
108
カシワモドキ
県　道
入口
水道小屋


県境
1（コガシワ）（3林班ロ）
2（コガシワ）（3林班チ）
3（カシワモドキ）（タネ大きい）
農道
県境
県　道
内海峠
三平山
カシワ1号
カシワ2号
三平山
P
谷
カシワ3号
カシワ4号
コガシワ
158
204
カシワモドキ(orミズナラ)

昭和 56 年起

三朝演習林

試験地台帳

三朝演習林試験地

針　葉　樹

林小班	年　月　日	試　　験　　名	面　　積	台帳番号
7　ト	昭 56 年 10 月	ヒノキ精英樹系統植栽試験地	0.50	1
8　カ	昭 57 年 10 月	スギ精英クローン検定林	0.60	2
3　タ	昭 57 年 10 月	〃	0.35	3
4　ラ	昭 57 年 10 月	〃	0.15	4
4　ナ	昭 57 年 10 月	スギ精英樹挿木苗植栽試験地	0.50	5
7　チ	昭 58 年 10 月	智頭スギ実生苗植栽試験地	0.98	6

広　葉　樹

4 カハ	昭 60 年　4 月	広葉樹林の林相改良試験（保育間伐）	11 プロット	7
5　ネ	昭 63 年 11 月	スギーケヤキ混交植栽試験	1.14	8
5　ネ	昭 63 年 11 月	スギーキハダ混交植栽試験	0.5	9

昭和 56 年 10 月設定

台帳番号 1．ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

第 7 林班ト小班内（0.50ha）

本数		品種	No
66本		日野5号	1
〃		朝来4号	2
〃		出石1号	3
〃		朝来1号	4
〃		松江署1号	5
〃		日野2号	6
〃		出石2号	7
〃		那賀1号	8
〃		飯石1号	9
〃	右合左	峰山1号	10
〃		仁多3号	11
〃		邑智4号	12
〃		豊岡2号	13
〃		綾部1号	14
〃		仁多2号	15
〃		朝来3号	16
〃	合計植付本数 1,188本	朝来4号	17
〃		日野5号	18

第7林班ト小班内　ヒノキ精英樹系統苗植栽試験地

昭和 57 年 10 月設定

台帳番号２．スギ精英樹クローン検定林

第８林班カ小班（0.60ha）

本数	品種	No
51	日野11号	18
51	宮津1号	17
50	京北3号	16
50	園部2号	15
50	園部3号	14
50	園部10号	13
50	綾部3号	12
50	福知山2号	11
50	朝来7号	10
50	八頭9号	9
50	東伯4号	8
50	日野4号	7
50	日野7号	6
50	日野8号	5
50	日野9号	4
50	日野12号	3
50	日野15号	2
50	日野11号	1

合計902本

第8林班カ小班　スギ精英樹クローン検定林

昭和 57 年 10 月設定

台帳番号３，４．スギ精英樹クローン検定林

第３林班タ小班（0.35ha）
第４林班ラ小班（0.15ha）

西	林班界	混合	第3林班タ小班 0.35 第4林班ラ小班 0.15 目野11号 那智2号 邑智5号 仁多2号 大田3号
		品種	No
		1	2 3 4 5 6 7 8

第3林班タ小班　スギ精英樹クローン検定林

東

前頁の続き

鹿足3号	7
鹿足4号	8
鳥取103号	10
鳥取104号	9
松江2号	11
松江3号	12
松江4号	13
松江5号	14
日原3号	15
日野11号	16

昭和 57 年 10 月設定

台帳番号 5．スギ精英樹挿木苗植栽試験地

第 4 林班ナ小班（0.50ha）

精英樹に関する記載はない

昭和 58 年 10 月設定

台帳番号６．智頭スギ実生苗植栽試験地

第７林班チ小班（0.98ha）

苗木に関する記載はない

台帳番号７．広葉樹林の林相改良試験（保育間伐）

場　所：三朝実習林　４林班ハ、カ、ヨ小班内　標高 810 － 830 m
設　定：昭 60（1985）年４月（ブナ区は８月 30 日）　面積 0.446ha

試験区	面　積		間伐後の立木本数（立て木）
1　対照区	20 × 20 m	(400 ㎡)	2275 本／ ha（775）
2　対照区	20 × 20 m	(400 ㎡)	4025 本／ ha（1300）
3　弱度間伐	20 × 20 m	(400 ㎡)	1850 本／ ha（775）
4　弱度間伐	15 × 30 m	(450 ㎡)	1150 本／ ha（850）
5　強度間伐	20 × 20 m	(400 ㎡)	1300 本／ ha（650）
6　対照区	20 × 20 m	(400 ㎡)	2900 本／ ha（800）
7　強度間伐＋施肥	20 × 20 m	(400 ㎡)	1350 本／ ha（675）
8　弱度間伐＋施肥	20 × 20 m	(400 ㎡)	2750 本／ ha（775）
9　強度間伐＋施肥	20 × 20 m	(400 ㎡)	750 本／ ha　(550)
10　間伐（ブナ林）	20 × 20 m	(400 ㎡)	1900 本／ ha（650）
11　対照区（ブナ林）	15 × 25 と 30m の台形	(410 ㎡)	4275 本／ ha（1000）

注）括弧内は立て木の数

実　行
間　伐：60 年６月６～７日（プロット 11 は８月）
施　肥

		施肥量
第１回	昭 60 年６月６日	400 ㎡に 45 kg（３俵）
第２回	昭 61 年５月上旬	住友特号
第３回	昭 62 年４月 25 日	N:P:K=20:10:10

○立て木に赤ペンキをぬる
○各プロットの４角に杭を打つ

表－1．間伐前後の状況と間伐率

プロット	試験区	主要構成樹種	間伐前 立木本数 (本/ha)	間伐前 胸高断面積 (㎡/ha)	間伐前 材積 (㎥/ha)	間伐後 立木本数 (本/ha)	間伐後 立て木本数 (本/ha)	間伐後 胸高断面積 (㎡/ha)	間伐後 材積 (㎥/ha)	間伐率 立木本数 (%)	間伐率 胸高断面積 (%)	間伐率 材積 (%)
1	対照区	クリ、ミズメ、ミズナラ	2,275	33.875	189.37	2,275	775	33.875	189.37	－	－	－
2	対照区	ミズナラ、ミズメ	4,025	37.814	180.57	4,025	1,300	37.814	180.57	－	－	－
3	間伐区	ミズナラ、クリ、ミズメ	3,425	52,775	283.25	1,850	775	29.067	161.89	46.0	44.9	42.8
4	間伐区	ミズナラ	2,700	38.375	198.25	1,150	850	21.531	116.95	57.4	43.9	41.0
5	間伐区	ミズメ、ミズナラ、クリ	3,125	54.000	306.75	1,300	650	23.990	139.95	59.6	55.6	54.4
6	対照区	ミズナラ、ミズメ	2,900	28.663	167.86	2,900	800	28.663	167.86	－	－	－
7	間伐＋施肥区	ミズナラ、ヤマハンノキ	2,750	42.925	270.00	1,350	675	25.289	169.94	50.9	41.1	37.1
8	間伐＋施肥区	ミズナラ	5,200	46.775	237.00	2,750	775	24.295	124.56	47.1	48.1	47.4
9	間伐＋施肥区	ミズナラ、ミズキ、ミズメ	2,125	38.400	252.00	750	550	21.216	149.01	64.7	44.8	40.9
10	対照区	ブナ、ミズナラ	4,275	40.897	184.39	4,275	1,000	40.897	184.39	－	－	－
11	間伐区	ブナ、ミズナラ	2,875	50.800	261.75	1,900	650	29.707	152.89	33.9	41.5	41.6

表－2．間伐後5年間の林分状況

プロット	試験区	林分全体					立て木				
			胸高断面積		材積			胸高断面積		材積	
		枯死率 (%)	成長量 (㎥/年)	成長率 (%)	成長量 (㎥/年)	成長率 (%)	枯死率 (%)	成長量 (㎥/年)	成長率 (%)	成長量 (㎥/年)	成長率 (%)
1	対照区	2.2	0.761	2.1	5.42	2.7	6.5	0.536	2.2	3.79	3.1
2	対照区	3.1	0.948	2.4	7.22	3.6	0.0	0.720	2.3	5.86	4.1
3	間伐区	5.1	1.311	4.1	6.94	3.9	0.0	1.133	4.0	6.09	3.7
4	間伐区	0.0	0.927	3.9	6.42	4.8	0.0	0.892	4.0	6.32	5.0
5	間伐区	3.8	0.983	3.7	6.61	4.2	0.0	0.940	4.2	6.55	4.7
6	対照区	13.8	0.342	1.2	3.62	2.0	6.3	0.422	2.1	3.90	2.9
7	間伐＋施肥区	3.7	0.825	3.0	4.34	2.4	0.0	0.790	3.3	4.05	2.4
8	間伐＋施肥区	5.5	1.234	4.5	7.72	5.4	0.0	1.011	5.1	6.53	5.7
9	間伐＋施肥区	0.0	0.882	3.8	6.49	3.9	0.0	0.807	3.8	5.88	3.8
10	対照区	9.4	0.844	2.0	9.87	4.8	0.0	0.923	3.6	8.51	6.5
11	間伐区	7.9	0.784	3.1	7.05	4.2	0.0	1.163	5.1	7.16	5.5

注）プロット 10、11 は 4 年間の成長

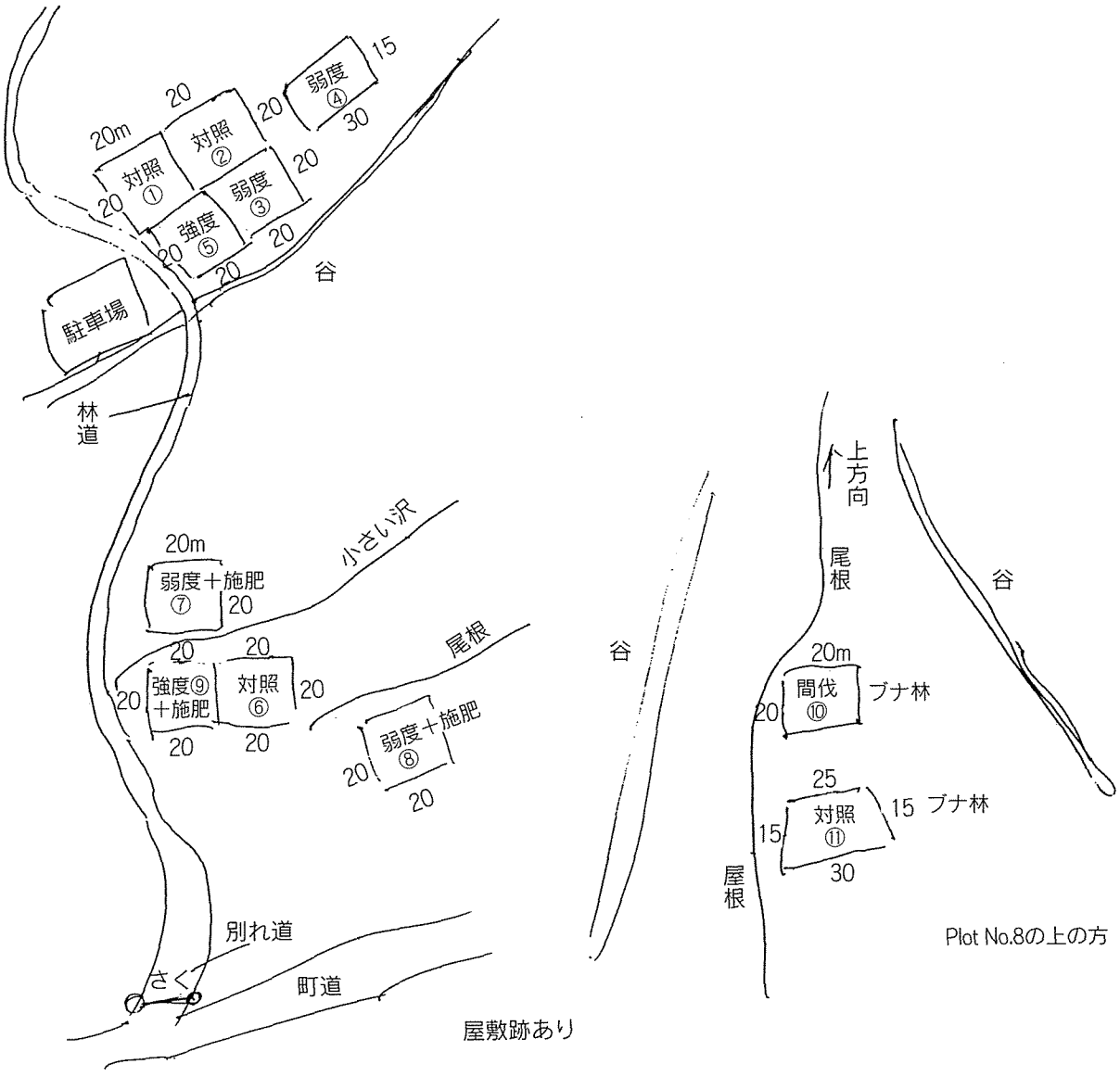
表－3．樹種別の成長の比較

樹種	対照区			間伐区			間伐＋施肥区		
	供試本数	直径成長量 (㎜/年)	胸高断面積成長率 (%)	供試本数	直径成長量 (㎜/年)	胸高断面積成長率 (%)	供試本数	直径成長量 (㎜/年)	胸高断面積成長率 (%)
ミズナラ	38	2.6	3.0	39	3.4	3.9	37	4.0	4.3
ブナ	18	4.0	3.8	29	6.3	7.5	—	—	—
ミズメ	31	2.4	3.0	9	4.2	4.0	11	4.8	5.2
クリ	5	2.8	2.6	10	2.8	2.8	2	4.8	3.7
コシアブラ	15	2.2	2.9	5	1.2	1.1	6	3.4	3.2
ミズキ	2	2.2	2.1	1	5.2	4.5	6	3.0	2.6
ヤマザクラ	1	3.0	4.2	2	6.0	5.2	2	6.4	4.2
ウリハダカエデ	7	2.2	2.3	5	4.2	3.8	1	6.0	5.8
クマシデ	3	1.4	2.0	2	2.0	3.0	1	4.8	5.9
ホオノキ	6	1.8	2.2	6	3.6	4.0	4	4.2	4.3
平均	—	2.5	2.8	—	3.9	4.0	—	4.6	4.4

表－4．萌芽枝の発生状況

樹種	対照区			間伐および間伐＋施肥区		
	供試本数	発生率（%）	1本当り発生本数	供試本数	発生率（%）	1本当り発生本数
ミズナラ	38	81.6	11.2	76	96.1	12.5
ブナ	18	16.7	0.3	29	37.9	1.1
ミズメ	31	3.2	1.2	20	5.0	0.1
クリ	5	80.0	4.2	12	91.7	0.1
コシアブラ	15	6.7	0.3	11	0.0	0.0
ミズキ	2	100.0	2.5	7	42.9	1.3
ヤマザクラ	1	0.0	0.0	4	25.0	3.5
ウリハダカエデ	7	0.0	0.0	6	0.0	0.0
クマシデ	3	0.0	0.0	3	33.3	6.3
ホオノキ	6	0.0	0.0	10	0.0	0.0

注）発生率（%）＝萌芽枝の発生していた個体数／供試本数× 100


20m
20
20
20
15
30
対照
①
対照
②
弱度
④
弱度
③
強度
⑤
20
20
20
20
谷
駐車場
林道
小さい沢
20m
弱度＋施肥
⑦
20
20
20
尾根
強度⑨
＋施肥
対照
⑥
20
20
20
弱度＋施肥
⑧
20
20
谷
別れ道
さく
町道
屋敷跡あり
上方向
尾根
谷
20m
間伐
⑩
ブナ林
20
25
15
対照
⑪
15
ブナ林
30
屋根
Plot No.8の上の方

口　頭　発　表

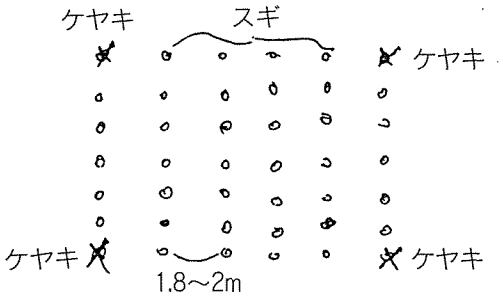
1．橋詰隼人・小谷二郎：落葉広葉樹二次林の林相改良施業に関する研究（Ⅰ）　鳥取大学三朝演習林における二次林の林分構造と主要樹種の生育状況について
　日本林学会関西支部大会講演集　第36号　P.169～172（1985）

2．橋詰隼人・小谷二郎：落葉広葉樹二次林の林相改良施業に関する研究（Ⅱ）　ブナ林の密度管理に関する一考察
　日本林学会関西支部大会講演集　第37号　P.165～168（1986）

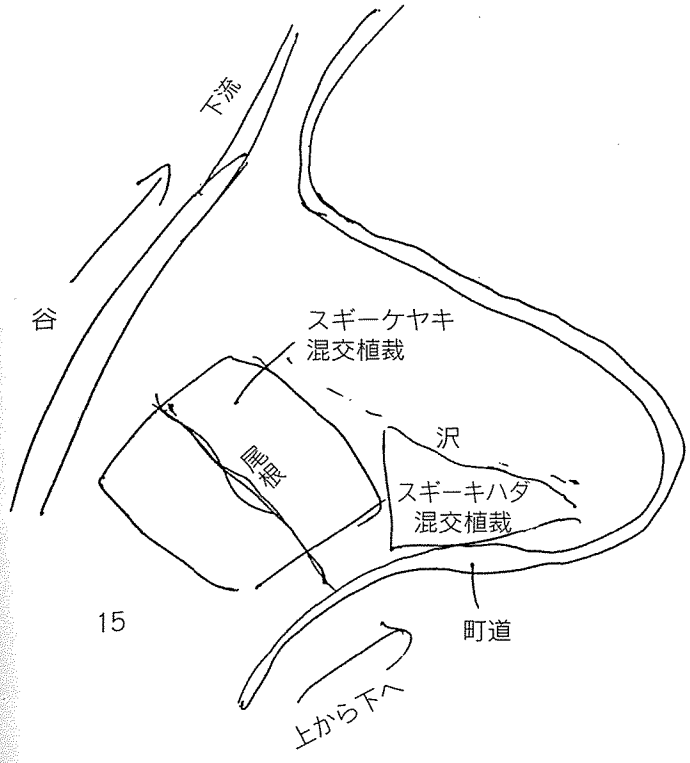
3．古川郁夫他5名：小径広葉樹の材質（Ⅴ）
クヌギの材質に及ぼす施肥および整理伐の影響
　第36回日本木材学会大会研究発表要旨集　P.75（1986）

台帳番号８．スギ－ケヤキ混交植栽試験

場　所：三朝演習林　５－ネ林班
面　積：1.14ha の中
設定年：昭和 63（1988）年 11 月植栽
材　料：ケヤキ－３年生大苗　1.5 ～２ｍのもの
方　法：スギ－３年生実生苗
　　ha 当り 3,000 本（1.8 ｍ間隔）
　　ケヤキを９～ 10 ｍに１本植栽

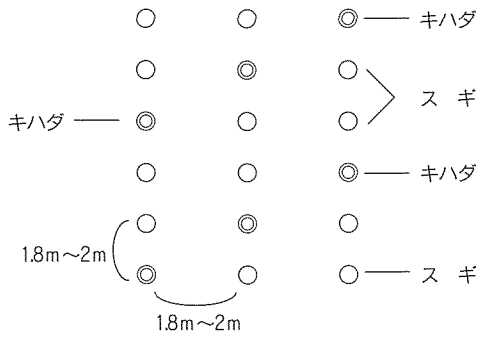


10mおきにケヤキを入れる



台帳番号９．スギ－キハダ混交植栽試験

場　　所：三朝演習林　５－ネ林班
面　　積：0.5ha
植 裁 年：昭 63（1998）年 11 月
植裁本数：キハダ 100 本　２年生？　日野より購入
方　　法：スギの造林地に６ｍおきにキハダを入れる
　　千鳥植え



昭和 46 年 10 月起

溝口演習林試験地台帳

溝口演習林試験地

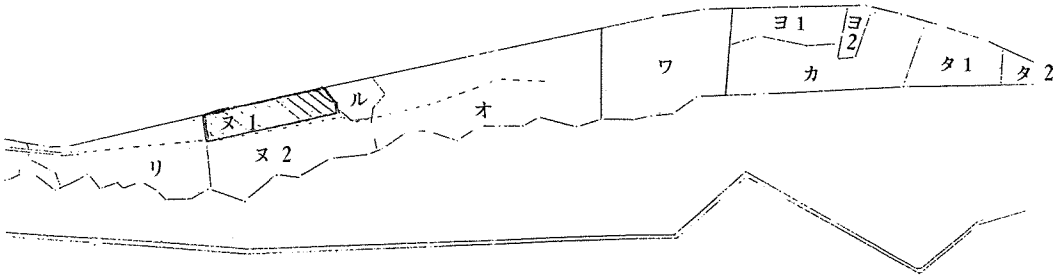
林小班	年　月　日	試　　験　　名	面 積	台帳番号
ヌ	昭46年10月	アカマツ、クロマツ品種別植栽試験地	0.76	1
へ	昭47年10月	アカマツ、ヒノキ混合植栽試験地	0.35	2
ハ	昭59年11月	ヒノキ、アカマツ二段林施業試験地	1.00	3
ヌ－2	平元年10月	マツースギ・ヒノキ二段林（保残木）施業地	0.63	4
ヌ－3	平2年10月	マツースギ二段林（保残木）施業地	0.62	
ヌ－4	平3年10月	マツースギ二段林（保残木）施業地	0.41	
ヌ－5	平4年10月	マツースギ・キハダ二段林（保残木）施業地	0.53	
ル	平7年10月	マツークヌギ二段林（保残木）施業地	0.62	

昭和 46 年 10 月設定

台帳番号 1．アカマツ、クロマツ品種別植栽試験地

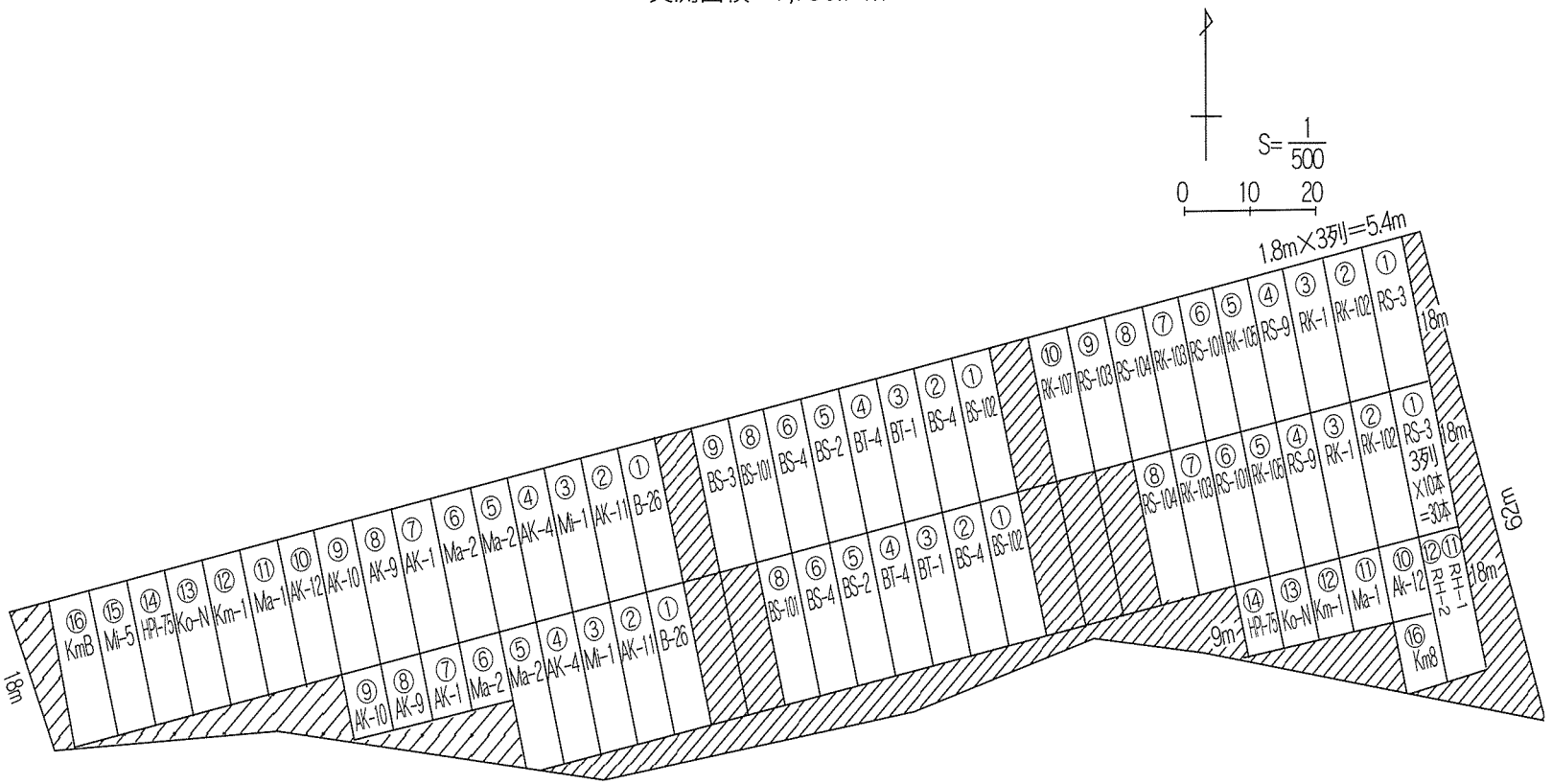
溝口ヌ小班の 1（0.76ha）

溝口演習林



溝口演習林試験ヌ小班

造林地実測図
実測面積　7,750.7 ㎡



注）品種あるいは母樹に関する記載はない

簡易検定用　マツ苗

NO.	母樹	列数	得苗数	所要数	新植用
1	RS-3	13	193	70	(63)
2	RK-102	15	221	70	(63)
3	RK-1	11	165	70	(63)
4	RS-9	8	135	70	(63)
5	RK-105	8	114	70	(63)
6	RS-101	11	160	70	(63)
7	RK-103	7	103	70	(63)
8	RS-104	8	117	70	(63)
9	RS-103	3	45	45	(33)
10	RK-107	3	45	45	(33)
11	RH-1	1	14	14	(10)
12	RH-2	1	12	12	(10)
				676	計（590）残補植用
1	BS-102	9	135	70	(63)
2	BS-4	6	90	70	(63)
3	BT-1	7	101	70	(63)
4	BT-4	8	120	70	(63)
5	BS-2	8	120	70	(63)
6	BS-4	7	105	70	(63)
7	BS-3	4	60	40	(63)
8	BS-101	5	74	74	(63)
				534	計（474）残補植用
1	B-26	12	120	70	(63)
2	AK-11	13	129	70	(63)
3	Mi-1	17	167	70	(63)
4	AK-4	17	161	70	(63)
5	Ma-2	19	183	70	(63)
6	Ma-2	8	76	53	(48)
7	AK-1	12	114	53	(48)
8	AK-9	23	198	53	(48)
9	AK-10	26	221	53	(48)
10	AK-12	18	166	53	(48)
11	Ma-1	27	242	53	(48)
12	Km-1	13	119	53	(48)
13	Ko-N	12	115	53	(48)
14	HP-I-75	5	75	53	(48)
15	Mi-5	5	48	40	(33)
16	KmB	7	69	53	(48)
				920	計（828）残補植用
				2130	合計（1892 本）

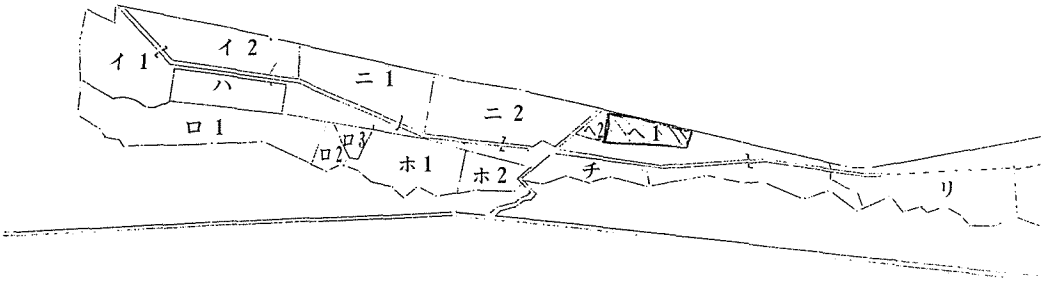
アカマツ　残地 606 本　累計 2,498 本

昭和47年10月設定

台帳番号2．アカマツ、ヒノキ混合植栽試験地

溝口へ小班の1（0.35ha）

溝　口

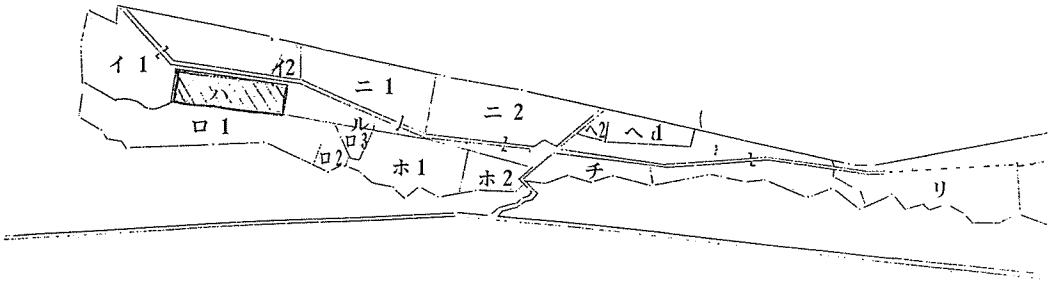


昭和 59 年 11 月設定

台帳番号３．ヒノキ、アカマツ二段林施業試験地

溝口ハ小班（1.00ha）

溝　口



台帳番号4.二段林（保残木）施業地

試　験　地

ヌー2小班 0.63ha 平成元年設定	マツーヒノキ・スギ 二段林
ヌー3小班 0.62ha 平成2年設定	マツースギ　二段林
ヌー4小班 0.41ha 平成3年設定	マツースギ　二段林
ヌー5小班 0.53ha 平成4年設定	マツースギ・キハダ 二段林
ル小班 0.62ha 平成7年設定	マツークヌギ　二段林

上木のマツは保残木として残す。下木のスギ、ヒノキ、キハダ、クヌギは一般造林と同様に植栽する。

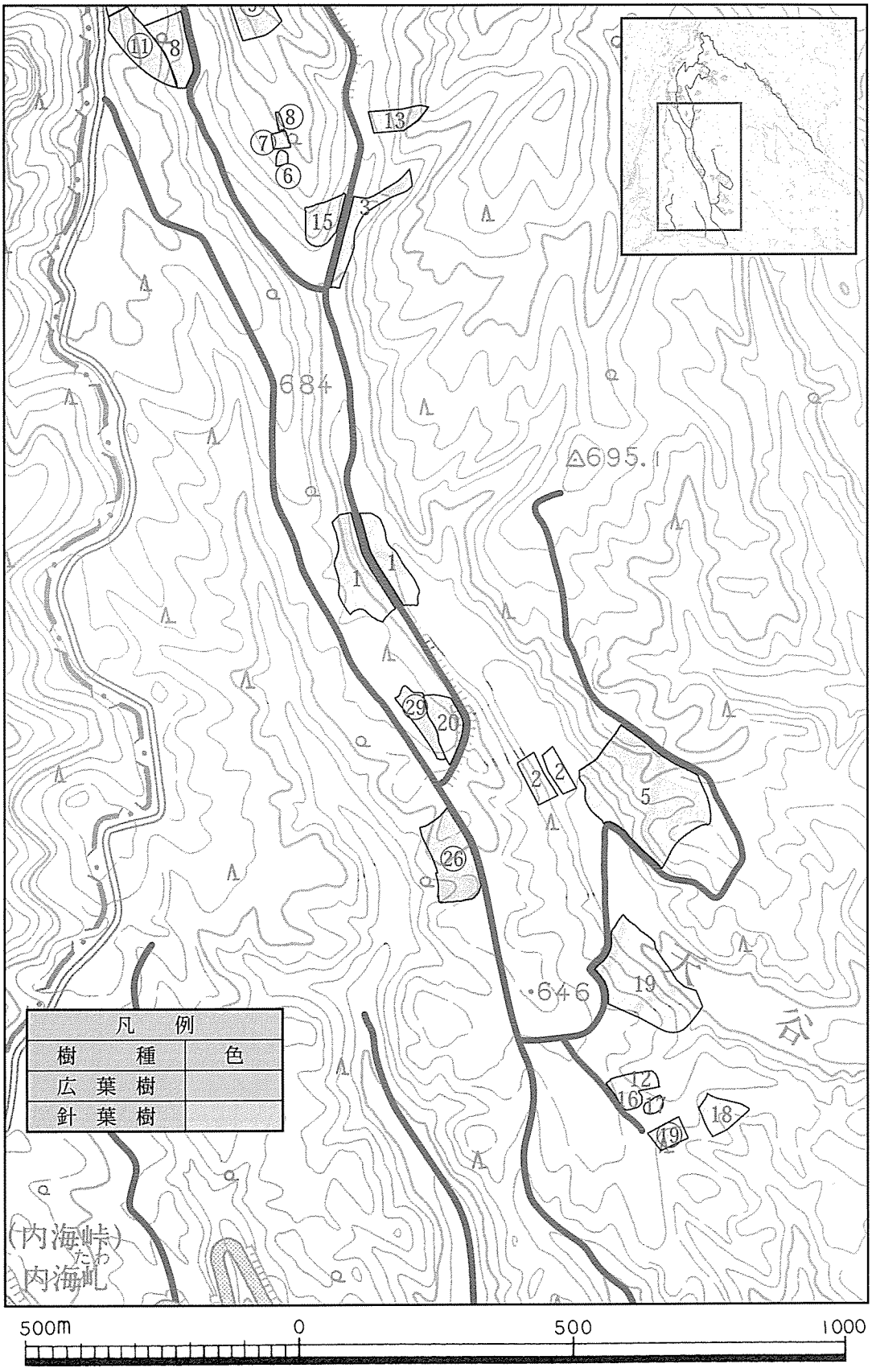
溝口演習林

ヌー2小班	0.63ha	
ヒノキ	0.25ha	平成1年植栽
ス　ギ	0.38ha	平成1年植栽
マ　ツ	44本（70本／ha）	
ヌー3小班	0.62ha	
ス　ギ	平成2年植栽	
マ　ツ	34本（55本／ha）	
ヌー4小班	0.41ha	
ス　ギ	平成3年植栽	
マ　ツ	23本（56本／ha）	
ヌー5小班	0.53ha	
ス　ギ	0.48ha	平成4年植栽
キハダ	0.05ha	平成4年植栽
マ　ツ	21本（40本／ha）	
ル小班	0.62ha	
クヌギ	平成7年植栽	
マ　ツ	7本（11本／ha）	

スギ、ヒノキの種子は茅部産

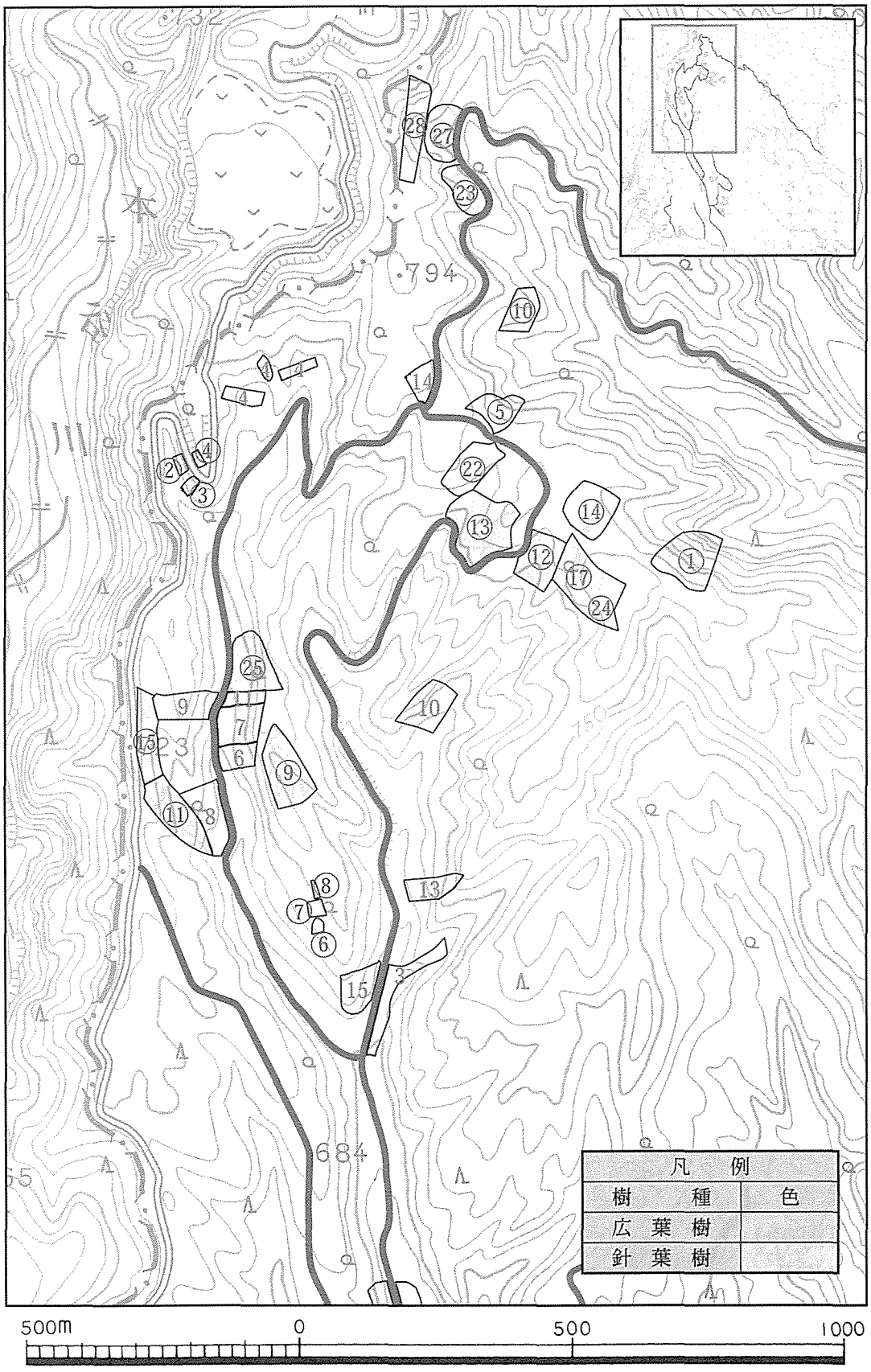
付図1

蒜山演習林の試験地位置図



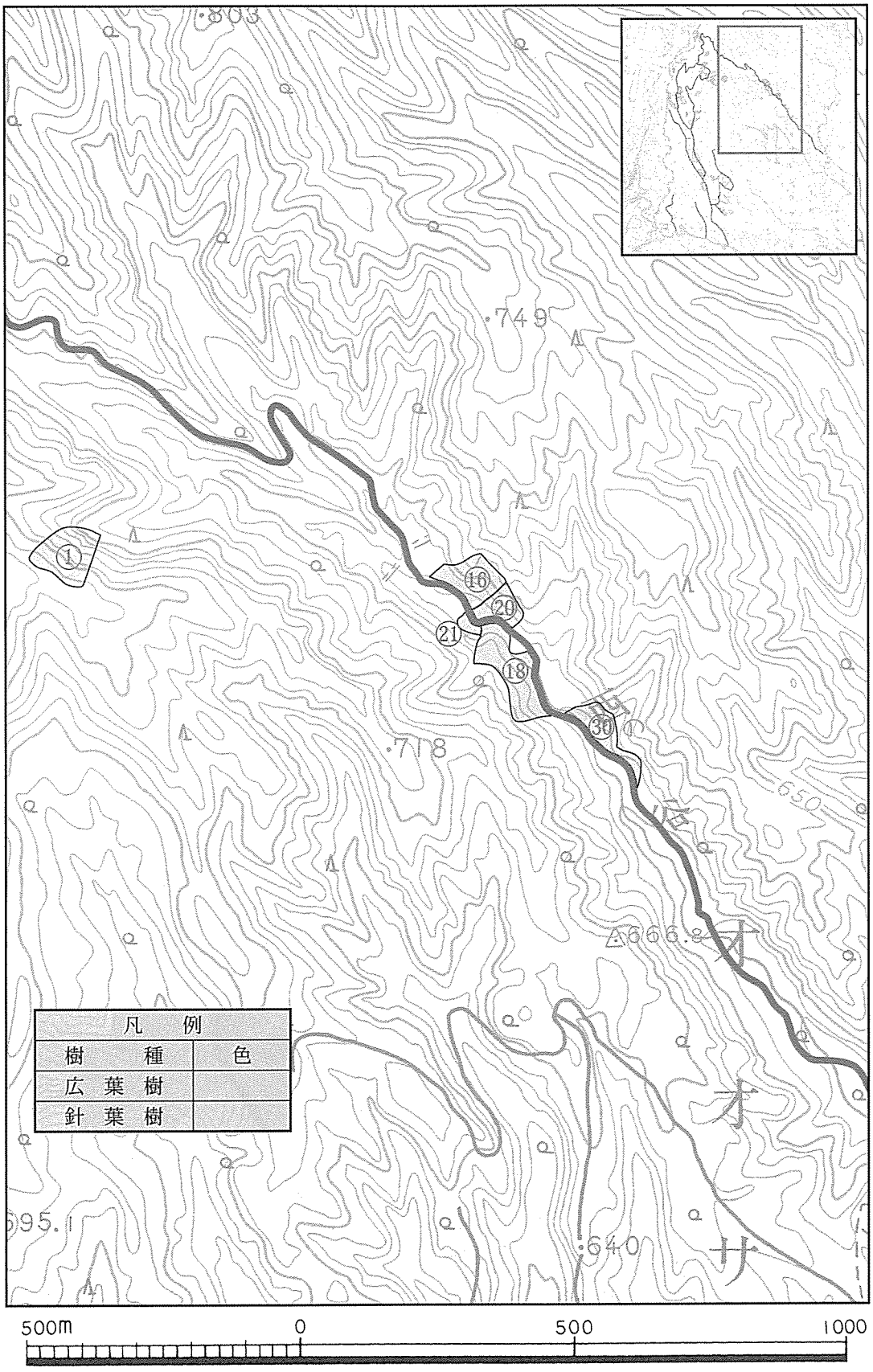
付図1

138 蒜山演習林の試験地位置図



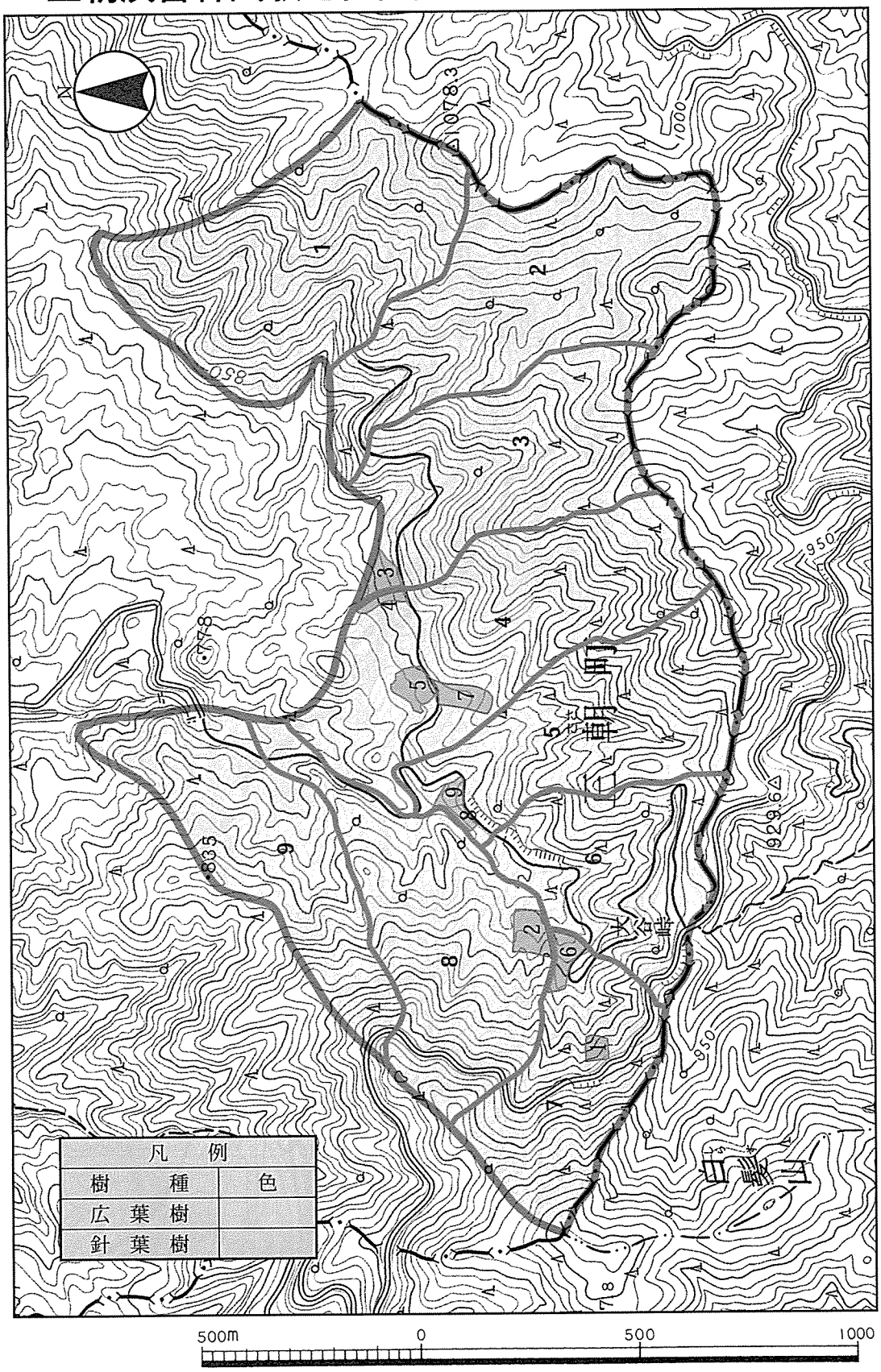
付図1

蒜山演習林の試験地位置図



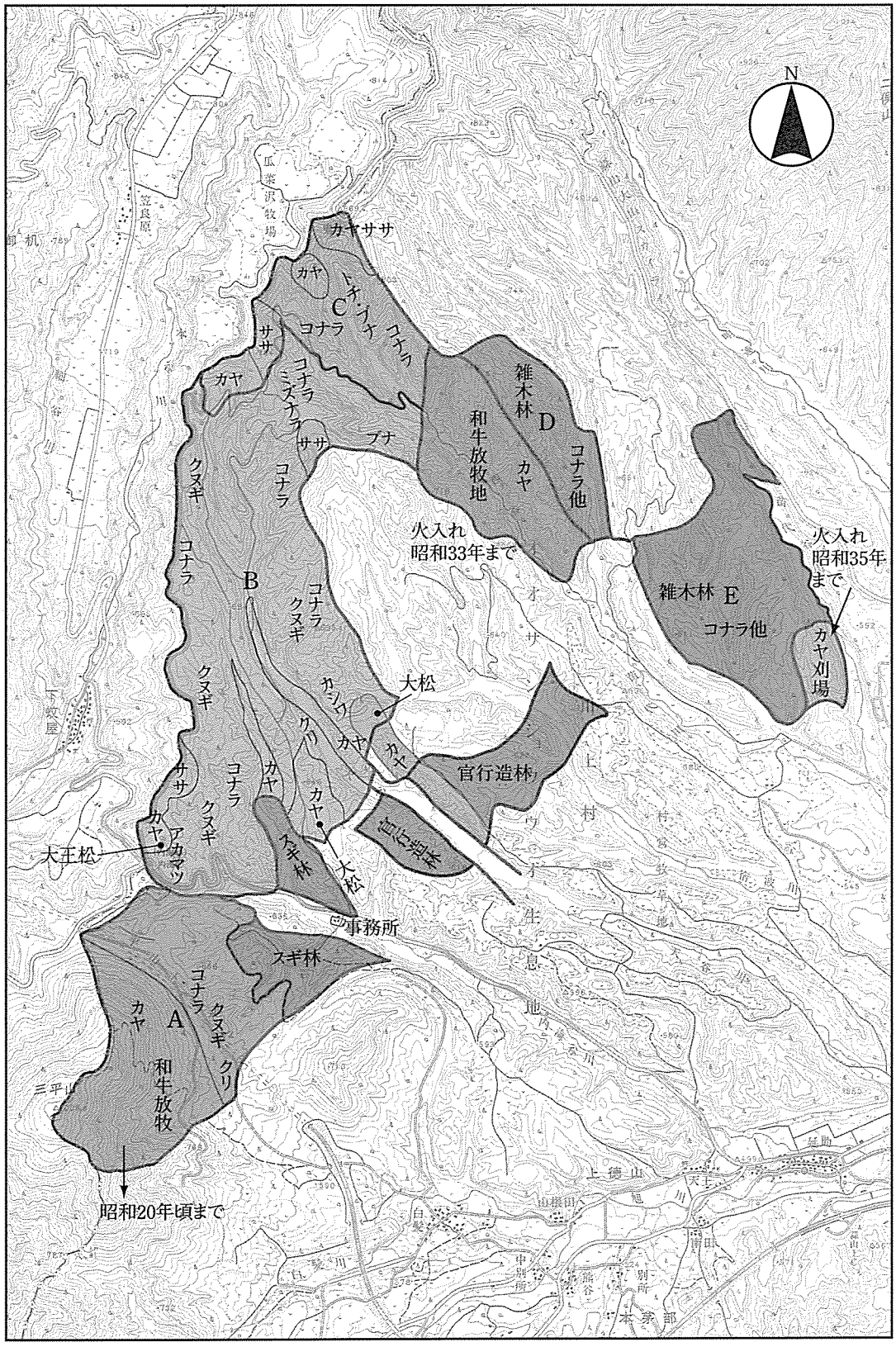
付図2

三朝演習林試験地位置図



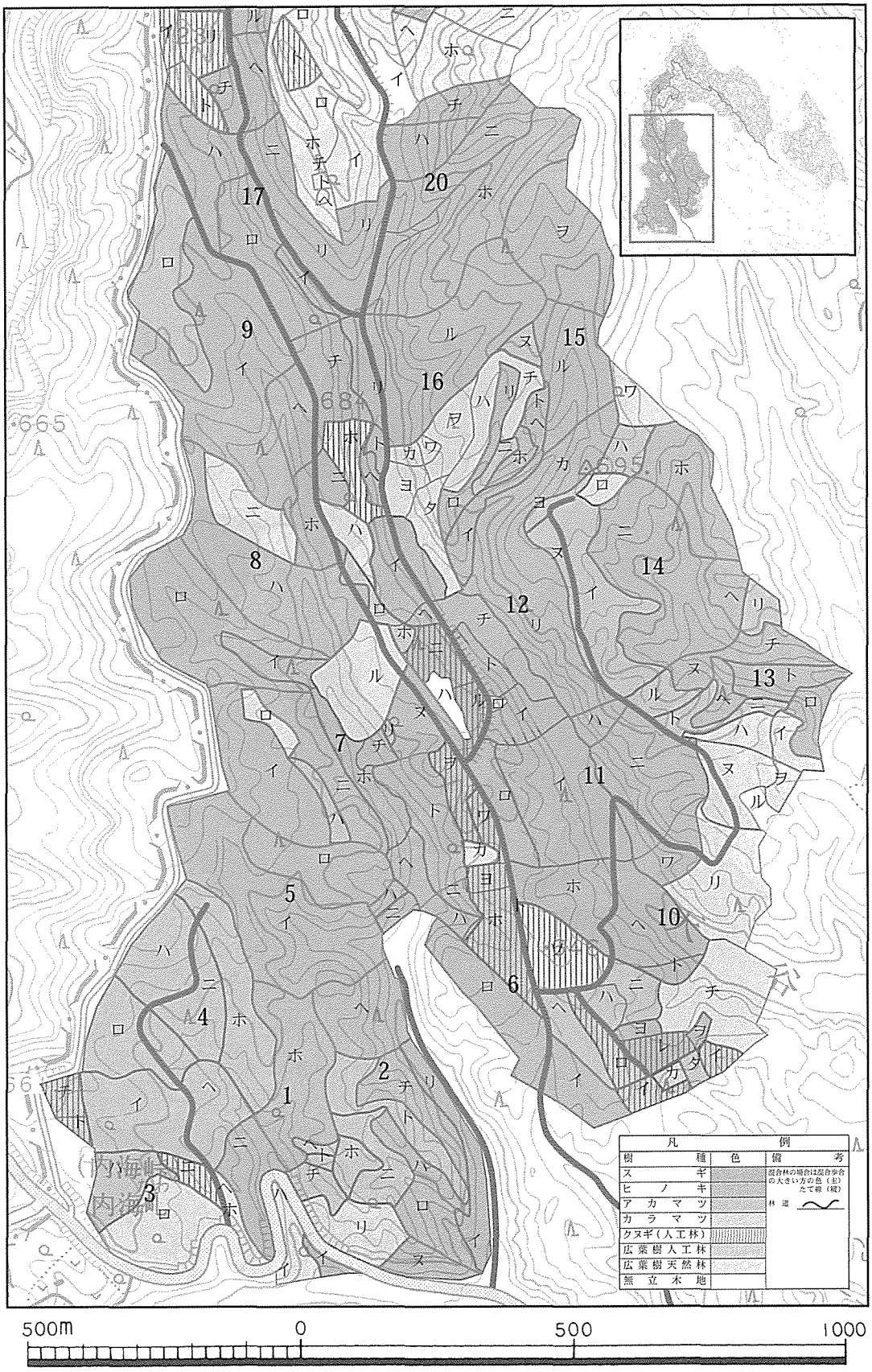
付図3

昭和30年頃までの蒜山演習林およびその付近の林地の利用状況と植生



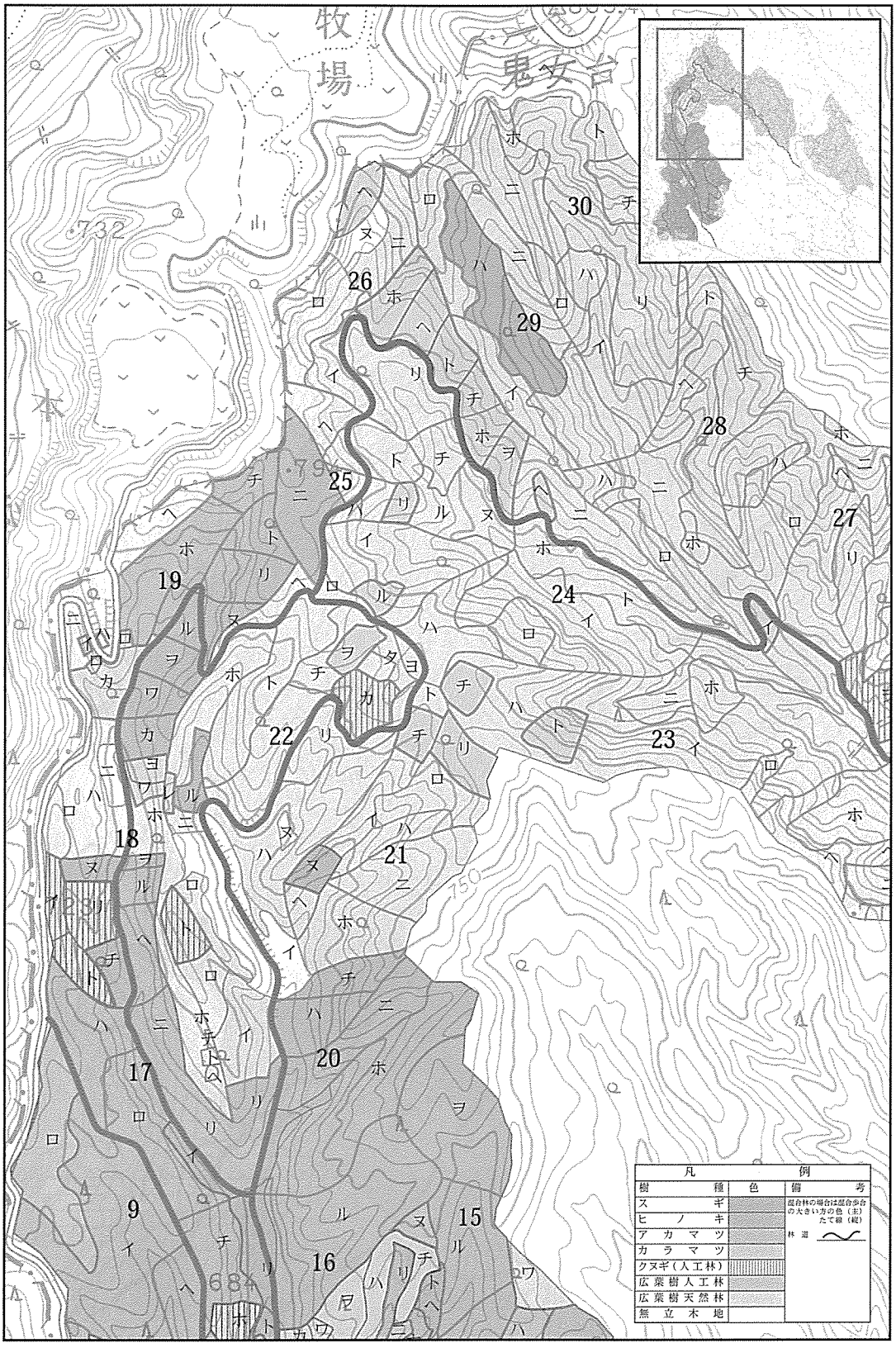
付図4

蒜山演習林林相図 平成11年末現在



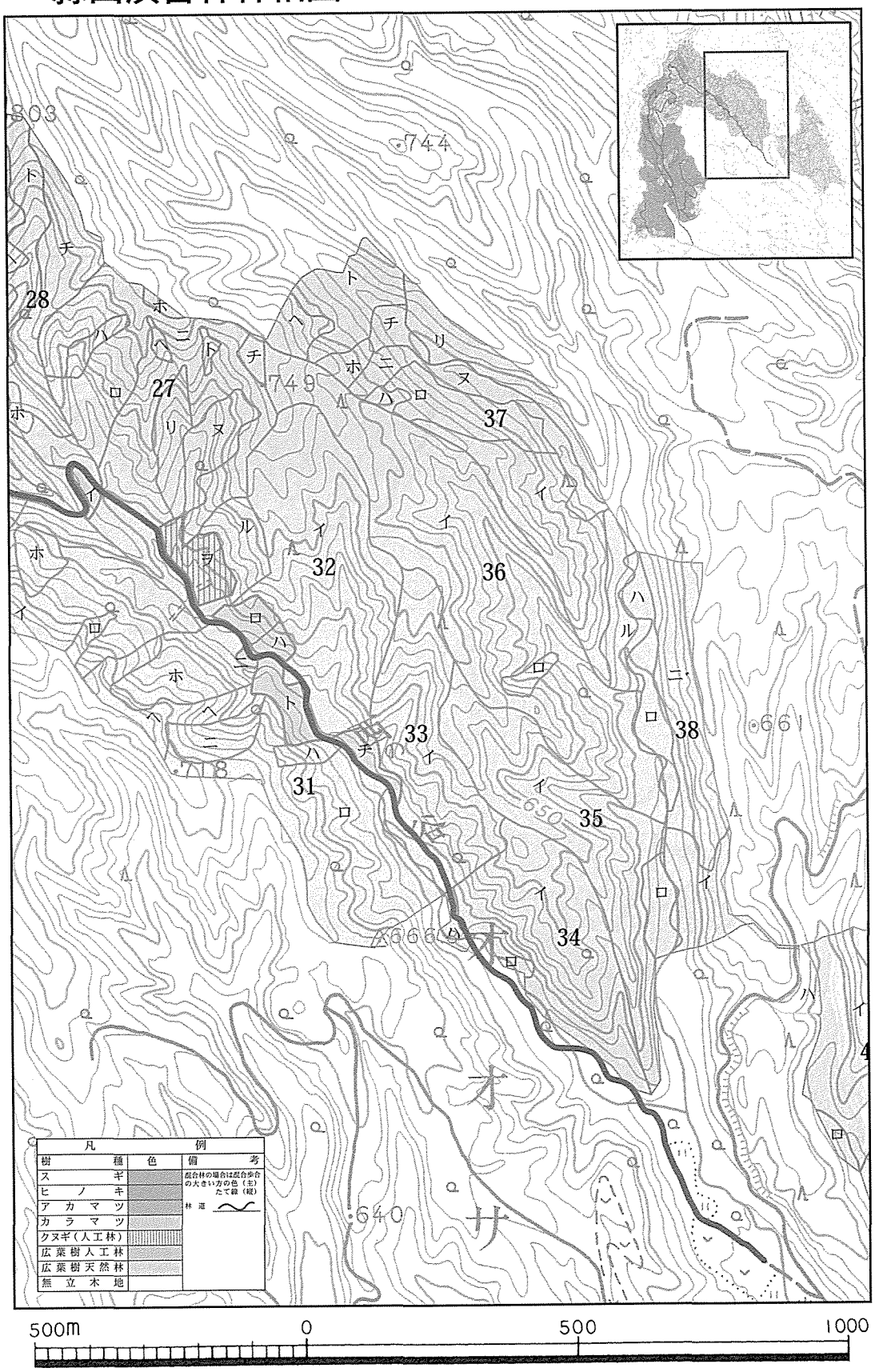
付図4

蒜山演習林林相図 平成11年末現在



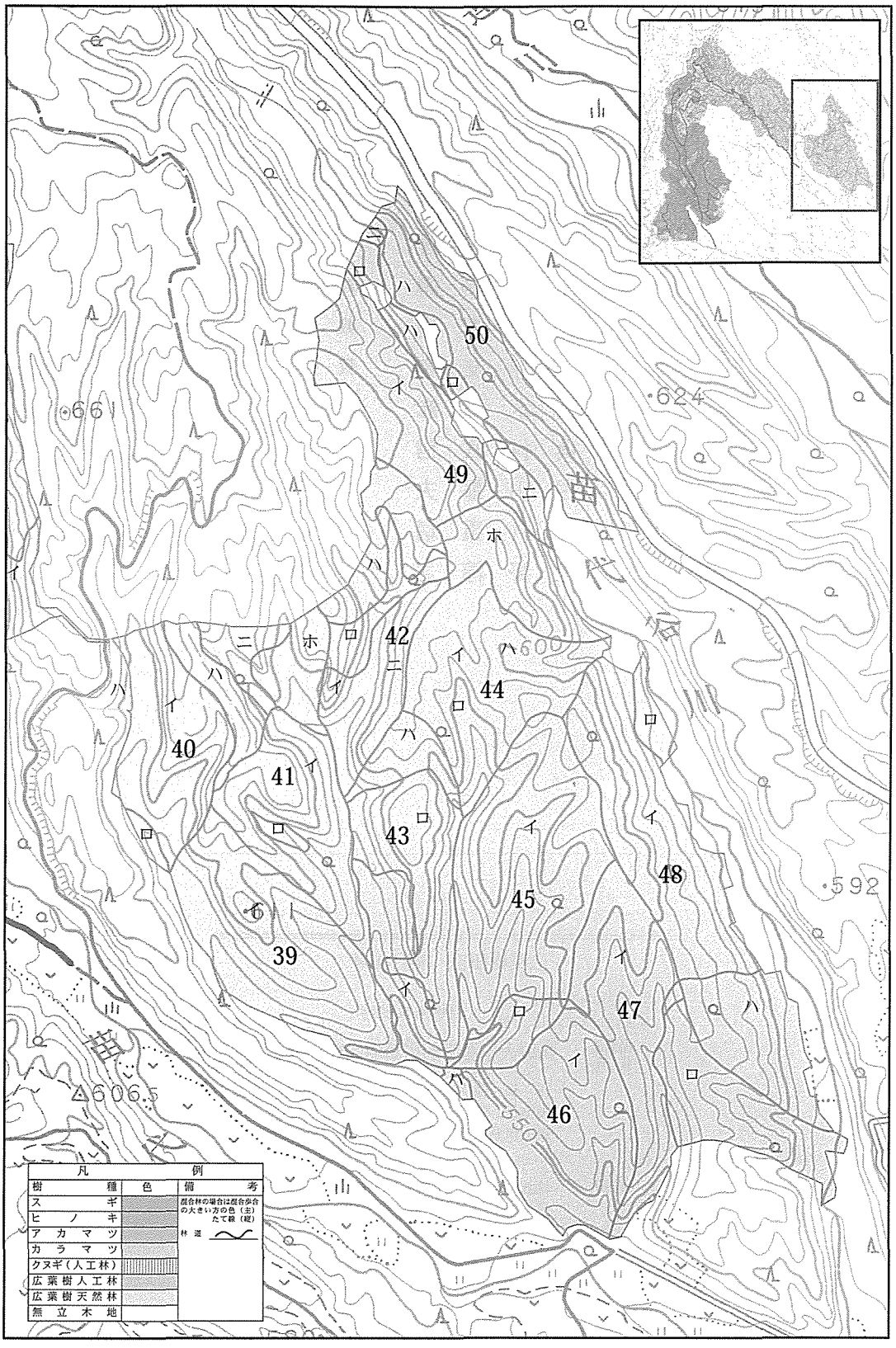
付図4

144 蒜山演習林林相図 平成11年末現在



付図4

蒜山演習林林相図 平成11年末現在



編 集 委 員 会

委員長	藤 井 禧 雄	教 授
	山 本 福 壽	教 授
	黒 川 泰 亨	教 授
	作 野 友 康	教 授
	八 木 俊 彦	教 授
	奥 村 武 信	教 授
	古 川 郁 夫	教 授
	玉 井 重 信	教 授
	佐 野 淳 之	助教授

広葉樹研究　第10号

平成15年3月25日　印刷
平成15年3月25日　発行

〔無断転載を禁ず〕

編集兼発行所　鳥取大学農学部広葉樹開発実験室

室　長　藤井禧雄
副室長　佐野淳之
鳥取市湖山町南4丁目101〔〒680−8553〕
電話（0857）31-5600

印刷所　株式会社 エッグ
鳥取県米子市旗ヶ崎6-5-11